

スタジアム標準

サッカースタジアムの建設・改修にあたってのガイドライン



財団法人 日本サッカー協会

スタジアムが提供すべきもの
それは、ここに来て心から良かったと思えるような感動の時空体験

だからこそ、そこは何度でも訪れたいサッカーの聖地

美しい緑のピッチ
フェアでエキサイティングなゲーム
ぎっしりと埋まったカラフルなスタンド
サポーターたちの歌声と絶え間ない歓声、広がる笑顔
そして感動

人々に感動、そして喜びを与えるサッカースタジアムは
地域のかげがえのない財産になる





サッカーの醍醐味の一つは、やはり興奮が渦巻く「スタジアム」で観戦する生のゲームです。美しい緑のピッチ、フェアでエキサイティングなゲーム、チームカラーに染まった満員のスタンド、サポーターたちの歌声と絶え間ない歓声、広がる笑顔、そして感動。すべてがそこから始まります。そうした喜びを、ひとりでも多くの人と分かち合う環境をつくることこそ、私たちサッカー界の使命だと考えています。

日本サッカー協会は、「JFA2005 年宣言」の中で、2050 年までには、サッカーファミリーが 1000 万人になり、FIFA ワールドカップを日本で開催し、日本代表チームが優勝チームになることを目標に掲げています。そのような中で私たちは、2022 年の FIFA ワールドカップ招致にも立候補しました。日本人のヒューマニティと先端のテクノロジーによって、サッカーの可能性を広げようとする意思を込めて、“Truly Universal”（＝ワールドカップの喜びを真に世界中が分かち合う）というコンセプトを掲げ、取り組んでいます。

サッカーには無限の可能性が 있습니다。私たちは、サッカーを通じて、地域が、そして世界が真の意味で一つになれるものと信じています。地域に魅力溢れるサッカースタジアムがある。それは、世界への架け橋であり、地域のかげがえのない財産になります。

財団法人 日本サッカー協会

会長 犬飼 基昭

本スタジアム標準は、日本サッカー協会が 2002 年に発表した「スタジアム標準」をもとに、FIFA（国際サッカー連盟）が提示した「サッカースタジアム技術的推奨及び要件」を踏まえ、スタジアムのあるべき姿を示したものです。

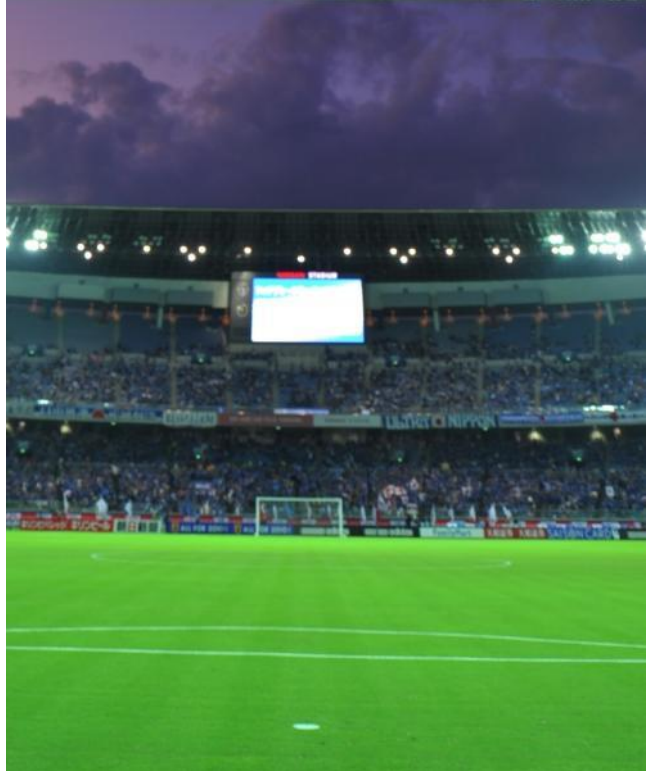
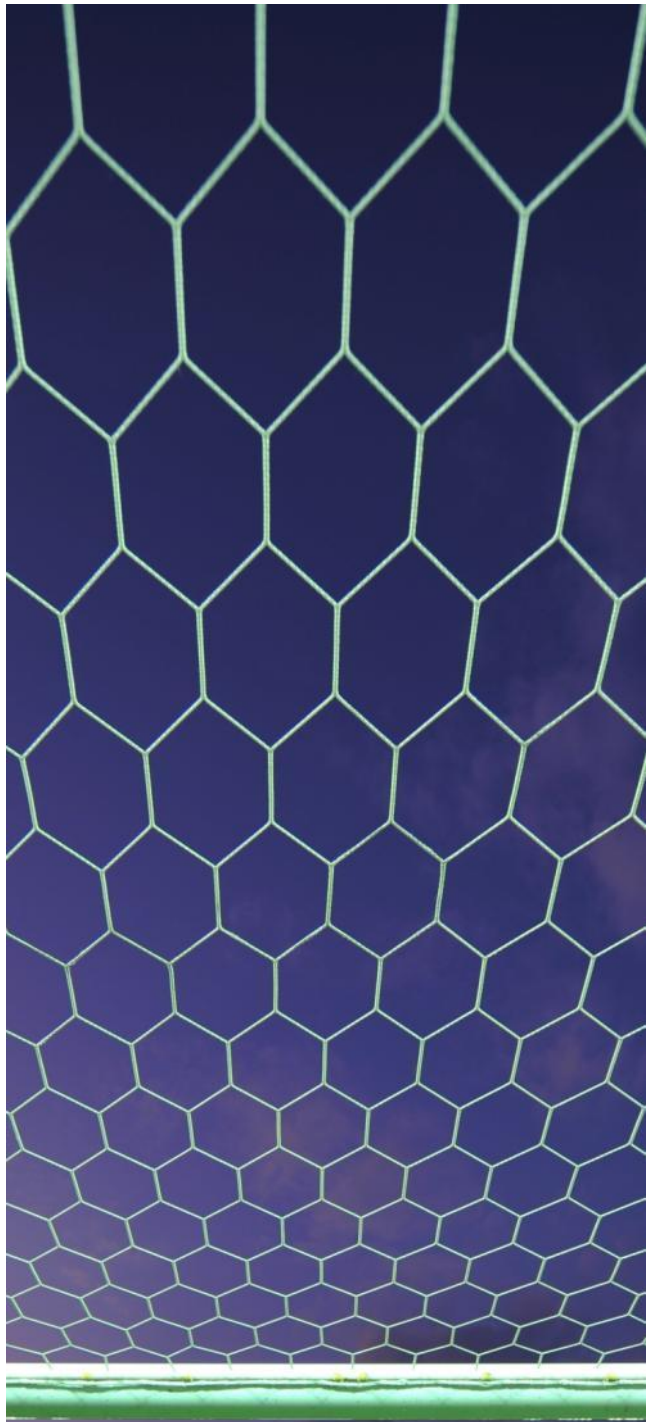
今回の改訂にあたっては、二つの視点があります。ひとつに、“スタジアム・ホスピタリティ”です。スタジアムは、そこでプレーする人ばかりでなく、観戦者、大会等の運営者、管理者、地域住民など、非常に多くの方々に関わりを持ちます。こうした多くの方々の誰にとっても、より愛されるべき“サッカースタジアム”を目指すものです。特に、観客席は冬期においても気持ち良くサッカーを観戦できるようなオールシーズン対応型を目指し、その他に入場ゲート、コンコースの売店・レストランの整備など、観客にとって、これまで以上のより一層のホスピタリティ溢れるサッカースタジアムを目指します。

ふたつめは、“世界標準”。サッカーは世界のスポーツです。2002 年の FIFA ワールドカップの記憶も新しいところですが、各種世界大会を誘致するには、世界を視野に入れた魅力的なスタジアム環境が求められます。それには、スタジアム自体が、時代に応じて、サッカー、スポーツの魅力を最大限に世界中の人々に発信できる機能を有していることが求められます。

本標準は、新しくサッカースタジアムを建設する際の指標になることは勿論、改修など既設のスタジアムを充実させる際に拠り所となることを主眼としています。本標準に沿うかたちで、スタジアムが建設・改修されることで、プレーする選手、観客、試合を運営する関係者、更にはスタジアム周辺の地域住民に対して、サッカーというスポーツのより一層の素晴らしさ、楽しさを提供できることを心より願うものです。

財団法人 日本サッカー協会

施設委員長 佐々木 一樹



第1章	スタジアム建設の基本指針	
1. 1	スタジアムに求められる観戦環境	1
1. 2	スタジアム建設の戦略的判断	3
1. 3	立地条件	5
1. 4	エコ・スタジアム	5
第2章	導入機能と機能配置	
2. 1	スタジアムの諸機能	6
2. 2	安全で効率的な動線	7
2. 3	駐車場の確保	8
2. 4	標準的な機能配置	9
第3章	フィールド関連事項	
3. 1	推奨寸法	12
3. 2	フィールドの向き	12
3. 3	ピッチの状態	13
3. 4	天然芝のピッチ	13
3. 5	人工芝のピッチ	14
3. 6	フィールド内及び周囲の設備	15
3. 7	ピッチへのアクセス	15
第4章	試合関係者関連事項	
4. 1	チーム関係諸室	17
4. 2	運営進行諸室	18
4. 3	その他	20
第5章	メディア関連事項	
5. 1	記者席	22
5. 2	中継用実況放送室	22
5. 3	記者室・記者会見室・ミックスゾーン	23
5. 4	テレビカメラ対応	24
5. 5	スチールカメラ対応	25
第6章	観客関連事項	
6. 1	入退場スペース	26
6. 2	コンコース	26
6. 3	観客席の快適基準	27
6. 4	観客席エリアの分割と諸機能	28
6. 5	観客席への誘導システム	29
6. 6	場内情報システム	30
6. 7	身障者への対応	31
第7章	ホスピタリティ関連事項	
7. 1	VIP・VVIPへの対応	32
7. 2	VIPエリアとVVIPエリア	32
第8章	安全管理関連事項	
8. 1	安全管理責任	34
8. 2	防犯及び暴徒化へのセキュリティ	34
8. 3	フィールドへの観客の乱入阻止	34
8. 4	防災対策	35
8. 5	緊急医療対策	35
8. 6	その他	36
第9章	照明と電力供給	
9. 1	電源	37
9. 2	設備要件	37
9. 3	照明の設計仕様と技術	40
9. 4	環境への影響	40
資料1	諸施設一覧表	41
資料2	Jリーグ・スタジアム検査要項	47
資料3	FIFA World Cup™規定	53

第1章 スタジアム建設の基本指針

サッカースタジアム建設にあたっては、具体的な設計や工事に先立ち、どのようなスタジアムとすべきか、施設環境水準や経済性など事前に検討すべき事項が多くあります。

1. 1 スタジアムに求められる観戦環境

具体的なスタジアムの設計や建設に入る前にスタジアムに求められる環境について、快適性、適合性、安全性の側面から紹介します。

1. 1. 1 快適性

観客にとって「ただサッカーの試合を観戦できればよい」といったスタジアムでは、今日の観客のニーズを満足させることはできません。最低限、寒い冬の季節には、冷たい雨が直接かからないようにしたり、真夏の炎天下から直接の日差しを遮るなどの観客席の快適な観戦環境を提供することが必要です。当然、予算をどれだけ確保できるかによって、スタジアムの規模と快適性は左右されますが、観客に快適な観戦環境を提供できるように配慮することで観客の増加につながります。また、スタジアムでの観戦は、ピッチの臨場感を観客が得るために、ピッチと観客席が近いことが重要です。

①屋根の必要性

観客を覆う屋根は、日本のように雨の多い国において特に重要です。天候に左右されず大会を開催すること、観客が濡れずに観戦できる環境を提供するというような観点から、観客席を100%覆うことが望まれます。

屋根で覆われたスタジアムで大きな問題となるのが、天然芝のピッチを試合に適した条件に維持することが極めて難しい点です。このような屋根と天然芝を解決する一例が、アムステルダム・アレナや、豊田スタジアムのような開閉式ドームです。また札幌ドームは、屋根の付いた移動式天然芝サッカー場です。同様のスタジアムは、他にオランダのヘルレトーム（アーンヘム）、ドイツのヴェルティンス・アリーナ（IFアリーナ・アウフシャルケ）があります。札幌ドームの天然芝サッカー場移動方式（ホヴァリングシステム）は世界初のシステムです。天然芝の養生期間中も、他のイベント会場として利用できるメリットがあります。ただし、こうした解決策を実現するには多額の建設費、さらにピッチの入れ替えにもその都度、多額の費用がかかります。

②トラックの取り扱い

スタジアム内の雰囲気盛り上げ、観客にも試合への参加意識と楽しさを味わってもらえるかどうかは、観客席からピッチまでの距離に大きく左右されます。ピッチの周囲を陸上

競技用トラックで囲まれたスタジアムでは、観客は試合を身近に体験することができません。また、スタンドの傾斜もサッカースタジアムに比べて浅くなり、結果的にスタジアム全体の雰囲気と盛り上がりが大きく損なわれてしまいます。

スタジアムの建設者にとって、設計に陸上競技用トラックを取り入れるかどうかは大きな検討事項です。また、建設要件として、トラックの設置が避けられない場合もあります。しかし、こうしたいわゆる多目的グラウンドが、観客が楽しめるかどうかという極めて重大な点では、サッカー専用に建設されたスタジアムの比較になりません。

スタジアムにトラックを設置するために、さまざまな解決策が考えられてきましたが、その一例がエコスタジアムに見られます。このスタジアムでは、タッチラインに沿って可動式の観客席が設置されています。

ただし、こうした解決策を実現するには多額の費用がかかるため、よほど潤沢な資金がある場合以外は、予算を大きく上回ってしまう場合がほとんどです。

1. 1. 2 適合性

スタジアムが建設されることにより、周辺環境及び住民に及ぼす可能性のある影響について、十分検討の上、できる限りの配慮をし、理解を得ることが重要です。

①周辺環境への適合性

周辺環境へのスタジアムの適合性は、用地を選定する際の重要な検討課題の1つです。多岐にわたる複雑な問題であり、細かな分析を実施する必要があります。新スタジアム建設にあたっては、住宅地域との距離はもっとも慎重を期すべき問題であり、住宅地域に近接する地域にスタジアムを建設することは極力避けるべきです。

新スタジアムの建設で生じる環境問題は、一般に以下のとおりです。

- 一交通量の増加
- 一サポーターの往来による喧騒
- 一イベントによる騒音
- 一照明による光害
- 一試合開催時以外の閑散化

上記の問題のほとんどは、適切な分析、設計、運営管理を実施することで、近隣住民に納得してもらえレベルまで緩和することができます。例えば、試合開催時の観客の動線計画の策定、アクセスエリアの設定、騒音と漏れ光を防ぐ隔壁の

Japan Football Association Stadium guideline

設置、高さ抑制のための掘り下げた場所への建設、試合開催時以外でのイベント利用などを実施することです。

低木や灌木を植えたり、色鮮やかな花壇を作ったりするなど、敷地内や周辺の整備を進めることも、スタジアム利用者と地域住民の両者にとって美観上大きな利益となります。用地の緑化は、スタジアムが環境と近隣住民を尊重した施設であるという理解と認識を高める結果につながります。その他、スタジアムの地下水位、フィールドの水はけに対する近隣の川や湖の影響も検討すべき課題です。

②地域社会との関係

新たなスタジアムを建設もしくは既存のスタジアムを改築する際には、地域社会との関係を熟慮しなければなりません。地域の代表者、環境グループ、地元サッカー協会などと早期に接触し、話し合いの場を設ける必要があります。適切なコミュニケーションを実施することで、新スタジアムは地域に根ざした有意義な施設となるはずですが、例えば、地域住民が集える場所を併設することにより、地域全体の快適な社会生活に寄与することが可能になります。

スタジアムは、地域社会が共有する財産であることを十分認識する必要があります。

新スタジアムの建設が地域にもたらす利益としては、以下のように、数多く挙げられます。

一 質の高いスポーツイベントと娯楽イベントが手軽に楽しめる。

一 施設の建設と運営にかかわる雇用が創出される。

一 スタジアム来場者により、店舗、レストラン、ホテルなどの利用が増え、地域経済の活性化につながる。

一 地域住民が利用できるジム、フィットネスルーム、スイミングプール、託児所、集会場、会議室、飲食売店、文化施設、福祉施設などがスタジアム内に設置されることもある。

一 スタジアムでのイベント開催を積極的に推進することで、地域の知名度が大幅に向上する。

一 スタジアムとしての独自の価値と魅力的なイベント開催により、地域に誇りが生まれる。

以上の利益はどれも、地域住民の生活の質の向上につながるものです。地域の日常生活に根ざしたスタジアムを実現するだけでなく、スタジアムの施設運営上も財政的安定をもたらす要因となります。

1. 1. 3 安全性

スタジアムの計画においては、いかなる状況においても、観客、選手、大会関係者など施設利用に関係する全ての人々の安全を確保することが最優先されます。

①震災・火災等

地震、火災等の災害に対する建設基準と避難等の対応が必要です。

特にわが国は地震大国として、震災対策が重要であることはいうまでもありません。現にスタジアムの多くが都市公園内に建設されていることもあり、広域避難施設、防災拠点として位置づけられています。当然、一般の施設より、安全に留意したものとなっており、諸外国のように、施設の構造に対する条件を改めて明文化しませんが、観戦中の震災、災害に対する情報の提供システム、安全な避難誘導に留意する必要があります。

②緊急医療

スタジアムは、数万の人々が集まる施設であるため、観客の中から、様々な急患が発生するものと予測されます。そのために、緊急医療体制として、医師や救急救命士などの医療スタッフ、医療設備・機器の設置が必要とされます。同時に、救援のための担架、ストレッチャー、緊急車両等の動線確保にも、留意した施設計画が必要です。

③観客の暴徒化

諸外国においては、第一に熱狂的なサポーターが暴徒化することに対する安全確保があげられます。興奮した観客がフィールドへ入り込む、自陣の観客席で騒ぎ、器物・施設を破壊する、他人への危害におよぶなどが想定されます。したがって、これらを未然に防ぐことが必要とされます。

こうした観客から選手を守る対策としては、観客がフィールドに乱入できないように、フィールドと観客席の間に何らかの隔離方法を導入するのが一般的でした。しかし、観客席とフィールドの隔離は、観戦の快適性を損なうだけでなく、観客の避難経路として、フィールドを活用する妨げともなります。また、サポーター間の乱闘対策としては、観客席のエリアに緩衝地帯を設けたり、柵等で分断し、ホームとアウェイの観客の直接的な接触を排除するなどが一般的です。

観客の暴徒化は、諸外国において安全対策の第一要素となっていますが、わが国では極端な破壊行為を行うような暴徒

化はあまり見られません。

このような状況を踏まえ、具体的な対策の導入には、地元警察、消防等との協議により、適切な方法を決定してください。

1. 2 スタジアム建設の戦略的判断

スタジアムが急速に変化する市場のニーズに対応していくには、立地条件、収容規模、設計、環境への影響など、建設に先立って決定すべき重要な事項があります。

1. 2. 1 予算と施設水準

どれだけの予算を確保できるかが常に新スタジアムの規模と快適性を左右するとはいえ、スタジアムの計画に際しては、その初期段階で検討すべき基本的な課題があります。

予算に制限がある場合でも、一時的な目的にかなった基本的なスタジアムであれば建設は可能です。ただし、全体的な構造が将来の改修に耐え、ニーズの増加にあわせて、費用効率の優れた方法で改善できるものであるかどうか、という点に注意を払う必要があります。

こうした例としては、次のようなものが考えられます。

- フィールドが見やすく、サービス施設にアクセスしやすい場所に、新たに客席スタンドやスカイボックスを将来的に設置できるかどうか。
- 将来的に大型映像装置を設置する場合、観客席を削ることなく設置可能であるかどうか。
- 屋根を設置しない場合は、外壁と隣接エリアが将来的な屋根の増設に耐え得るものであるかどうか。
- スタジアムの設計者は、将来的な改築において、巨額の改修を必要とする大規模な構造工事を施さずに済むスタジアムの建設をあらかじめ想定しておくべきです。

1. 2. 2 事業主体と運営主体

わが国のサッカースタジアムの多くは、都市公園施設として公的な機関が事業主体となっているケースが多くみられます。当然事業手法も、都市公園事業として、補助事業が導入されることとなります。都市公園事業であるが故に、地元自治体が建設主体で、国の補助基準などによって、施設の整備水準や予算枠まで束縛されます。

この弊害は、利用者不在の施設計画になりがちになること

です。使いやすい、運営しやすい、管理しやすい施設を計画するためには、建設者（事業主体）及び設計者は、スタジアムを利用する組織、管理する組織と十分、協議してください。

Jリーグ試合開催のスタジアムとして利用する施設である場合には、施設計画の段階から利用者となるJリーグのクラブや地元のサッカー協会と協議してください。さらに、国際試合開催を望むのであれば、FIFAの指針をクリアすることが必要になります（53頁以降を参照）。

建設や施設管理において、近年では、PFIや指定管理者制度などの導入によって、サッカー関係機関が建設や管理に直接関わることが増えています。この傾向は今後さらに高まるものと考えられますし、建設と管理運営の一元化、または連携強化されることは、スタジアム建設・管理・運営の側面から好ましいことです。

Japan Football Association Stadium guideline

1. 2. 3 対象試合とスタジアムのクラス分け

開催試合に対応したスタジアムのクラスを表1-1のように分類します。

1. 2. 4 収容人数（規模）

スタジアムの規模設定にあたって、敷地条件や財源規模などの制限を受けることとなります。

まず、スタジアムを使用する地元クラブのニーズに対応するだけで十分か、あるいは国際試合など、より高いレベルの試合の誘致を想定しておくべきかなど収容人数について検討してください。一般にクラブ側は、新しくて明るい、清潔で快適なスタジアムが建設されることによって、観客数が大幅に増加するものと期待します。こうした状況下では、例えば、通常 20,000 人を集客しているクラブであれば、30,000 人規模のスタジアムの建設を想定しますし、場合によっては、40,000 人近い規模のスタジアムの建設を望むかもしれません。

スタジアムの最適なキャパシティを決定するのに決まった方式はありませんが、以上のような条件は、建設側にとって最適な決定要因となるはずですが。

Jリーグの試合開催を前提とするスタジアムは、ディビジョン1（J1）はクラス1に該当（既設の場合 15,000 人以上）し、ディビジョン2（J2）はクラス2に該当（既設の場合 10,000 人以上）します。

1. 2. 5 初期投資（建設コスト）とランニングコスト（維持管理コスト）

わが国では、スタジアムに限らず、公共施設に関し、建設と運営をトータルで考えるような施設管理の概念が欠如しています。その結果として、管理運営コストを抑制するような施設計画となっていないケースも多く見られます。建設計画立案にあたっては、施設の運営者・利用者と建設者が十分に協議し、建設費と管理費をトータルで検討し、経済性に優れたものとしてください。

技術的な進歩の度合いと、豪華で快適な施設を求める観客の声が急速に高まっている現状を考えれば、現在のスタジアムの平均寿命は構造物としての耐用年数に関係なく、短くなると考えられます。したがって、スタジアムの建設者と設計者は巨額の投資を行う前に、計画するスタジアムが将来にわたって観客のニーズに本当に応え得るものになるかどうかを真摯に検討する必要があります。

表1-1 クラス別分類

クラス	対 象	
	主催	国内大会(リーグ)
クラスS	FIFA AFC JFA	FIFA クラブワールドカップ AFC チャンピオンズリーグ(決勝トーナメント) 日本代表(A, OP)公式試合 日本代表(A, OP)親善試合 Jリーグディビジョン1 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会(決勝) 全日本女子サッカー選手権大会(決勝)
クラス1	AFC JFA	AFC チャンピオンズリーグ 日本代表(OP, U20, U-17)公式試合 日本代表(OP, U20, U-17)親善試合 Jリーグディビジョン1 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(3回戦～準々決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会(準決勝・決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会(決勝) 全日本女子サッカー選手権大会(決勝)
クラス2	JFA	日本代表(U20, U17)公式試合 日本代表(U20, U17)親善試合 Jリーグディビジョン2 天皇杯全日本サッカー選手権大会(3回戦～準々決勝) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 全日本女子サッカー選手権大会 地域リーグ決勝大会
クラス3	JFA	日本代表(U17)公式試合 日本代表(U17)親善試合 天皇杯全日本サッカー選手権大会(1回戦～3回戦) 高円宮杯全日本ユース(U-18)サッカー選手権大会 高円宮杯全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 全日本女子サッカー選手権大会 日本フットボールリーグ(JFL) 日本女子サッカーリーグ(Lリーグ)
クラス4	JFA 地域主催大会 都道府県大会	地域リーグ決勝大会 2次リーグ 地域リーグ決勝大会 1次リーグ 日本フットボールリーグ(JFL) 日本女子サッカーリーグ(Lリーグ) 各種別大会決勝

表1-2 クラス別収容規模（新設の場合）

クラス	収容人員規模
クラスS	40,000人以上
クラス1	20,000～40,000人
クラス2	15,000～20,000人
クラス3	5,000～15,000人
クラス4	～5,000人

Japan Football Association Stadium guideline

また、スタジアムを設計する上で注意すべきことは、建設後のメンテナンス、掃除、管理、試合開催などの作業、運営ができるだけ簡単で分かりやすい方法で効率的に行えるようにすることが重要です。一般に建設費数十億円という言葉が一人歩きしますが、清掃費、光熱費、芝の管理、修繕費など建設後の管理運営のランニングコストは毎年必要ですし、金額的にも建設費の数倍に達します。したがって、ランニングコストの抑制、削減を念頭に置いた施設計画、設計が重要であり、イニシャルコストとランニングコストのトータルを前提とした施設計画、管理計画が重要です。

1. 3 立地条件

スタジアムを新たに建設する場合には、ニーズや将来動向を踏まえ、建設すべきスタジアムの諸機能やその規模を検討し、それに合った建設場所を選定することから始まります。はじめから都市公園内などの場所に候補地が特定されていない場合には、スタジアムの特徴を踏まえ、広域的な条件、敷地的な条件から適地を選定することが重要です。適地選定にあたっては専門機関へ調査依頼することをお勧めします。

1. 3. 1 広域立地条件

スタジアムは広い面積を必要としますので、新設の場合には郊外になることが一般的です。

候補地が郊外であればあるほど、公共交通機関の駅等から離れた場所であればあるほど、必要となる駐車場面積は大きくなります。こうした条件下では、主要幹線道路や高速道路への便利なアクセス経路を複数確保することが必須となります。

また、スタジアムの特性から、試合やイベントの開催時には、数万人規模の人が集中します。結果として、大きな歓声や照明の周囲への漏れ（スカイグロー）、交通渋滞など周辺地域に影響がでますので住宅地から離れた場所が適しています。

究極の理想的な立地条件とは、都市の中心部にあり、公共交通機関や主要幹線道路、高速道路からのアクセスも良好で、試合開催日以外にも使用できる駐車場が確保できる、十分な広さをもった場所だと考えられます。このような場所であれば、大規模な駐車場がありながら、年間わずか数百時間しか利用されないといった効率性の問題も解消されます。また、国際試合の誘致を望むのであれば、ホテルや商業地区が近接

し、最低 1 つの国際空港から快適にアクセスできなければ、試合開催者にとって魅力的な候補地とはなりません。

郊外部におけるスタジアム建設の場合には、都市計画法や建築基準法、農地法、森林法、自然公園法など土地利用に対する様々な法令の網が掛かっています。関係法令の適性から候補地を絞り込む手法も適地スクリーニングの方法として適しています。

1. 3. 2 敷地条件

スタジアムの立地条件としては、広く安全な屋外の動線エリア（活動エリア）とサービス車両用の駐車スペース、各種施設の立地スペースなどを確保できる十分な面積が必要となります。一般に、観客のスタジアムへの入場は長い時間にわたって分散します。そのため、入場ゲート付近で過度に混雑することはありませんが、試合終了時には大勢の観客が一斉にスタジアムから退場しようとするので、十分なゆとりのある広いスペースを確保しなければなりません。なお、ホーム側ゴール裏の自由席入場口には、開場前から大勢のサポーターが集まりますので、その待機スペースを確保することも必要です。この待機スペースは退場の際の緩衝スペースにもなります。

その他、スタジアムの外部に十分なスペースを設けておけば、将来的な拡張や再開発に対応することができます。

広大な用地が確保できないと、予期せぬ開発要件に対応できなくなってしまう。

1. 4 エコ・スタジアム

スタジアムを建設・改修する上で欠かせない観点が環境への配慮です。特に近年では、太陽光発電等の自然エネルギーの利用や、廃棄物の熱源利用等によるゼロエミッションに向けた取り組みもみられます。

FIFA ワールドカップでも、2006 年のドイツ大会では、史上初の CO₂ゼロエミッションを目指して「グリーンゴール」という環境コンセプトが掲げられ、各スタジアムや交通機関で対策が取られました。

大会時におけるこのような対策は、スタジアムが持つ機能に加え、アクセスや周辺環境を含めた立地条件にも、大きく左右されます。建設・改修当時から、環境に優しいスタジアムに向けて、戦略的に計画して下さい。

第2章 導入機能と機能配置

諸室、諸設備の計画条件を提示する前にスタジアムとして、必要とされる機能や機能の関連性を把握することが必要です。

2.1 スタジアムの諸機能

スタジアムの設計にあたっては、どのような諸室、設備、システムなどが必要になるのか、基本的な機能を把握することから始まります。

2.1.1 必要とされる機能の大別

スタジアムに必要とされる機能を以下の7つに大別します。

①フィールド関連

サッカーの試合を行うフィールドは、試合を行う芝のピッチエリア、また、選手等の安全を確保するため、観客のフィールドへの乱入を抑える工夫、設備などが必要です。

②試合関係者関連

試合関係者に関連した機能としては、選手などチームの利用する諸室・設備、大会を運営・進行・管理に関わる関係者の諸室・設備などがあります。大会のレベルによって、必要とする諸室も大幅に変わります。想定する試合に対応した諸室スペースの確保が重要です。

③メディア関連

サッカーの興業としては、テレビ・ラジオなどの放送が大きな収入源になります。また、サッカーの人気を支える情報発信として新聞・雑誌などの各種のメディアは重要です。これらメディアを受け入れる諸室や彼らの活動に必要な設備を提供することが重要です。なお、情報メディアの技術は日進月歩ですので、技術動向を十分とらえて、無駄のない設備計画を行うことが重要です。

メディア関係者の人数は、大会のレベルによって、極端に異なります。想定する試合に対応できるメディア関係者の控えスペースの確保が重要です。

④観客関連

開場の数時間前から、ゴール裏スタンドに詰め掛ける熱狂的なサポーターが行列をなします。そのための待機スペースの確保は重要です。この待機スペースは、退場時の一斉退場の際の緩衝スペースにもなります。また、この待機スペースの近くには、場外のトイレも必要です。

観客席や動線計画において、健常者だけでなく、身障者も普通に観戦できるように配慮することが必要です。また、観

戦を盛り上げる音響設備、大型映像装置など観戦に関連する設備、機材などが必要です。

⑤ホスピタリティ関連

諸外国では、ホスピタリティが大きな収益事業となっていますが、わが国は、未だそういったサッカー文化はそれほど根付いていません。このような状況から、VIP席などホスピタリティ施設を極端に多くすることで、収益性が悪化しないよう、十分マーケットを把握した上で、施設計画に反映することが必要です。

⑥電力・照明等設備関連

観戦しやすく、さらにはテレビ放映に適した照明設備、これを安定的に支える電源供給などがあります。

⑦通信及びその他

その他の機能としては、通信設備、その他の諸室などがあります。

2.1.2 導入すべき機能のクラス別必要性

2.1.1であげた必要とされる機能等の分類に従い、スタジアムの試合開催レベルに対応した具体的な諸室、設備、システムについて、クラス別の必要性を整理したものを、本書の最後に資料としてまとめていますので、ご参照ください。

2. 2 安全で効率的な動線

施設計画において、機能の配置は、人、モノの動き・流れを単純化し、輻輳を排除するように計画してください。これにより、運営管理がしやすくなりまし、安全管理面からも効果的です。

一般観客の動線とチームバス、関係車両、救急車などが輻輳せずにアクセスできる安全な専用エリアを設けてください。

2. 2. 1 観客の動線

観客のスタジアムへのアクセスは、地下鉄なども含めた鉄道、バス、自動車、自転車、徒歩などがあります。郊外立地で公共交通が整備されていない場合には、自動車への依存が高くなり、幹線道路へのアクセスや駐車スペースの確保が重要となります。一時的に数万の人々の集まるスタジアムでは、大量輸送が可能な鉄道などの公共交通手段が充実している場所が適地と考えられます。一般に鉄道駅からスタジアムへは徒歩となりますが、スタジアムが駅から遠い場合には、さらにシャトルバスなどで補完することもあります。鉄道駅、バスターミナル・バス停、駐車場から、観客は徒歩でスタジアムにアクセスします。歩行者の動線については、歩行路の十分な幅員、サイン看板、照明等、安全で快適で分かりやすいものにすることが必要です。

スタジアムは、その外周が美観を損なわないような壁やフェンスで囲われていることが望まれます。観客のスタジアムへの入場に際しては、入場ゲートでチケットの確認を行います。試合のセキュリティレベルに応じて、この地点で手荷物検査等を同時に実施することを想定しておかなくてはなりません。したがって、入場ゲートの形状はもちろんのこと、入場前の観客の滞留スペース、入場ゲート近くの照明、放送システム、電源の確保等に十分な配慮が必要となります。また、この第1回目の入場ゲートの手前には入場券売場を設置してください。入場券売場の窓口周辺は、チケット購入者が濡れないように屋根を設け、また、財布からのお金の出し入れに支障がないように手元を照らす照明設備を設置してください。

なお、ホーム側スタンド席へ熱狂的なサポーターが席を確保するため、開場時間前から長蛇の列ができることがあります。これに対応した待機スペースと待機列を整理するための動線確保が必要です。観客の立場に立ち、雨でも濡れない待機スペースが設けられると、一層良い環境が提供できます。

この待機スペースは、退場時の一斉混雑の緩和にも役立ちます。また、試合が開催されない日に、このスペースを開放することができれば、スタジアムが地域住民の集う場となります。このスペースはスタジアム外として扱われがちですが、スタジアムの一部として、独立して場内放送ができるようにしてください。また、スタジアムへの入場前の待機者の整理のため、埋め込み式のバリカーなどを常備することで、その都度の設営作業、誘導時の警備員、誘導員を減らすことが可能です。

また、各セクションへの入場人員をより正確に把握するという観点から、ターンスタイルの入場ゲートの設置など入場者数を正確にカウントできる仕組みの導入が望まれます。観客の混雑により、転倒や衝突といった事態を避けるために、入場ゲート付近には十分な配慮が必要です。各入場ゲートに、観客がスムーズに入って行けるように誘導のためのバリア等を設けることも、一つの方法です。入場は、観客1人ずつが通行できるような対応が必要です。

また、退出時に使用する出口は、一時に複数の観客が通過できるような十分な幅を設けることが必要になります。一般入退場口に観客が殺到しないように、事前に予防措置を講じる必要があります。フェンスなどを設置して、観客を入退場口にスムーズに誘導するやり方も考えられます。入場時は、主なアクセスポイントをすべて入場口として使用してください。数か所の指定ポイントのみを退場口として使用し、退場口であることをわかりやすく表示します。退場時は全てのアクセスポイントを退場口として使用してください。試合中に関しては、入退場のバランスを考えて、それぞれポイントを設けてください。

2. 2. 2 選手・審判員の動線

選手・審判員のスタジアムへの動線については、周辺の道路渋滞に巻き込まれずにスタジアムに入退場できなくてはなりません。場内ではチーム用の大型バスを駐車でき、一般観客から隔離され、しかも保護されているエリアが確保されることが必要です。そこで選手はバスを降り、一般の観客の視界にはいることなく、安全にチーム更衣室に出入りできる動線の確保が必要です。チームバスでアクセスする動線は、一般観客の動線と分離してください。大きなスタジアムでは、地階と一階のように立体的に分離することをお勧めします。

チームバス・用具車の専用入口から更衣室までの経路には、人が乗せた担架や用具一式などが台車で運搬できる十分

Japan Football Association Stadium guideline

な広さを確保してください。各更衣室、緊急車両駐車場、フィールド間についても、けが人を載せた担架を運び出しやすいように、階段、段差、急なカーブ、行き止まりなどのない経路を確保してください。

チーム更衣室及び審判更衣室からは、報道関係者と分離されたそれぞれ専用の廊下を通してピッチへ出られるのが理想的な形と言えるでしょう。また、これらの廊下は、ピッチへの出口直前で合流し、一本の廊下になっても構いません。スタジアムの構造上の問題から、廊下を共用しなければならない場合は、選手が入退場する際は十分な幅を確保することが必要になります。これらの動線上で、一般観客や報道関係者が選手及び大会関係者に接触することは避けねばなりません。

2. 2. 3 VIPの動線

VIPのスタジアムへのアクセス経路には、一般観客が進入することのない、セキュリティレベルの高い経路を指定してください。VIPの乗った車には、警備車両が付いてメインスタンド下の専用のVIP用駐車場に直接、乗り入れられることを想定してください。

VIP入場エリアには、一般入場口とは離れた場所に専用のVIP入口を設けます。入口からは、VIP受付を通して直接、観戦エリアに向かうことができます。安全なエリアを通る代替アクセス経路も用意してください。その他、使節団やオブザーバーなどが更衣室を訪れる必要がある場合に、VIPエリアからまっすぐ安全に更衣室へ向かえるように配慮してください。

2. 2. 4 メディアの動線

スタジアム内については、メディア関係者がメディアの作業ルーム、記者席、記者会見室、テレビとラジオ用の中継用実況放送室、ミックスゾーン、ピッチなどの各メディアの作業エリアを簡単に行き来できるように配慮してください。メディア関係者の機材の搬入出も考慮し、設計してください。床の表面材を選択する際は、メディアエリア間の機材運搬が簡単に行えるように配慮してください。

2. 2. 5 運営関係者の動線

国際試合やJリーグなどのサッカーの試合には、運営、セキュリティ、ボランティア、アウェイスタッフ、スタジアムマネージャー、マッチコミッショナー、レフェリーアセッサーなど、様々な運営関係者が携わります。運営関係者が使用する

運営本部室は、メインスタンド側のピッチへのアクセスにも優れた場所に設置し、スタジアムへのアクセス経路も一般観客とは別のアクセス動線を確保して下さい。

2. 2. 6 飲食売店等の荷物搬入出の動線

試合開催時のコンコースにおける飲食売店やグッズ売店等の付帯施設への荷物の搬入出のための動線を確保して下さい。場合によっては、コンコースに移動販売などの車両が簡単に出入りできる工夫も効果的です。

2. 2. 7 ゴミ動線

試合開催時には観客席を中心に大量のゴミが発生します。容量の大きなゴミ箱を十分な数設置することはもとより、飲み残しの飲料を含め、それらの収集の計画や清掃の仕方を十分に考慮し、管理のしやすいスタジアムにすることが重要です。試合中も蓄積したゴミ袋を取り換え、いつも清潔なスタジアムであることが、一般観客にとっての大切なホスピタリティです。

2. 2. 8 その他

大会によっては大規模な設営が必要になることがあるため、大型のトラックが進入する可能性があることも想定すべきです。救急車や消防車を含む緊急車両がピッチまでアクセスできるように配慮も必要です。

2. 3 駐車場の確保

2. 3. 1 一般用及び車椅子用駐車場

駐車場は、できるだけ観客が直接スタジアムへ入場できるスタジアム敷地内に設置してください。スタジアム周辺の各駐車場には、明るい照明とわかりやすいサイン看板を設置し、エリア番号やエリア名を表示してください。

駐車場への出入りが素早くスムーズに行われるように配慮し、最寄りの幹線道路に直接通じる経路を確保する必要があります。一般用駐車場と団体バス駐車場の位置は、両チームのサポーターがそれぞれ別の駐車場を利用できるように配置してください。敷地内に十分な一般用駐車場を設置できない場合は、歩ける距離に駐車場を確保してください。一般用駐車場の配置計画については、地域の関係当局と協議してください。

Japan Football Association Stadium guideline

車椅子用駐車場は、入場口周辺に確保し、入場にあたっては身障者用誘導経路と関連させてください。また、誘導スタッフが直接対応できるようにしてください。

2. 3. 2 メディア関係者のアクセスと駐車場

スタジアムの周囲にメディア入口を用意し、取材許可手続きやメディアに対する情報提供などを行うメディア受付を設置してください。

①メディア用

メディア用駐車場は、一般用駐車場とは離れた、メディアの作業エリアにできるだけ近い場所に配置してください。できる限り取材を許可された全員が駐車できるだけのスペースを確保することが理想的です。特にカメラマンは重量のある機材を運ばねばならない点に留意すべきです。駐車スペースの確保が不可能な場合でも、機材搬入の場合のみ車両の一時の乗り入れを認める等の対応がなされるべきです。

②テレビ、ラジオ放送用

放送局の担当スタッフと相談の上、重量のある中継車用の駐車スペースを確保してください。このスペースは、重量に耐えられるように地盤を補強してください。また、各局の中継車用に十分な広さが必要です。同時に放送用のスタッフの車両等もスタジアム内に駐車できるようにする必要があります。放送関連諸室に近接する位置、ケーブルの敷設に問題のない場所に設置してください。中継車エリア内の安全を確保し、中継に支障がないようにバックアップを備えた電源も確保してください。中継車エリアに隣接する屋外の、南の空が見渡せる場所に、衛星車（可搬地上局：TES）用のエリアを確保してください。このエリアにも、中継車エリアと同じ電源から電力供給を行ってください。

2. 3. 3 その他の駐車場

①ホスピタリティ用

ホスピタリティパーキングの設置は、特にマーケティングプログラムの一環として重要となります。VIP入口の付近に位置し、一般用駐車場とは区別されていることが必要です。同時にVIP席数に応じた十分なスペースを確保しなければならず、スタジアム敷地内に設定されることが望まれます。運転手付きの車が多数来場することを想定し、車を呼び出すための簡易放送システムが設置されていると良いでしょう。

②チーム、試合関係者、スタジアムスタッフ用

少なくとも大型バス2台、乗用車3~4台分のスペースが必要です。さらに言えば1日に2試合連続で開催されることを想定し、大型バス4台分のスペースが確保されることが望まれます。安全面からは、チーム用駐車場は、更衣室のすぐ外側に設置するのがよいでしょう。選手と試合関係者がスタジアムに到着した後、一般観客と接触せずに更衣室に直接入ることができるように配慮してください。

③緊急車両用

警察、消防、救急車等の緊急車両用として、スタジアム内に設定される必要があります。これらの駐車スペースからは、スタジアム内部及びピッチレベルに直接アクセスでき、同時に一般観客用の動線から隔離されている必要があります。

④スタジアムのサービススタッフ用

スタジアム内部に位置することが望まれますが、近接する場所でも構いません。スタジアムで働くスタッフのために十分な駐車スペースを確保しておくことは大切なことです。但し、大型の設備物を搬入する車両、ケータリング搬入車両等、特別な目的を有する車両用として、スタジアム内部、とりわけ搬入口に近い場所にサービス車両駐車場が確保されなければなりません。特に、夏季の飲食には保冷車が必要となることを考慮してください。

2. 4 標準的な機能配置

2. 4. 1 機能間の関連性

2. 2及び2. 3で示した動線、交通エリアの考え方を機能関連図としてまとめたものが、図2-1です。諸機能は大別したものとなっていますが、このレベルで分離した配置を検討してください。そうすれば、各関係者の動線が重なることを抑えることが可能です。

Japan Football Association Stadium guideline

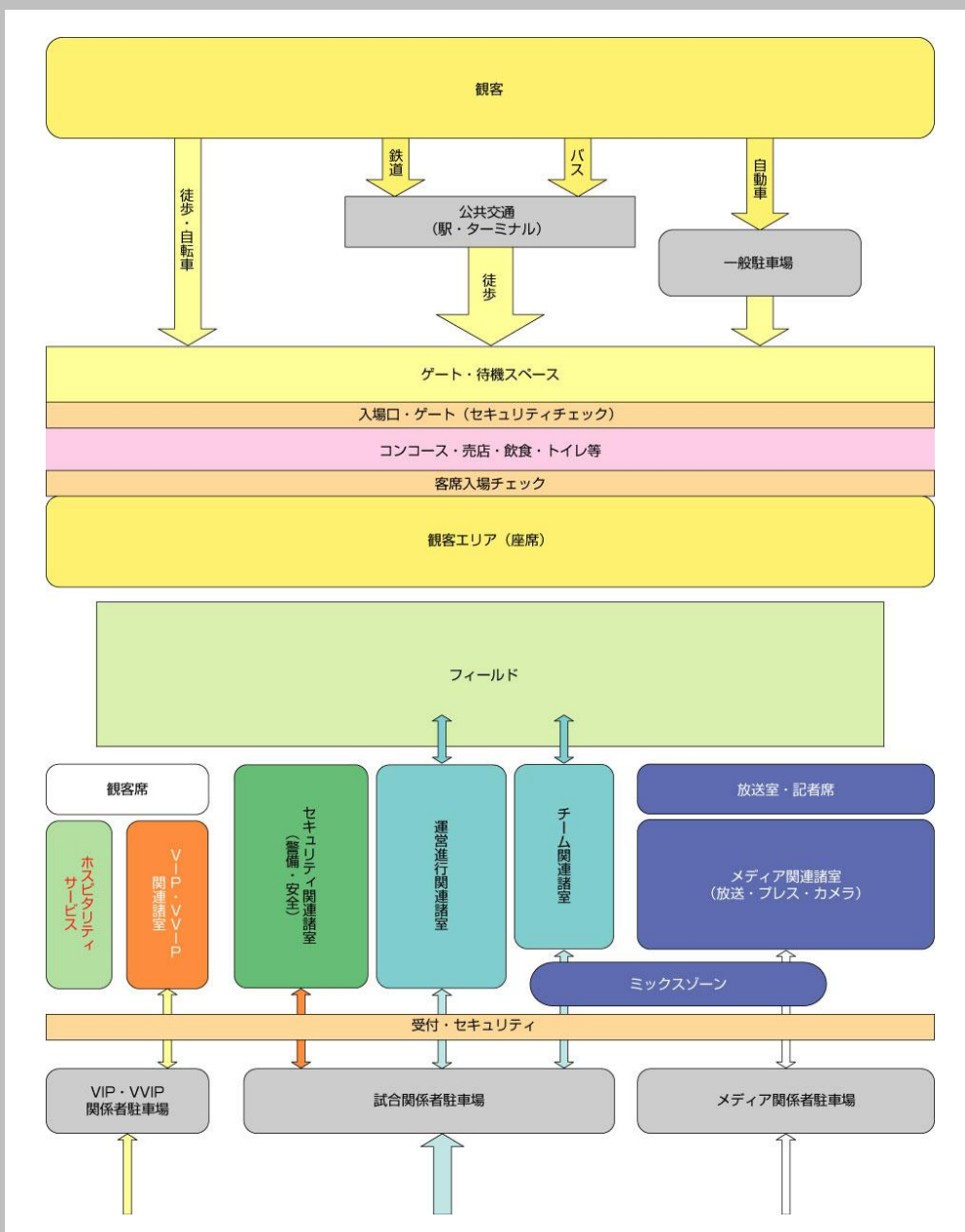


図 2-1 スタジアムの諸機能の関連性 (機能配置と主要な動線)

Japan Football Association Stadium guideline

スタジアム諸機能配置イメージ

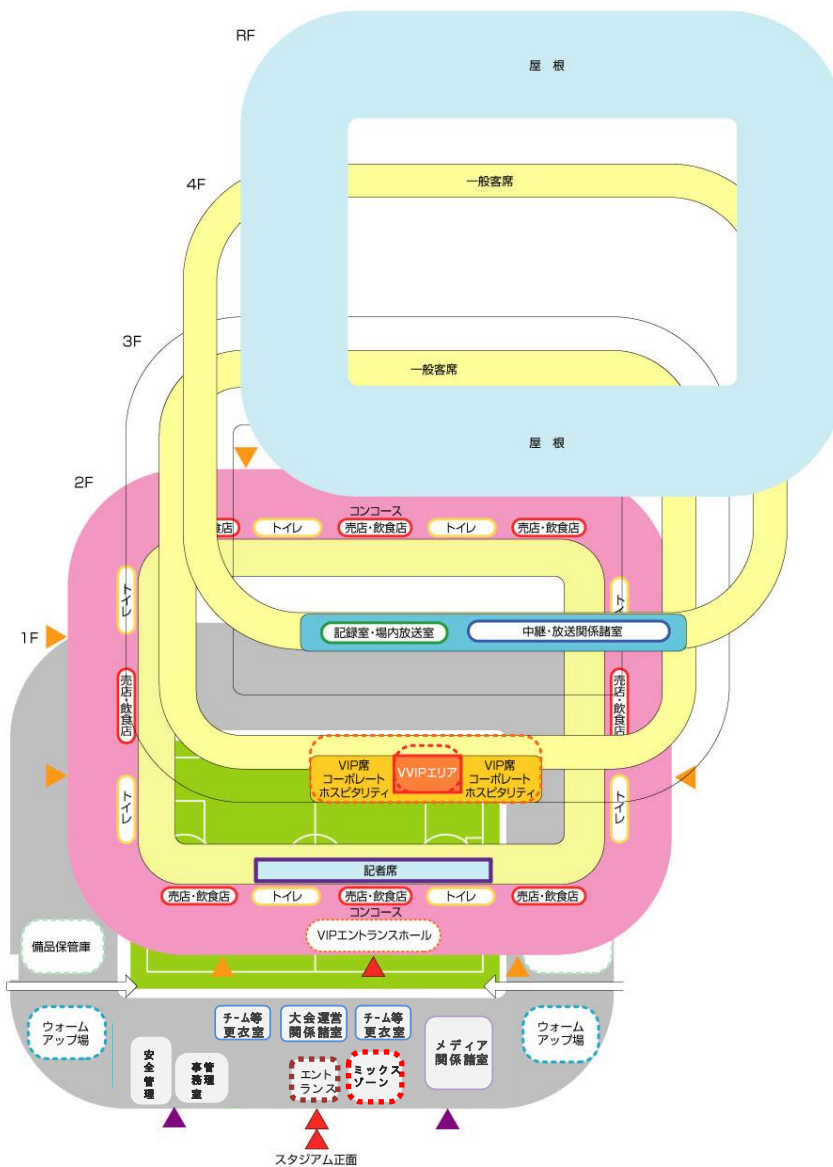


図 2-2 スタジアム諸機能配置イメージ

第3章 フィールド関連事項

フィールドは、選手、試合関係者、観客、そしてテレビ視聴者にとって最も重要な場所です。ピッチの種類、選手と観客との一体感の創出など、フィールドに関する基本的な判断が求められます。

3. 1 推奨寸法

3. 1. 1 ピッチ

JFAの主催する大会では原則ピッチサイズ105m×68mとしています。但し大会規定により特に定める場合はこの限りではありません。また、芝生のサイズは、クラス別、専用・多目的の別により、定める寸法は異なります。

芝面のサイズは、開催試合に対応したクラスを基本に、ピッチのサイズと陸上トラックの有無から決定してください。JFAでは表3-1に示すサイズを条件としています。

陸上競技兼用のスタジアムにおいては、芝生エリアの端と陸上走路との接点部分は段差がないスムーズな状態になっていることが必要です。これは、選手・レフェリー、または陸上走路を使用している人々の安全を確保するためです。

また、フィールド内には、そこに入る選手及び関係者に危険が及ぶ可能性がある危険物や障害物を設置しないでください(フィールドマーキング資材など)。特に注意が必要なのは各コーナーです。十分な助走をとって、コーナーキックを蹴ることができるスペースを確保してください。

3. 1. 2 フィールドの大きさ

ピッチの外側は、交代選手が試合中に行うウォームアップや、アシスタントレフェリー、ボールパーソン、メディカルスタッフ、セキュリティスタッフ、メディアが往来します。

サッカースタジアムの場合は、ゴールラインから10m、タッチラインから8.5mの広さを確保することが望ましいです。したがって、フィールドの大きさは125m×85mとなります。

3. 2 フィールドの向き

フィールドの方角は、太陽の位置や日常の風向きを考慮に入れた上で、決定する必要があります。特に選手・観客・関係者及びテレビカメラが太陽光線を直視しないですむようの方角の決定をすることが重要であり、ゴールポストに相対する方向は南北、メインスタンドを西側に設定することが望まれます。また、スタジアムの屋根がフィールドに対して与える影響についても考慮する必要があります。

天然芝のフィールドの場合は、芝の健全な生育を維持するために十分な日光と空気が供給されなければなりません。フィールドには、偏りなくあらゆる部分に十分な量の直射日光が当たるように配慮してください。

表3-1 ピッチ/芝面/フィールドの寸法

スタジアムのクラス	ピッチの寸法	芝面のサイズ		フィールドのサイズ	
		サッカー場	多目的	サッカー場	多目的
クラスS	長さ：105m 幅：68m	長さ：115m以上 幅：78m以上 ※ピッチの外側5m以上	長さ：108m以上 幅：71m以上	長さ：115～125m 幅：78～85m	陸上トラックを含む大きさ
クラス1			長さ：107m以上 幅：71m以上		
クラス2					
クラス3					
クラス4	長さ：最少90m 幅：最少45m	ピッチを基準とし、ピッチ周辺部に競技上、危険を及ぼさないだけの余幅をとること			

3.3 ピッチの状態

クラス2以上のスタジアムのピッチは、平坦で常緑の天然芝で覆われていなければなりません。また、常緑天然芝の維持管理のために有効な給排水設備の設置が必要です。寒冷地域では、冬季に氷結するのを避けるため、地下に暖房設備を設置することも必要となります。

優れたピッチの第一条件は、非常に湿潤な状態にあっても表面に水がたまず、雨中でも試合ができる良好な水はけを実現することです。フィールドの質が高ければ、試合の質が低下することもなく、観客の期待を裏切りません。ピッチの表面は均一で、選手がけがや予期せぬミスを恐れず安心してプレーできるように、平坦さを維持してください。また芝も均一で、しっかりと根を張り、健全に生育している状態が求められます。ぬかるんだ場所があったり、池のような状態になったりしてはなりません。

ピッチの整備に際しては、当該地域で芝の敷設を成功させた経験のある専門家を採用してください。このような専門家であれば、気候条件、現場の特徴、土の状態、選定する芝の知識などが豊富であるに違いありません。基盤の準備にあたっては、入念な計画と根づいた根域（こんいき）を支えることになる床土の選択が重要となります。ピッチの適正な敷設と芝の植え付け、芝（または芝の種）の種類の正しい選定、十分な散水と水はけなどの条件が揃って、初めて優れたピッチが誕生します。

常にピッチを最良の状態に保つには、適切な管理維持計画の他、専門スタッフなどの人材、機械装備、肥料、検査機器などが必要です。

3.4 天然芝のピッチ

3.4.1 経緯

サッカーは伝統的に天然芝の上でプレーされてきました。天然芝はいまでも多くのスタジアムで使用されていますが、生きた植物であるため、季節によってその状態は変化します。わが国は南北に長い国土であるため、気候条件も異なります。例えば、一年を通じて芝の生育に適した環境もあれば、季節によっては芝の生育に不適切な環境もあります。天然芝には日光と養分と通風が欠かせません。したがって、天然芝を育てるには管理と手入れ、そして時間が必要となります。

表3-2 フィールドの状態

スタジアムのクラス	フィールドの状態
クラスS	<ul style="list-style-type: none"> ・平坦であること ・年間を通じて常緑の天然芝であること ・水はけが良いこと ・ピッチ全体を覆っていること
クラス1	
クラス2	
クラス3	
クラス4	平坦で、天然芝、JFA公認人工芝であること。常緑であることが望ましい。

Japan Football Association Stadium guideline

天然芝にとって、現在のスタジアムの構造は光と空気を奪うものとなっています。サッカー以外の目的で使用する場合も、同様です。天然芝を育てるには、自然は決して無視することのできない条件です。

また、現在、スポーツターフはスタジアム以外の場所で育てられ、ロール状あるいは平坦なソッドの形でスタジアムに敷設されます。移植した芝を基盤になじませ、生育を見守る必要があります。芝は病気にかかりやすい上、磨耗に弱く、その再生には時間がかかります。したがって、自然のなりゆきにまかせず、専門のスタッフが芝を管理することが非常に重要なポイントとなります。

3. 4. 2 専門的知識の必要性

スタジアムでの天然芝の使用には、スポーツターフに対する確かな理解と知識をもった専門家が求められています。建設地域の状況に合わせた計画も欠かせません。

スポーツターフの生育には特に専門性が必要とされ、芝と土に注意を集中させることが天然芝の健全な生育に欠かせない条件です。そのためにも、専門的知識をもった専門家が必要です。

3. 5 人工芝のピッチ

スポーツ専用に設計された人工芝が作られるようになり、サッカーでも人工芝のピッチの使用が認められつつあります。現在では、選手が安全かつダイナミックにプレーできる人工芝ピッチが開発されています。

人工芝ピッチの利点は多岐にわたります。まず、人工芝であれば、常に緑のピッチが維持できます。人工芝でプレーするには慣れが必要ですが、そのピッチの平坦性が正確で早いプレーを可能にし、選手のテクニックを十分に引き出せます。

また、人工芝のピッチであれば、天然芝のピッチよりもはるかに頻繁に使用することができるので、ピッチのみならず施設全体の利用用途が広がります。天然芝の場合は、雨や雪などの悪天候によってダメージを受けてしまいますが、人工芝であればほとんど問題なく使用できます。人工芝を最良の状態に維持するには、定期的なメンテナンスは欠かせませんが、天然芝のメンテナンスに比べればコストは少なくてすみます。

以上のような理由から、人工芝は天然芝に代わる、実用的

でしかも魅力的な選択肢となっています。現行の規定では、クラス4での導入が可能です。人工芝について正しい判断をするためには、JFAが定めるガイドラインに沿って検討してください。

Japan Football Association Stadium guideline

3. 6 フィールド内及び周囲の設備

3. 6. 1 ゴール

ゴールネットは、(L字型などの) 突出した金属枠で吊るさないでください。選手に危険のないよう、ゴールポストの取り付けにおいてもフック等が突出しないよう配慮し、図示した方法等で吊るしてください。ピンなどでゴールネットをフィールドに固定する場合は、ピンがフィールドの上に突出しないように注意してください。

ゴールポストは、外径の直径が12cmの白色丸型とし、埋め込み式としてください。

3. 6. 2 チームベンチ

ハーフウェーラインを境として、両サイドに各ターずつのチームベンチが必要です。これらはタッチラインの外側に、ラインと平行かつ最低5m以上の離れた位置に設置されなければなりません。またハーフウェーラインとタッチラインの接点から測って、各々の方向に最低5m以上離してください。双方のチームベンチは、ハーフウェーライン及びタッチラインの両方から、等距離に位置しなければなりません。

チームベンチの設置位置は、ベンチ後部の観客の視界を妨げないように十分に留意する必要があります。大会によってベンチ入りする人数は異なります。国際試合の場合、各チームベンチの定員は22名が座れるようにすることが望まれます。Jリーグでは13名以上となっています。

ベンチは、雨天対策のほか、万が一、観客席から物が投げられた場合に選手らを保護することを目的に、透明もしくは半透明で、それなりの強度をもつ覆いで囲われている必要があります。

3. 6. 3 第4の審判員ベンチ

3名が机付きで着席でき、出入りができるスペースを確保した第4の審判員ベンチを設置してください。ベンチの屋根は透明で観客の視野を妨げないようにしてください。

3. 6. 4 ピッチ周囲の広告等看板

ピッチの周囲に設置する広告看板が観客の観戦の妨げとならないように注意してください。ただしメインカメラの設置スペースからは、常に広告看板が映し出される必要があります。また、この広告看板には電源を必要とし、通常電源と緊急電源の両方に接続します。

広告看板の高さは通常90~100cmです。広告看板とピッチの境界線との最小距離は以下のとおりです。

タッチラインから：5m

ゴールライン後方/コーナーフラッグ付近：3m

以下の場合には広告看板の設置は認められません。

—選手、関係者その他に危険が及ぶ可能性がある場所への広告看板の設置。

—選手などに危険が及ぶ可能性がある形状や素材の広告看板の設置や選手などに危険が及ぶ可能性のある方法による設置。例えば、回転式看板や電光看板を設置する場合は、試合関係者に危険が及ばない程度の電圧レベルで電源を供給してください。

—広告看板の表面に選手、レフェリー、観客の妨げとなる強い光を反射する素材が使用されている場合。

—緊急事態が生じた場合に、観客がフィールドへ避難する際に障害となるような方法で広告看板が設置される場合。

—テクニカルエリアから選手等が見えなくなる位置への広告看板の設置。

3. 7 ピッチへのアクセス

大会によっては大規模な設営が必要になることがあるため、大型のトラックが進入する可能性があることも想定すべきです。

救急車や消防車を含む緊急車両がピッチまでアクセスできるような配慮が必要です。

Japan Football Association Stadium guideline

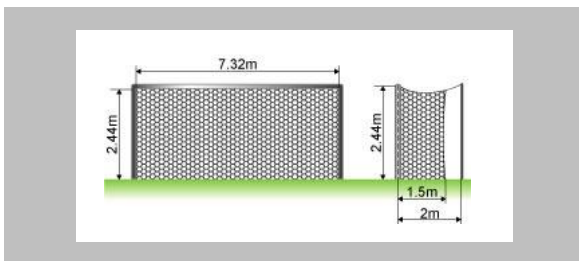


図3-1 ゴール

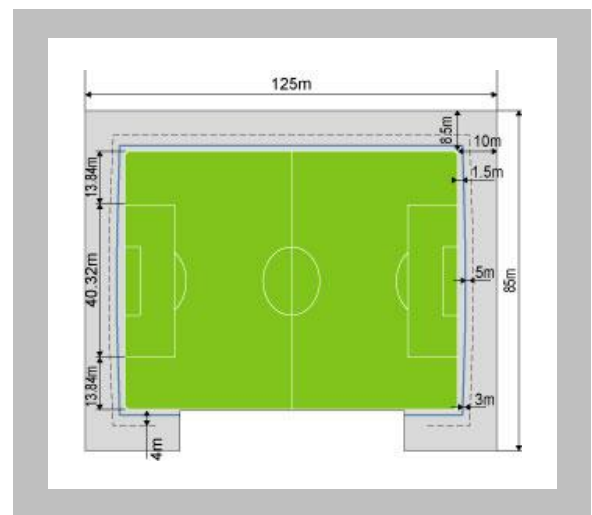


図3-4 フィールドの大きさ

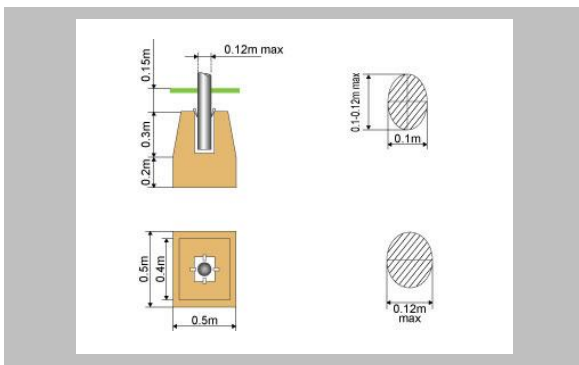


図3-2 ゴールポスト

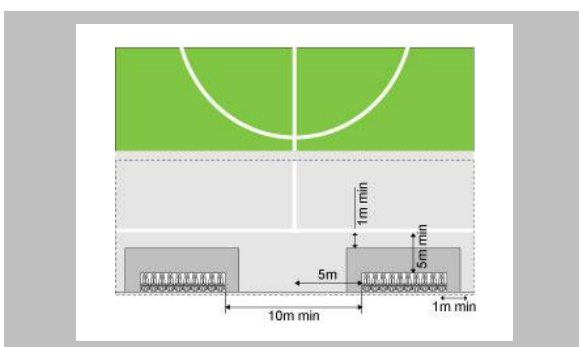


図3-3 控えベンチ

第4章 試合関係者関連事項

最新スタジアムには、選手と試合関係者が安全かつ快適に活動できる、広く、質の高い更衣室等の設備を設置しなければなりません。

4.1 チーム関係諸室

スタジアム内の各チーム更衣室は、必ず同じ広さ、スタイルをもつようにしてください。多目的スタジアムの場合は、同じ広さと快適性をもつ更衣室が4室必要です。また、多目的スタジアムでなくても、トーナメント等で1日に2試合行われる場合を考えると、同じ広さと快適性をもつ4つの更衣室を設置することをお勧めします。

4.1.1 チーム更衣室

①場所；メインスタンド側

フィールドへ直接安全にアクセスでき、一般観客及び報道関係者から隔離されていることが必要です。

②室数；個別の更衣室を2室以上、4室を推奨

最新のスタジアムには、同じ広さと快適性をもった更衣室を最低2室が必要です。2試合が連続して開催されることを想定して、4室設置されることが望まれます。トイレ、シャワー、監督室などの設備、諸室は2チームの共用でも構いません。

③最小規模；各150㎡

主として使用される2つの更衣室は、同じ広さであるべきで、また機能や快適性においても差があってはなりません。

ホームチーム用の更衣室が、ビジターチーム用のそれと比較して、格段に素晴らしい状態にされるようなことがあると、主催者が両チームに同等の対応を必要とする国際レベルの試合では、その開催の可能性が小さなものになってしまいます。

④チーム更衣室の要件

換気が行き届き、空調設備が施されることが必要です。フロアと壁には、清掃が容易で衛生的な素材を使用し、照明は明るくしてください。また、選手はスパイクシューズを使用しますので、スパイクで滑らない床材を採用してください。

更衣室の装備として、25人以上分のベンチ、25人以上分の仕切られた個人用スペース（写真）またはロッカー、冷蔵庫、ホワイトボード、電話（外線/内線）、デスク、椅子、マッサージ台、製氷機が必要です。マッサージルームか治療室を更衣室に隣接する場所に、更衣室とは別に、設置してください。

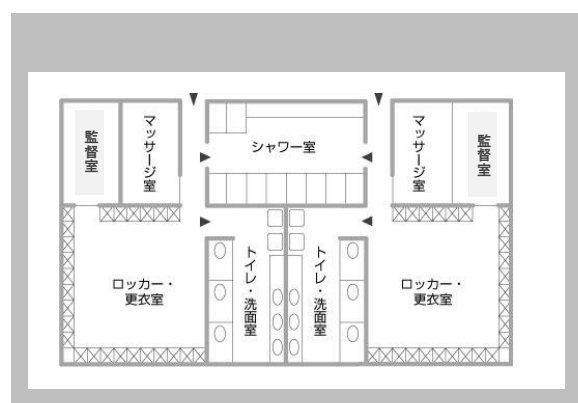


図4-1 チーム更衣室

Japan Football Association Stadium guideline

⑤トイレと衛生施設

更衣室に隣接し、更衣室から直接・安全にアクセスできる場所。

各室の最小要件；温水シャワー、鏡付き洗面台、スパイク洗浄用のシンク、トイレ

4. 1. 2 監督室

①場所

チーム用の更衣室に隣接する場所。

②室数：2

③最小規模：24 m²

④監督室の要件

換気が行き届き、空調設備が施されること。フロアと壁には、清掃が容易で衛生的な素材を使用すること。フロアを滑りにくくし、照明を明るくすること。

監督室の装備：温水シャワー、鏡付き洗面台、ロッカー、デスク、椅子、ホワイトボード、電話

4. 1. 3 ウォームアップエリア

①ウォームアップエリアの環境

それぞれのチームには、専用で、一般観客及び報道関係者から隔離されており、かつチーム更衣室に極力隣接する位置に、ウォーミングアップのためのスペースが用意されなければなりません。

ウォームアップエリアは、屋外、屋内を問いませんが、芝(屋内の場合は人工芝)が張ってあることが必要です。また外部から、チーム関係者や大会運営関係者以外の人がアクセスすることを防ぐために、壁などで囲われていることが望まれます。特に試合開始前になると、選手たちの意識も高揚しますので、極力隔離された状態をつくり出し、試合に向けて最善の準備ができる環境を提供することが、その試合の成否の鍵を握ります。

場所：各更衣室付近

最小規模：各 100 m²

②屋外

ウォームアップエリアには芝生を敷設し(人工芝も可)、周囲を突出部のない平壁で囲んでください。夜も使用できるよ

うに、十分な明るさを確保してください。

③屋内

屋内の場合は、新鮮な空気が循環されるよう換気装置や空調設備が備えられており、ボールによる衝撃から保護された照明器具や壁を保護するネット等が設置されていることが望まれます。

4. 2 運営進行諸室

4. 2. 1 運営本部室

試合の運営に関わる進行、試合、安全など管理運営に関わる全ての情報が集まる体制下で、運営、セキュリティ、交通アクセス、チケット、ボランティア、アウェイスタッフ、スタジアムマネジャー、マッチコミッショナー、レフェリーアセッサー等が一同に会し、判断を行う重要な場所です。したがって、試合の進行を管理しやすいメインスタンド側でピッチへのアクセスに優れた場所に設置してください。

監視カメラのモニターなど監視システムの管理機能としてオペレーションできる設備を備えることは重要です。

また、関係スタッフの休憩や食事などを行う場所は別に設けてください。

なお、運営本部室には、試合開始の合図を行うため、チーム更衣室と審判更衣室をつなぐブザーを設置してください。

4. 2. 2 場内放送システム

運営本部室には、非常時に緊急情報を提供できるように、場内放送システムに優先して割り込める設備を持つことが必要です。

4. 2. 3 記録室

①場所

ピッチ全体、試合の進行を見渡せる場所に確保してください。

②最小規模：18 m²

記録員4名が座れるテーブルと椅子が配置できる大きさを確保し、モニターと録画装置を設置してください。

Japan Football Association Stadium guideline

4. 2. 4 マッチ・コーディネーション・ミーティング室

①場所

チーム更衣室と審判更衣室の近く、審判更衣室に直接アクセスできる場所に設置してください。

②最小規模：24㎡

Jリーグの試合では、マッチコミッショナー、レフェリー4名を含む、計13名程度の人数が利用します。

装備：デスクまたはテーブル、椅子、ロッカー、電話（外線/内線）、ファックス、コピー機、テレビ、トイレ、鏡付き洗面台

4. 2. 5 審判更衣室

①場所；メインスタンド側

チーム更衣室と同様に、フィールドへ直結し、一般観客及び報道関係者から隔離されていることが必要です。なお、審判更衣室は、最低1室の設置が必要です。しかしながら女性審判員が起用され、あるいは男性、女性の試合を連続して開催するケースが増えてきていることから考えると、4人用の更衣室を2室設置すると良いです。

②最小規模；24㎡

③更衣室の要件

換気が行き届き、空調設備が施されること。フロアと壁には、清掃が容易で衛生的な素材を使用すること。フロアを滑りにくくし、照明を明るくすること。

装備；4人分のロッカー、椅子またはベンチ、テーブルと椅子、マッサージ台、冷蔵庫、ホワイトボード、電話（外線/内線）、テレビ。

最小要件：温水シャワー、鏡付き洗面台、トイレ、スパイク洗浄用のシンク

4. 2. 6 医務室

①場所

選手、試合関係者、メディア、VIP、警備員、一部観客などが使用する医務室を設置します。

チーム更衣室並びに審判更衣室に近い場所で、ピッチレベルとも近い位置に設置してください。また、緊急車両が直接アクセスできるように、スタジアム外へ通じる入口及び通路が必要です。通路、ドアは、担架や車椅子が支障なく通行で

きるだけの広さを確保してください。

②最小規模：50㎡

③医務室の装備

診察台、持ち運びができる担架（ピッチサイドの担架は別）、洗面台（温水供給）、薬品用のガラスキャビネット、施錠可能なガラス製以外のキャビネット、治療台、電話（外線/内線）。必要に応じて、部屋を二分できる可動式の壁（パーテーション）を設置してください。

その他、医務室には、以下の機器を備えてください。

— 心臓の律動と患者データが記録できる除細動器

— 心臓モニター

— 体外ペースメーカー

— 静脈留置カニューレなど注入装置が一式揃った注入システム

— 溶液を37°C±2°Cの温度に温める点滴システム

— 加圧注入装置、容量分析注入装置

— 中心静脈カテーテル

— 心膜穿刺セット

— 薬剤管理装置

— 挿管器具

— 自動人工呼吸器、固定式酸素（2000リットル以上）、携行酸素（400リットル以上）、固定式非手動吸引装置（最小負圧水銀500mm、最小容積1リットル）、カプノメータ、PEEPバルブ

— 胸部排液キット

— 真空マットレス、脊髓ボード、頸部カラーなどの固定器

Japan Football Association Stadium guideline

4. 2. 7 ドーピングコントロール室

①場所

各スタジアムには、待合室、作業室、トイレが隣接したドーピングコントロール室を設置する必要があります。チーム更衣室と審判更衣室の近く、一般の観客とメディアが立ち入ることのできない場所に設置します。

②最小規模：36㎡（トイレ、作業室、待合室を含む）

ドーピングコントロール室の要件：換気が行き届き、空調設備が施されていること。フロアと壁には、清掃が容易で衛生的な素材を使用すること。フロアを滑りにくくし、照明を明るくすること。

③作業室の装備

デスク、椅子×4、洗面台と鏡、電話（外線/内線）、サンプル瓶保管用の鍵付きキャビネット

④トイレ

場所は作業室に隣接し、作業室へ直接安全にアクセスできる、2名が利用できる広さの場所。鏡付き洗面台、シャワーも併せて装備すること。

⑤待合室

場所：作業室に隣接する場所。

待合室の装備：8人が十分に座れる椅子席、冷蔵庫、テレビ。

4. 2. 8 ボールパーソン更衣室ほか

試合進行に関わるボールパーソン更衣室のほか、ボランティア、マスコット、演出関係の出演者等の控室が必要です。また、国際試合などの大きな試合の場合には、試合進行に関わる諸室が多数必要になる場合があります。このような利用に対応できる予備室が必要です。

4. 3 その他

4. 3. 1 試合関係者入口

試合関係者入口は、チーム関係者、VIP、VVIP、さらにはメディア関係者等が利用し、受付が設置されることが

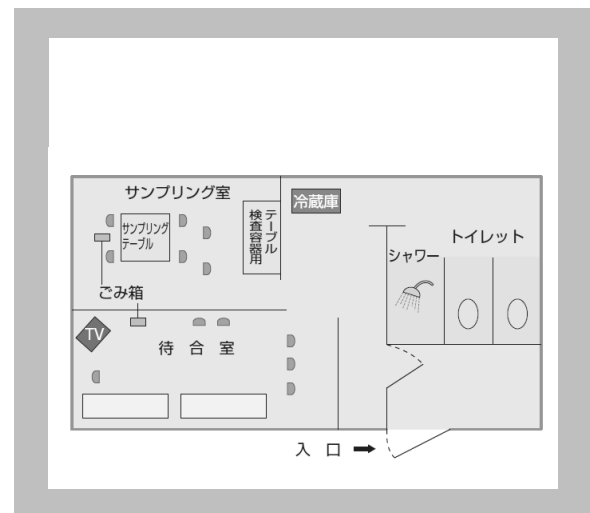


図4-2 ドーピングコントロール室

Japan Football Association Stadium guideline

あります。動線を分離する上からは、分けられるものは分離することが好ましいです。しかし、施設が小規模であれば、これらが試合関係者入口で一括処理されることになります。場合によってはミックスゾーンとして利用されることもあります。多目的に利用するのであれば、試合関係者入口付近は余裕のあるスペース確保が望まれます。

4. 3. 2 倉庫・予備室

競技備用品倉庫、売店倉庫、警備備用品倉庫、入場ゲート備用品倉庫、サイン看板用倉庫などが必要になります。部屋の数、必要な面積等については、スタジアムの管理者が判断してください。また、用途に応じてその広さを調整できるように、パーテーションのある部屋を多く設置すると便利でしょう。

4. 3. 3 掲揚ポール（バトン）

VIP 席から必ず視認できる位置に、最低でも 5 本の掲揚ポール（バトン）、またはそれに代わる適切な手段で 5 旗以上のフラッグを掲示できる設備を設置してください。

4. 3. 4 サイン看板

すべての通路に、選手、レフェリー、関係者が向かうそれぞれの部屋を示した、簡単で分かりやすいサイン看板を設置してください。各サイン看板には、チーム更衣室、審判更衣室、マッチ・コーディネーション・ミーティング室、ドーピングコントロール室などと明記してください。

第5章 メディア関連事項

視聴者に最高のサッカー放送を提供するために、最新設備を取り入れた設計が必要となります。大会の種類によって、報道関係者用として要求される設備は大幅に異なります。例えば、同じチームの対戦であったとしても、結果が優勝を左右するような試合では周囲の注目度が必然的に高まります。また、国際試合、とりわけ代表チーム同士の試合の場合は、国内のみならず海外諸国から報道関係者が多数訪れるようなケースも見られます。報道関係者の数は、当該試合の注目度に比例します。

5.1 記者席

記者席はメインスタンド側の中央付近に位置し、観客席と隔離されたピッチ全体が良好に見渡せる場所に設置してください。また、すべての記者席は必ず屋根の下に配置してください。

記者席からは、記者室、ミックスゾーン、記者会見室など他のメディア関連諸室と簡単に行き来ができるように動線を配慮してください。常設の記者席には、ノートパソコンなどが置ける十分な広さのデスクを装備してください。各デスクには、電源コンセントとデスク照明が必要です。さらに、高速インターネット回線（LAN）の設置が望まれます。

国際試合などの開催を予定している場合は、取材者数に応じて、記者席の席数を大幅に増やすことができるような設計が必要となります。席数が足りず、一般の観客席を記者席に変更しなければならない場合もあります。追加席には必ずしもデスクを設置する必要はありません。目安としては、半分ほどの椅子席にデスクを設置すればよいでしょう。

テレビモニターは設置が望まれるアシスタントツールです。テレビモニター用も含めて、さまざまな目的に使用するのに十分な数の電源コンセントを用意してください。

なお、記者席は放送席としても使用できます。

新スタジアムの建設設計に際しては、ワイヤレス通信に関する最新情報を常にチェックしてください。

今後、報道関係者の動線においてもバリアフリーの考え方を導入することが求められます。また、報道関係者席は、荒天時においてもパソコン等の機材が濡れることなく取材をできる機能を確保する必要があります。屋根が設置されていても、雨の降り込みが激しくては機能を満たしているとはいえません。

5.2 中継用実況放送室

テレビとラジオ用にそれぞれ、5か所以上の中継用実況放送室を常時設置してください。実況放送室は、メインカメラと同サイドでピッチ中央に近い場所、かつピッチレベル全体が完全に見渡せる場所に位置しなければなりません。実況放送室には放送に必要な機材、電話、書類等が置けるだけのスペースを有した机と、放送規模に応じた人数分の椅子が必要です。机には実況放送チームがピッチ上の出来事を見逃

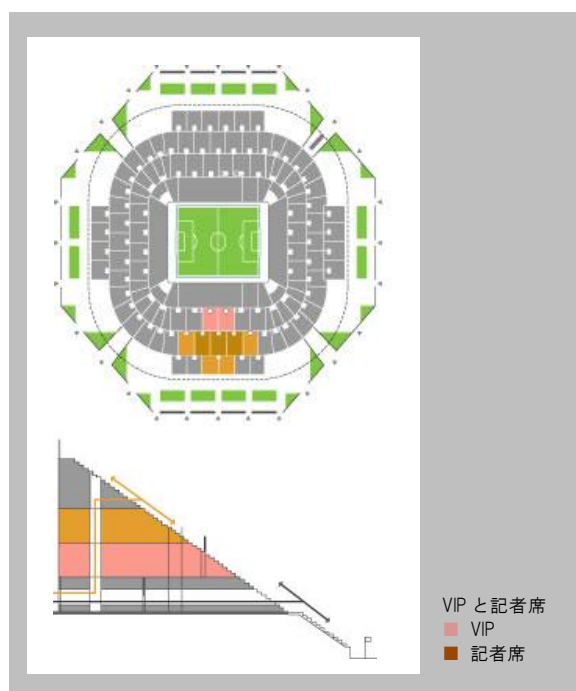


図5-1 VIPと記者席

Japan Football Association Stadium guideline

してしまうことがないように、テレビモニターを斜め上方向に向けて装備してください。

隣接する実況放送室の音を拾わないように、壁などで遮断してください。一方、スタジアムの臨場感を得るために、実況放送室のピッチ側は開閉可能な窓などを設置し、解放できるようにしてください。各ポジションには、最低でも2つの電源コンセントを用意します。ラジオ放送が実施される場合も、同様の対応が必要です。

国際試合では、要件が大幅に厳しくなります。例えば、世界的なビッグクラブ同士が戦う決勝であれば、50～90の放送席を設置する必要があります。設計次第とはいえ、1つの放送席を設置するのに、6席分もの客席を削減しなければならない場合もあります。各放送席につく人数は、最低で3名です。メディアの作業ルームや記者会見室と簡単に行き来ができるように配慮してください。

メディア施設の要件は、イベントの種類に応じて大きく異なります。その点には注意が必要です。クラブの人気や中継の程度にもよりますが、数十のデスクだけで十分な場合もあります。一方、国際試合の場合は、大幅に広い作業スペースが必要となります。メディア関係者のための作業エリアは、常設、仮設に係わらず独立したスペースとして確保されなければいけません。

5.3 記者室・記者会見室・ミックスゾーン

5.3.1 記者室

記者室の規模については、プレス用の席数を基に判断してください。例えば、メディアのために600人分の席数を用意する試合では、記者室には約200人分のスペースが必要となります。またメディア用に200人分の席数を用意するスタジアムでは、約80人分のスペースの記者室が必要です。また、男女用のトイレ施設を必ず設置してください。

ワーキングルームは、デスク、電源、電話、LAN回線の設備を備えた作業エリアとします。また国際試合では、各機関（旅行機関、交通機関、銀行など）のためにオフィスを特別に設置することをお勧めします。

記者室には、以下の設備を用意してください。

- 受付デスク
- コピー機とファックス
- テレビモニター

- カフェテリア
- 報道資料分類整理棚
- 記者の作業エリア
- フォトグラファーの作業エリア
- ロッカー
- 無線LANまたは有線LAN

5.3.2 記者会見室

記者会見室には、100㎡以上の広さが必要です。十分な記者用の椅子を用意し、適切な音響システムを装備してください。記者会見室は、試合のない日も多目的に使用できます。

部屋の片側、できればチーム更衣室に通じるドアに近いほうに、監督、選手、また必要に応じて広報担当者、通訳が並ぶ舞台と専用入口を設置してください。その後ろには、さまざまなデザインに簡単に変更できる背景幕（バックボード）を設置します。

舞台に向かって反対側には、10組以上のテレビENG（Electronic News Gathering）クルー（カメラマン、照明、助手などからなる）がカメラや三脚をセットできる壇を設けます。その他、監督や選手の前にたくさんのマイクを並べる必要がないように音声分配器を装備し、ミキサーで集中管理できる、高性能な音響システムを設置してください。

記者会見室は、チーム更衣室から簡単にアクセスできる場所に設置します。

5.3.3 ミックスゾーン

日本代表戦、Jリーグにおいては、試合後、ミックスゾーンの設定が義務付けられています。これは試合終了後、許可された報道関係者が監督や選手に直接インタビューするためのエリアです。ミックスゾーンはチーム更衣室に比較的近い場所1か所に設け、取材対応後、両チームの選手やチーム関係者がスムーズに出口やチームバスにアクセスできるよう配慮してください。

メディア関係者のみが入れるスペースを用意し、一般の観客が立ち入ることができないよう設置します。国際試合では、ミックスゾーンをメディアエリアと選手、監督などとの間に柵などで仕切りを設ける配慮も必要となります。

ミックスゾーンに必要なスペースは試合によって異なりますが、少なくとも200㎡とします。記者が支障なく取材するには、1人あたり2.5㎡のスペースが必要です。なお、ミックスゾーンは特に常設設備として設置される種類のものでは

Japan Football Association Stadium guideline

なく、既存のエリアを上手く活用することで対応可能です。

ミックスゾーンを円滑に、上手く運営することは、主催者の中の広報責任者の双肩にかかっているとと言えるでしょう。

試合後の取材をスムーズに運営し、報道関係者との間に良好な信頼関係を保つことは、大会を成功させるための基本的構成要因の一つであることを理解しなければなりません。

5. 4 テレビカメラ対応

多くの場合テレビ放送に望まれる施設は、試合日は仮設により対応が可能です。これらが容易に設置でき、かつ十分な電力の供給を確保する必要があります。

以下の要件は、国際試合レベルを想定したものです。ただし、正確なキャパシティと数については、それぞれのケースに応じて、主催者、メディアサービス、放送関係者が判断します。特にテレビに関しては、最大限効果的な中継を実現するために、最新技術を導入できる柔軟性が求められます。

照明要件については、ハイビジョンテレビ（High Definition Television：HDTV）の導入など、技術の進歩に応じて変わってきます。スタジアムの建設にあたっては、主要テレビ局やキー局に相談することをお勧めします。

5. 4. 1 多元的な放送

カメラポジションは、すべて主催者と放送局との合意に従って配置します。観客がカメラに入らない位置に、また、カメラが観客の視界を遮らないように配置するように注意してください。メインスタンド中央のメインカメラは、ハーフウェーライン上、ハーフウェーラインと手前側のタッチラインとの交点を見下ろす位置に配置します。多元的な放送に関する正確なカメラポジションについては、ホスト局がスタジアムを検証した上で判断します。

各カメラに太陽が入り込まないようにし、カメラポジションからフィールド全体が見渡せるようにしてください。放送席も、同じメインスタンド側に配置します。各カメラポジションには、約2m×3mのスペースを確保してください。

必要に応じて、各ゴール裏にゴールカメラを設置します。その場合は、ゴール裏からピッチに向かって、クロスバーを超えてペナルティーマークが見える高さに設置してください。各カメラは水平に12°～15°の角度に設置してください。

その他、試合の規模などに応じて、3～6台のテレビカメラ

をタッチライン沿いとゴール裏のエリアに配置する場合もあります。ただし、カメラの使用については、主催者やサッカー協会等の許可が必要となります。

サッカーのテレビ中継の動向を考慮した場合、バックスタンド側、ペナルティエリア付近、クレーンカメラ、レールカメラなど、その他のカメラポジションについても検討する必要があります。

全てのカメラ位置は、主催者と放送局の合意により決定されなければなりません。いかなる場合も、一般観客を含む関係者の安全を損なう可能性のある設置は認められません。同時に一般観客の視線の妨げとならないよう、最大限の注意を払う必要があります。

Japan Football Association Stadium guideline

5. 4. 2 一元的な放送

一元的な放送では、メインスタンドと各ゴール裏にカメラを配置し、国際音声を提供します。多元的な放送で使用するカメラポジションを確保してください。また、各ゴール裏の広告看板の後方に、カメラ1台につき約2m×2mの専用ポジションを明確に区切って配置します。どちらも、正確なポジション数については、主催者と放送局との間で決定してください。

主催者と放送局との決定に応じて、放送席のそばや後方にポジションを追加することもあります。このエリアには、放送スタッフ用にデスクのない椅子席も用意してください。

できれば、選手がフィールドへ入場する入場口付近にも、カメラポジションを設けてください。なお、このポジションを特にインタビューとプレゼンテーションに使用する場合は、関連規則に従う必要があります。

5. 5 スチールカメラ対応

第一に、無理なく機材を降ろすことができる適切な場所に駐車スペースを用意してください。フォトグラファーには、報道関係者受付にて撮影許可証を提示してもらい、フィールドへの入場許可証としてピブスなどを手渡します。フォトグラファーが機材を置くことができるカメラマン室を、記者室と近く、フィールドへのアクセスが容易な場所に用意します。

デジタルカメラの普及により、ピッチ上のフォトグラファーポジションの後方に電源コンセントとLAN回線の設置が求められます。したがって、フォトグラファーの後方に1.5m程度のスペースを余分に確保してください。

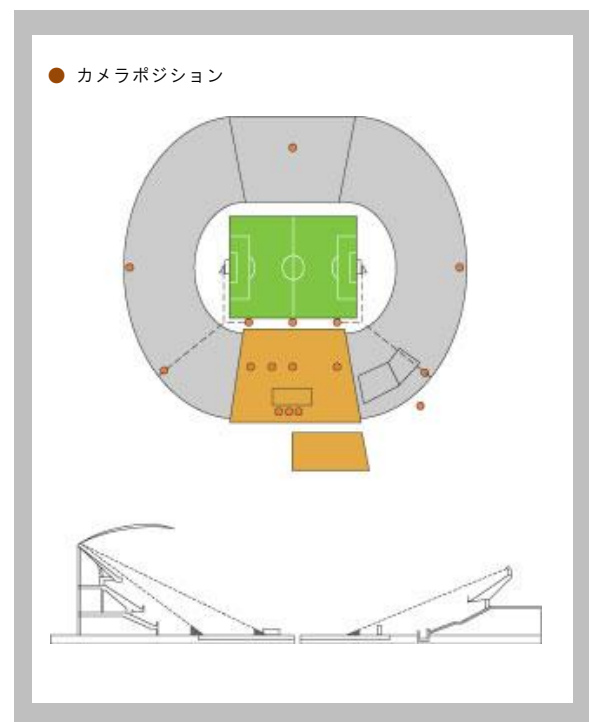


図5-2 カメラポジション

第6章 観客関連事項

最新のサッカースタジアムでは、すべての観客がピッチを見渡せる場所から安全かつ快適に試合を観戦できることが重要です。特に、冬の寒い時期でも快適に観戦できる環境を創り出すことが、これからのスタジアムにとっての最も重要な課題の一つとなります。

6.1 入退場スペース

スタジアムに入る前の空間は、観客が入場する前の待機スペースとなります。多くのスタジアムが都市公園施設として整備されているため、観客の待機スペースとして不都合も多く見られます。入場前の環境整備も重要です。

6.1.1 待機スペース

スタジアムへの入場を待つまでの間、観客が待機するスペースが必要です。この部分がスタジアム入場口の前に広がるスペースです。

人気のある試合では待機者も多くなります。収容人員の2、3割程度の観客が待機列を組めるスペースが必要です。

この待機列を誘導するために、柵などを設置しますが、その都度設置するために、多くのスタッフの労力を必要とします。埋め込み式のバリカーなどを建設段階から備えることをお勧めします。また、トイレも設置してください。

6.1.2 照明等設備

この待機スペースは、チケットの販売なども行われるスペースです。チケット購入時の窓口周辺や手元を照らす十分な照明が必要です。同様に雨に濡れないような屋根も必要です。

そのほかにも、このスペースには売店が出たり、イベントを行うことも多くありますので、照明だけでなく、電源の確保も必要です。

6.1.3 場内放送システム

入場前の観客に対し、独立して情報を伝達できる放送システムが必要です。

6.1.4 入場ゲート

入場ゲートには、手荷物検査を行うための机を設置し、また、ビン・缶の移し替えスペースも必要となりますので、十分なスペースを確保する必要があります。雨天時のための屋根の設置はもちろんのこと、照明、電源、LANなどが整備されていることが望ましいです。入場ゲートの近くには、手荷物預かり所や迷子の案内所などの設置も必要となります。

6.2 コンコース

コンコースは、一般客用の重要なホスピタリティースペースとして考えて整備されることが望まれます。国内では少ないですが、将来的には、コンコースを空調設備が整った室内空間とするコンコースの整備が望まれます。特に、冬の寒い時期でも快適に観戦できるように、コンコースをハーフタイム時に一時的な暖をとる空間とするなどの工夫が求められます。

また、コンコースは、ハーフタイム時などには多くの人が往来するので、広いスペースが必要です。一般的な飲食売店やグッズ売店のほか、レストランなどを設けるなどしても良いです。コンコースをはじめ、全ての一般用ホスピタリティ施設は必ず、試合開催中はできるかぎり清潔と整理整頓を心がけてください。また、夜間の試合開催時でも十分に安全が確保できる照度の明かりを設置してください。売店設置やファンサービス実施のためにも十分な数の電源、電話線、LAN回線の設置が必要です。

6. 3 観客席の快適基準

Jリーグが設立されてから、観客にとってのスタジアムの快適性は大きく改善されてきました。これは、すべてのカテゴリーの観客にとって言えることです。この傾向は、今後も続くものと考えられます。したがって、数年間のニーズを考慮しただけのスタジアムを建設するのではなく、来るべき世代のニーズに応えることができる、もしくは、少なくともそうしたニーズに応えることに大きな障害のないスタジアムの建設が望まれます。特に、一年間を通じて、オールシーズン快適に観戦できる環境として、冬の寒い時期でも快適に観戦できるような観客席のヒーティングシステムの導入なども検討に入れておく必要があります。

6. 3. 1 椅子席の形状

全ての観客席は一つ一つが独立し、快適な角度に設計された30cm以上の背もたれがあり、できれば肘掛けもあることが望まれます。

観客席は壊れにくく、耐火性があり、その土地の気候に耐え、極端な劣化や色あせが見られないものでなければなりません。VIP用椅子席には、ゆったりした快適なものを使用し、一般の観客席とは離れた、フィールドの中央を臨む位置に配置してください。どのような種類の椅子席を設置するかについては、十分な考慮が必要です。

席の間隔は、観客の快適性を大きく左右します。観客席数を最大限にすれば、収益性は上がるかもしれませんが、観客の快適性を損なうばかりか、緊急事態発生時の避難動線を確保することができません。長期的に見れば、観客数の減少につながる可能性もあります。観客の膝が前列の席の後部やその席に座っている人にあたったりしないよう、満員の状態でも、楽に観客が入り出ることのできるスペースが確保されていることが必要です。また、かさばる服装をしている観客を考慮して、席幅は最低でも45cm、できれば47cmを確保することをお勧めします。

6. 3. 2 観客席の視界

どの観客席からも、フィールドが全て見渡せることが条件となります。観客席からの眺めを計算した場合、フィールド周囲の広告看板はその高さを90~100cmとします。また、タッチラインからは4~5m、ゴールラインの中央からは5m、コーナーフラッグ付近では3m以上離れた距離に設置される

ことを前提としてください。最低限の簡単な基準としては、すべての観客が2列前に座っている観客の頭を超えて、フィールドをまっすぐに見下ろせるようにする必要があります。

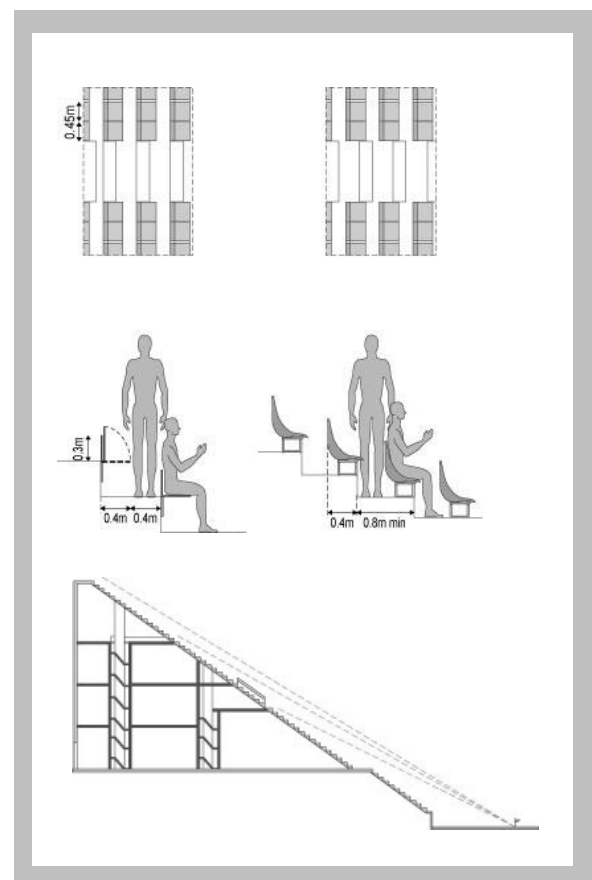


図6-1 観客席

6. 4 観客席エリアの分割と諸機能

6. 4. 1 エリア分割

近代的なスタジアムは、少なくともメインスタンド、バックスタンド、両ゴール裏の4つの独立したセクションにより構成されるべきです。

各々のセクション独自の入口、各種売店、トイレ等を有している必要があります。これは、各セクションへの入場者数を正確かつ、迅速に把握し、また試合の状況に応じて、応援するチーム毎に、観客の入場するセクションを指定することを目的としています。

6. 4. 2 飲食売店

飲食売店については、清潔で、魅力的な場所とし、観客の利用しやすい場所に設置してください。暖かい食べ物や飲み物を提供するための安全な熱源確保も必要で、今後は電子マネー決済に対応する設備も必要です。

観客がエリアを越えて移動しにくい、あるいは、全く移動できない場合もあります。その点を踏まえ、すべての観客が飲食を購入できるように、スタジアムの各所に偏りなく設置するようにしてください。

需要の増加が見込まれる場合には、臨時で仮設の飲食売店の設置箇所も用意すべきです。コンコースに移動販売などの車両が簡単に乗り入れられる工夫も効果的です。メニューは、観客が並んでいる途中で注文が決定できるように、離れた場所からでも見えやすく表示します。また、一度に多くのスタッフが作業場で働けるように設計してください。

飲食売店、グッズ売店、プログラム売店は、買い物客の待ち列が他の観客の通行の妨げとなりにくい場所に設置してください。スタジアムでは、売店と壁との間に十分なスペースが確保できず、通路が通れなくなってしまう場合がよくあります。特に混雑するのが、観客がスタジアム内を移動し、買い求める人で売店に列ができるハーフタイムです。

飲食エリアに映像装置を設置すると、ハーフタイム時の混雑のストレスを抑えることができるかもしれません。飲食エリアで試合を見とどけることができれば、ハーフタイムの混雑を避けようと、前半終了前に観客席を離れる客もいるでしょう。

観客が試合の前後に飲食を購入する傾向があることを考え、コンコースに椅子を設置したり、椅子とスタンディングテーブルを設置したりすることが望まれます。このような設備は、

スタジアム周辺の街路を見渡す位置に設置することもできますし、観客席以外で試合が見られる場所として、ピッチとスタンドを見渡す位置に設置することもできます。

全ての一般用ホスピタリティ施設は必ず、清潔と整理整頓を心がけてください。各所には、十分な数のゴミ箱を設置します。できれば、リサイクルが容易になるように、分別タイプのゴミ箱を設置してください。施設の営業中は、十分な数の清掃スタッフを巡回させてください。

ハーフタイムに大量のゴミが捨てられることを考慮して、容量の大きなゴミ箱を十分な数だけ用意します。ゴミ箱が小さければ、清掃に余計なコストがかかってしまいます。リサイクル方法が確立していれば、その手順を示すわかりやすいサイン看板を目立つ場所に設置してください。

また、飲食売店への資材等の搬入出用エレベーターを設置するなどの工夫が求められます。

6. 4. 3 グッズ売店

コンコースの混雑とならない場所に、グッズ売店を設置します。観客にとって魅力的な施設となるようにしてください。観戦に危険が伴う試合で、エリアを分割している場合であっても、どのエリアからもアクセスしやすい場所に設置してください。飲食売店と同じく電子マネー決済に対応する設備も必要です。電源や電話線も必要となります。また、飲食売店やグッズ売店の行列の動線が女性トイレや喫煙スポットにからまないよう設計してください。

6. 4. 4 トイレ

スタジアムの安全な周辺域に、男性と女性用、身障者用(多目的)の十分な数のトイレを設置してください。各トイレには、清浄な水が使える洗面台が必要です。トイレは明るく、清潔で、衛生的なものとし、こうした状態を各イベントの開始から終了まで維持するようにします。

一般に衛生施設の利用時間は女性の方が長いことを考え、トイレの数を増やすことをお勧めします。女性の利用時間を短縮する方法として、子供用のトイレを設けたり、動線を一方通行にしたり、洗面台に鏡を設置せず、別の場所に設置したりすることで効果をあげているケースがあります。また事前に、和式・洋式のトイレの設置比率、身障者用(多目的)を十分に検討する必要があります。また、乳児対応(おむつ替えベッド)も設置してください。

推奨する最小設置数は、女性 1,000 人につきトイレが 20

Japan Football Association Stadium guideline

室、洗面台が7、男性1,000人につきトイレ5室、小便器10器、洗面台が5です。VIPとVVIPエリアでは、この比率を高くすべきです。

観客同士がぶつかり混雑しないように、トイレへの出入りは一方通行にします。それができない場合は、トイレに入る人とトイレから出る人の通路を区分できるだけの十分な広さを確保してください。

補助が必要な身障者用や小さな子ども用の多目的トイレの設置も、5,000人の観客につき1室の割合で検討すべきです。

スタジアムを建設するにあたっては、洗面所を含め、適切なカスタマーサービスを提供する質の高い公共施設となることを目指してください。

6. 4. 5 喫煙スポット

観客席及びコンコースなどスタジアム内の観客動線は禁煙にしてください。喫煙者には、他の観客の迷惑にならない場所、コンコースの一部などを隔離して、喫煙スポットを設置することがあります。

6. 4. 6 救護室

救護スタッフが待機している救護室を開催規模に合わせ、適宜配置できるように計画してください。

6. 4. 7 公衆電話

携帯電話が普及したため、公衆電話の使用は減りつつありますが、スタジアム内とその周辺には適当な数の公衆電話を設置してください。

これらは、観戦をより快適なものにするだけでなく、緊急事態発生時の情報伝達の手段としても非常に重要な役割を担います。緊急事態発生時(例えば携帯電話のシステムに異常が生じ通話が不能になった場合)を想定し設置しておく必要があります。

6. 5 観客席への誘導システム

6. 5. 1 観客席の確認

観客席の列が識別できるように、通路、あるいは列の端の席のわかりやすい場所に列番号を表示してください。スタジアムに到着した観客の手には、例えば、Bエリア、22列、9番などと示されたチケットが握られているはずで、席まで

のルートをわかりやすく表示し、初めて訪れる観客でもすぐに確認できるようにしてください。

迅速かつ簡単に、間違いなく席が見つかるように、すべての席に番号を付けます。席番号が小さく、しかも印字が薄くて見づらい状態だと、立ち止まって確認せざるを得ません。そうすると、後ろに続く観客が待たされてしまい、いらいらする羽目になります。全体の入場プロセスが快適で、スムーズに流れるような配慮が必要です。

6. 5. 2 観客席までのサイン看板

スタジアム内外のすべてのサイン看板には、世界各国の人々が理解できるようなサイン看板を使用してください。スタジアム利用者の中には日本語を理解できない人がいるものと考えてください。現代の国際的なスタジアムには、複数の言語による案内、とりわけ日本語/英語の併記がなされることを望まれます。また記号化された分かりやすいサイン看板は、現地の言語を理解しない人々の観戦を快適なものにするために、非常に有効的です。国際試合で対戦国からの観客が詰めかけることが分かっている場合には、その言語によるサイン看板や電光板を利用して掲示するような対応が好ましいといえます。

スタジアム内の各セクションへ、一般観客を円滑に案内できるよう簡潔で分かりやすいサイン看板がスタジアム入口や内外の各所に設けられている必要があります。各エリアへの経路を示すために、スタジアムへの進入路とスタジアムの内外には、広範な情報をわかりやすく表示したサイン看板を設置します。目立つ場所にわかりやすく設置し、観客にトイレ、飲食売店、退場口など各サービスエリアの場所を案内してください。

チケットには、その観客席の位置が明確に示されていなければなりません。同時にチケットに記載された情報は、スタジアム内外のサイン看板に記される情報と完全に合致していることが必要です。チケットと該当する観客席のエリアを同色に分類することも、効果的です。

観客に対するサイン看板として、壁面に大型のサイン看板を設置してください。スタジアムを初めて訪れる観客のために、各エリアの外側の動線部分に総合案内所を設置してください。

サイン看板はより簡潔で、観客の進行方向を明確に示すものでなければなりません。同時に緊急事態発生時の避難動線を明示している必要があります。

6. 6 場内情報システム

6. 6. 1 場内放送システム

スタジアム内の全てのエリア、観客席、運営諸室及びピッチレベルで明瞭に聞こえ、放送内容が完全に理解できる性能を有した場内放送システムが備わっていなければなりません。

イベント主催者とスタジアムの安全管理者は、高性能で信頼できる場内放送システムを使用して、スタジアムの内外にいる観客に明確に情報を伝達できることが重要です。

システムの要件；

一スタジアムの管理室内あるいは管理室に隣接する場所など、オペレーターがスタジアム全体を見渡せる場所に場内放送室を設置すること。

一ゲート、スタジアム内部の各室、ホスピタリティ施設、観客席など、スタジアムのエリアごとに個別に放送できること。チーム更衣室などに一般用の放送が入らないこと。

一声援が大きい試合中も、観客がメッセージを確実に聞き取れるように、十分な音量が確保できること。

一緊急事態の発生時には、スタジアムの管理者がいつでも別の音源に割り込める優先機能を備えること。

十分な予算がある場合は、場内放送システムよりもコストはかかるものの、より性能の高いスタジアム音響システムの設置も効果的です。音響システムは、音楽を提供でき、アナウンスが明瞭に聞き取りやすいなど、場内放送システムを上回る確かな利点があります。

場内放送システムは緊急事態発生時を想定し、主催者がいつでも割り込んで放送できるように装置を設置しておかなければなりません。全関係者の安全を確保するための放送は、いかなる場合でも優先される必要があります。また、停電や緊急事態発生時を想定して放送用予備電源を備えておくことも重要です。

6. 6. 2 大型映像装置

大型映像装置には、スコアボードの機能に加え、出場メンバーを表示します。また、大型映像装置で広告スポットを流すことが、スタジアムにとって収益源の一つとなっていることも少なくありません。

スタジアム内のどこに映像装置を設置するかは、設計プロセスの初期段階に検討すべき重要な問題です。より多くの観客席から視界に入る位置に、大型映像装置を設置することが望まれます。通常、2台以上の大型映像装置を設置すれば、

全エリアの観客が比較的無理なく画面を直接見るできるようになります。

また大型映像装置を設置する場合は、観客席を削減しなければならない可能性もあります。一般的な設置場所は、対角線に向かい合ったコーナーに各1台、あるいはゴール裏に各1台です。その他、サイドとエンドのスタンドに挟まれたコーナー部分やスタンドの屋根の上に設置したり、その屋根から吊るしたりすることもできます。

大型映像装置が設置されているスタジアムでは、場内放送システムと併用し、大型映像装置を活用し安全や警備に関する情報を的確に観客に伝達することができます。

また、大型映像装置は場内放送システムと併せ、観客により快適な観戦を提供します。キックオフ前やハーフタイムに映像を流す、試合中に両チームのメンバーや得点を掲示するなど効果的な方法です。運営担当者のアイディア、工夫によって、スタジアムをより素晴らしい空間へと導いてくれるはずです。設置場所に関する主な決定要因は、すべての観客が最適な形で見るができること、観客席を削減せずに済む、あるいはその数を最小限に抑えられること、一観客にとって危険がなく、また観客へ干渉しない場所に設置することなどです。

試合中の即時リプレーの程度については、スタジアムやサッカー関係当局によって一部制限されていますが、より多くのリプレーを求める声は高まりつつあります。こうした理由から、近代的で豪華なスタジアムという評価を望むのであれば、最新の高性能な大型映像装置の設置は必須条件だといえます。

6. 6. 3 時計 (45分計)

0から45分間を表示できる独立した時計(45分計)を設置します。時計は、前半は0から45分、後半は45分から90分の間動作しなくてはなりません。前後半それぞれの通常の競技時間の最後、45分と90分に、時計がとめられなくてはなりません。

6. 7 身障者への対応

6. 7. 1 車椅子席の確保

全てのスタジアムは、身障者が一般の観客と同じ条件で安全に、かつ快適に観戦できるように観客席を配慮されなくてはなりません。そのためには、見晴らしが良い十分な車椅子席、介助者の椅子、車椅子用のスロープ、手すりの付いたトイレ等のサポート、サービスが必要になります。

車椅子席は、その前段でジャンプする観客やスタンドに吊るされたフラッグやバナーなどで、視界が妨げられる可能性のある場所には設置しないでください。

6. 7. 2 車椅子用動線の確保

車椅子用駐車場を用意し、そこから観戦エリアまで車椅子のまま直接アクセスできるようにします。昇降にはエレベーターなどが利用できるように動線を計画してください。

緊急事態発生時の避難動線は、ピッチまたは広いコンコースに少なくとも2系統以上確保されていなければなりません。同時に他の観客の避難動線上、もしくは避難の妨げの可能性のある場所に、車椅子席を設けてはなりません。

VIP、VVIP、メディア、放送、選手用施設も含め、車椅子の観客がどの入口からもスタジアムに入場できるように考慮し、また、観戦エリアに到着するまでにはなほだしい不便があったり、他の観客に迷惑がかかったりしないように配慮してください。

こうしたエリアには、各車椅子席の側に介助者用の椅子席や電動車椅子の充電用の電源も用意してください。車椅子用のトイレは、観戦エリアに近く、すぐに利用できる場所に設置してください。飲食売店も同様です。

6. 7. 3 その他

視覚障がい者に対する点字サインや誘導ブロック等の配置も検討してください。特に、誘導ブロック上に通行を妨げる物を設置しないようにしてください。

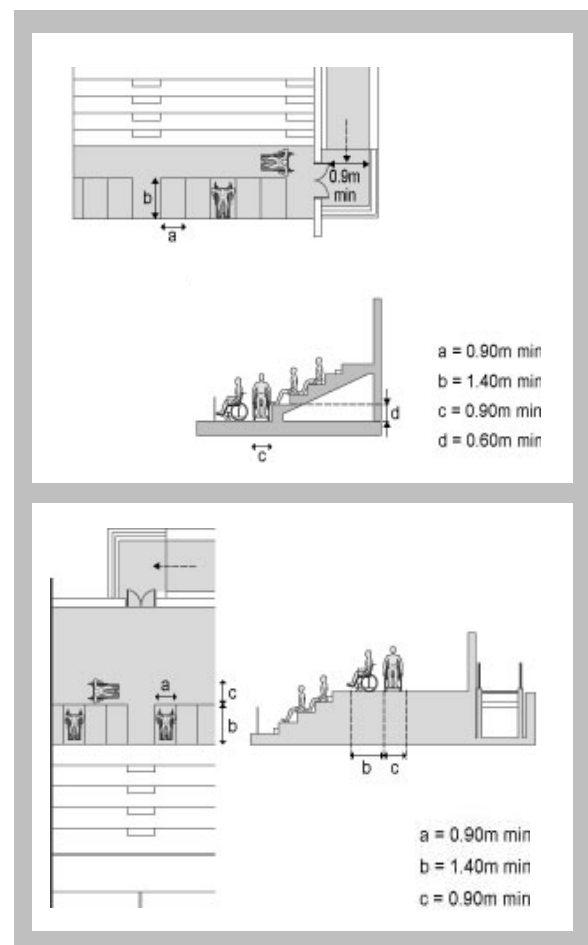


図6-2 車椅子席

第7章 ホスピタリティ関連事項

スペシャルゲストに質の高いホスピタリティを提供することが、諸外国ではイベントマネジメントの最重要要素の1つとなっています。それはまた、サッカースタジアムの資金面からもその重要性を高めています。

7.1 VIP・VVIPへの対応

7.1.1 VIP・VVIP席の確保

サッカースタジアムにおけるVIPとVVIPへのもてなしは、現在、世界各国で一般的な習慣となっています。関係者は試合前に飲食を取り、試合開始後は専用の観戦エリアからプライベートに試合を楽しむことができますし、また好みに合わせて、隣接する専用席からの観戦も可能です。こうしたVIP・VVIPの確保は、サッカースタジアムにおける大会運営上の重要な収入源にもなります。

通常のVIP席の他に、招待者へ軽食などのサービスの提供を目的とした、個室タイプのスペースを設定することが望まれます。これらの他に、簡単なパーティーが実施できる規模の部屋を確保することが可能であれば、なお良いでしょう。

7.1.2 VIP・VVIP席のホスピタリティ

メインスタンド側の中心で、ピッチレベルから適度な高さを有した場所に位置していることが理想的です。また、この席は一般観客席と明確に分離されていなければなりません。

多くのスタジアムでは、スタジアムまたはホームチームのスポンサー企業のために、最高級のVIPホスピタリティ施設を最も観戦しやすい場所に用意しています。また、VIP施設などの専用施設をランク分けして運営しているスタジアムも多々あります。トップランクの施設には、一般に専用のVIP用駐車場とVIP入口、最高級専用ダイニングルームの他、専用のバー、冷蔵庫、テレビ、トイレなどを備えた、スタンド中央に位置する観戦施設が含まれます。基本コンセプトは、ホストがゲストを適切にもてなし、ゲストに心から楽しんでもらうことができる最高のホスピタリティ施設と観戦体験を提供することです。

その他のランクでも、その料金に応じたメリットが用意されています。専用の観戦施設は利用できないかもしれませんが、ラウンジエリアに出入りでき、専用ダイニングルームでの食事も予約可能です。こうした施設の数と豪華さはスタジアムの規模や性格により、大きく異なりますが、ほとんどの場合は地域の経済状況に左右されます。したがって、こうした施設のニーズについては、投資前に綿密な調査が必要です。

その他、結婚式、ディナーなどに使用できる集会場、小規模な会議に使用できる会議室、一般用レストランなどの施設をスタジアムに設置すれば、サッカーの試合開催日以外にも日常ベースの収益を確保することができます。

7.2 VIPエリアとVVIPエリア

7.2.1 VIPエリア

①場所

メインスタンド側の中央部、フィールドよりも高い場所に設置し、一般の観客席エリアとは区分します。VIPエリアは必ず、更衣室、メディア施設、管理オフィスなどにアクセスできる位置に設置してください。

②アクセス

VIPエリアには、一般入口とは離れた場所に専用のVIP入口を設けます。入口からは、VIP受付を通過して直接、観戦エリアに向かうことができます。フロア間にはエレベーターやエスカレーターを設置します。安全なエリアを通る代替アクセス経路も用意してください。その他、使節団やオプザーバーなどがチーム更衣室を訪れる必要がある場合に、VIPエリアからまっすぐ安全に更衣室へ向かえるように配慮してください。

③VIP席

個別に番号の付いた、質の高い椅子席を使用し、アームレストとクッションも装備します。屋根で覆われた椅子席からは、フィールド全体を支障なく完全に見渡せるようにしてください。また椅子席の前後には、他のVIPの迷惑にならずに出入りできるだけの十分なレッグスペースを確保してください。

④収容人数

スタジアムの規模により異なりますが、大規模な国際試合の開催を想定するスタジアムの場合は、500席程度確保されることが必要です。試合の要求レベルに応じて、エリアを拡大できるようにしておくことが望まれます。

⑤VIPラウンジ

VIPラウンジには、VIP用の飲食スペースを用意し、VIP席のすぐ後方に設置します。要件は以下のとおりです。
—VIP席から直接アクセスできること
—対象人数に応じた、十分なトイレ(男、女用ともに)を確保すること
—エリア内、もしくは隣接した状態でパントリーを配置すること

Japan Football Association Stadium guideline

- スペースに応じて、VIPラウンジを設置すること
- テレビ観戦できる場所を設けること
- 電話（外線/内線）を設置すること
- 空調設備を備えること
- ケータリング専用エレベーターを設置すること
- パントリーに行きやすい場所に設置すること

7. 2. 2 VVIPエリア

①場所

VVIPエリアの隣

②アクセス

VVIPのアクセス経路には、一般観客が進入することのない、セキュリティレベルの高い経路を指定してください。また、エレベーターやエスカレーターの動線を確認してください。VVIPの乗った車には、必ず警備車両を付け、メインスタンド下の専用のVVIP駐車場に直接、乗り入れてください。

③VVIP席

各席には固有の番号を付け、ゆったりとした背もたれ及び肘掛けが設置されていなければなりません。VVIPラウンジは可動間仕切り等でVIPラウンジと区分してください。

④VVIPラウンジ等

VVIPラウンジを設置することが望まれます。VVIPラウンジは25人分の食事が提供できるダイニングルームを設置してください。ケータリング専用のエレベーターが必要となります。

⑥トイレ

VVIPエリア用とは別に、VVIPエリア用のトイレが必要です。

第8章 安全管理関連事項

スタジアムの計画は、投資規模によってその内容は大きく異なりますが、規模の大きさにかかわらず最も優先される事項は、観客、選手、役員、関係者などの施設利用者の安全を確保することです。スタジアムの建設及び管理運営に携わる人々全員が、安全の問題を計画の初期段階から完全に理解しておく必要があります。

8.1 安全管理責任

スタジアムにおける安全は、観客、選手・審判、試合関係者など施設を利用する全ての人々を対象とします。その安全を担保するための明確な体制を確立することが必要です。

8.1.1 安全管理の 카테고리

安全管理の分野は、以下のような大きなカテゴリに整理できます。

- ①防犯及び暴徒化対策
- ②選手の安全対策
- ③防災対策（火災・震災等）
- ④緊急医療対策
- ⑤テロ対策（爆弾脅迫、不審物）

以上のような安全管理の 카테고리別に、その責任と対処方法を確立する必要があります。事が起きてからでは手遅れです。

8.1.2 危機管理計画の立案

様々な安全管理に対する責任と対処方法など下記の事項について、安全管理のルールを確立してください。

- ①各安全管理の 카테고리に対する責任の明確化
- ②指示命令システムの確立
- ③危機管理のトレーニング
- ④安全監査（検査や監視する体制・システム・設備）

以上のような安全管理、危機管理に対する対処方法を明確化した危機管理計画、危機管理マニュアルの作成が必要です。

8.1.3 ゾーン管理・動線分離

観客、チーム関係者、試合運営関係者、VIP、メディア関係者などの諸室、エリアを明確に分離し、ゾーン間の移動を絞り、移動のチェックを強化するようなシステムが効果的です。そのためには、それぞれの活動エリアが明確な固まりとして、管理できるような諸室配置や区画設備、チェック体制を総合的に設計、計画することが重要です。

8.2 防犯及び暴徒化へのセキュリティ

8.2.1 自主警備

警備全体を考えると、わが国の場合は所轄警察と自主警

備の2系統により体制が組織されます。試合の規模、種類、試合をとりまく状況により警備体制は異なってきますので、その都度所轄警察に相談の上、適切な警備体制を組織する必要があります。

8.2.2 警備本部室

スタジアム内全体を見渡すことのできる位置に、自主警備本部が確保されなければなりません。警備本部室には、場内放送システム及び警備を目的とした場内監視用のモニターが必要になります。主催者のうち自主警備責任者には、いつでも必要ときに優先的に放送することのできる権能を付与しなければなりません。

8.2.3 テレビ監視システム

監視用カラーテレビカメラをスタジアムの内外に設置してください。スタジアムへのすべての進入路とスタジアム内外のすべてのパブリックエリアを監視します。待機スペースなどスタジアム入場前に観客が滞留するスタジアム周辺もスタジアムの一部として監視できるようにしてください。

テレビ監視システムには、それぞれ独立した電源と専用回線を装備します。モニターのある監視室から、スタジアム内外の写真撮影などの各種操作を行えるなど、管理・制御できるようにしてください。

不法行為の状況を記録ができる録画機能を持つことは当然、即時、状況に対応できるようモニター再生やプリントアウトできることが必要です。

8.3 フィールドへの観客の乱入阻止

安全確保のために、フェンス等によって観客席とピッチが仕切られるのは、決して望ましいことではありません。また、美観を損なうような障害がないほうが、より快適な環境をつくりだせることに疑問の余地はありません。

しかしながら、何らかの策を講じて、観客がピッチに進入できないような状態をつくりだし、試合の安全を確保する必要があります。この目的は何にも増して優先されなければなりません。

8.3.1 警備員の配置

フィールドへの観客の乱入を防ぐためには、訓練された警

Japan Football Association Stadium guideline

備員の配置や警察等との協力等、運営する側の対応と施設側の要件である以下の手段を単独もしくは複数を組み合わせて用いることにより達成されます。

8. 3. 2 フェンスとスクリーン

乗り越えることのできない透明もしくは半透明のスクリーンを、観客席最前列に設置する方法もあります。この方法の利点は、取り外し式にすることにより、必要のない試合では、スクリーンを取り外した状態にすることが可能なことです。

また、水滴等の付着により、観客の視界を妨げる可能性がある点に留意し、事前に対応策を検討すべきです。

8. 3. 3 侵入防止柵

ピッチレベル上に柵等を設置し、抑止効果を高めると共に、万が一、観客席からピッチレベルに侵入した者が、容易にピッチ内へ侵入できないようにすることもできます。勿論、試合の妨げにならないよう配慮しなければなりません。

8. 4 防災対策

8. 4. 1 構造上の安全性

スタジアム内の全ての設備について、その安全は国、該当する自治体の定める建築基準を満たしていることが絶対条件です。

特に地震多発地域に属するわが国においては、大規模な地震を想定した上で建設計画を進めることが重要です。同時に、地震発生時の避難動線を考慮した計画を立案する必要があります。

8. 4. 2 火災予防

スタジアム内の消化設備及び火災予防策は、所轄消防署の規程に則ったものであり、火災予防基準(条例)に合致したものでなければなりません。

消火設備等の危険設備は、観客を含む全ての関係者の動線上もしくは付近に設置されないよう留意してください。また、避難経路上には、避難の妨げとなるモノを置かないように、識別できるようなマーキングなどの工夫も必要です。

8. 4. 3 避難経路

スタジアム内の観客の動線で、緊急避難時も考慮した安全

な動線を確保することが必要です。特に傾斜の急な階段の昇り降りには十分な安全配慮が求められます。

また、緊急事態の発生により、パニック状態に陥ったことを想定し、最小限の時間で、全観客を安全にスタジアムから退避させるための方法を熟慮しておくことが重要です。この場合は所轄警察を含む、地域の関係機関と協議の上、合意しておくことが必要です。同時に折りに触れて、観客に緊急事態発生時の対応について、伝達しておくことも必要になります。

入場口、退場口、階段、ドア、避難経路、屋根、全ての一般エリアと専用エリア、各部屋などスタジアムの全エリアが、警察、消防など関係当局が定める安全基準に準拠したものでなければなりません。

観客席とフィールドの間にフェンスやスクリーンを使用する場合は、緊急事態が発生した際に、観客席エリアからフィールドへ観客が避難するのに十分な数の緊急避難口を設置してください。その数、寸法、構造等については、地元の消防署と協議してください。

観客席エリアの一般用通路や階段には、行き先が明確に分かるサイン看板を表示してください。観客席エリアからフィールドへ通じる全てのゲート、スタジアムから外へ通じる全ての退場口とゲートも同様です。また、一般用通路、廊下、階段、ドア、ゲートなどには、観客の通行を妨げる恐れのある障害物を絶対に置かないでください。

スタジアムの退場口とゲート、観客席エリアからフィールドへ通じるゲートは、全て観客から見て外側へ開くようにし、スタジアムに観客がいる間は必ず開錠しておくようにしてください。不法入場及び試合日以外の侵入を防ぐために、ドアやゲートには、中から簡単にすぐ操作できる施錠装置を取り付けることもできます。

また、各ドアとゲートには、いたづらを防止し、緊急事態発生時に速やかに観客を避難経路に誘導するために、必ず専任の担当者を常駐させてください。

8. 5 緊急医療対策

スタジアムには、医師の助けの必要な観客に処置を講じる医務室（一室、あるいは複数）を設置してください。室数、規模、場所等については、地域の消防署と協議の上、決定してください。また、スタジアムの各所、アクセスがしやすい

Japan Football Association Stadium guideline

場所に自動体外式除細動器（AED）を設置してください。

なお、大規模災害への対処法については、地域の関係当局とスタジアム管理者の間で協議してください。

医務室の要件は以下のとおりです。

- 観客や救急車両がスタジアムの内外からアクセスしやすい場所に設置すること。
- 医務室に通じるドアと通路には、担架や車椅子が通れる十分な広さを確保すること。
- 明るい照明、良好な換気、暖房、空調、電源コンセント、温水・冷水及び飲料水の供給、男女用トイレ等の設備を備えること。
- 薬品用のガラスキャビネットを備えること。
- 担架、毛布、枕、救急用具等の収納スペースを設けること。
- 内線通話と外線通話が可能な電話を設置すること。
- スタジアムの内外に、医務室の場所を示すわかりやすいサイン看板を設置すること。

安全管理者は、観客エリアを監視するとともに、スタジアム内に緊急車両がアクセスできるようにしてください。その動線は観客の動線とは別の経路を設けるか、観客の経路を遮断しないように、緊急車両を駐車できるスペースを確保してください。

8. 6 その他

試合のレベルに対応したセキュリティの警戒レベルを設定し、観客がスタジアムの建物に入る前に、それぞれの警戒レベルに応じた手荷物等の検査を実施する仕組みを持つことが必要です。

観客がスタジアム内に入場した後は、観客エリア間の移動を制限することが必要です。そのためには、エリア間の移動を阻む柵などの区画や移動をチェックする体制が重要です。

同様に、試合関係者、メディア関係者、VIPなどのエリアも明確に区分し、人の移動を制限することが必要です。そのためには、関係する諸室をまとめて配置し、動線を単純化し、エリア間の明確な区画や移動をチェックしやすいように設計の段階から検討することが必要です。

第9章 照明と電力供給

放送局、観客、選手他関係者のニーズに適った照明システムを設置してください。周辺に光が漏れず、地域の迷惑とならないことも要件となります。

9.1 電源

停電が原因で、試合を中止または延期せざるを得ない状況は許されません。

比較的電力供給が安定的である我が国では想定しにくいですが、海外や国際イベントなどの場合、一般系統電源に対する慎重な評価とともに、バックアップ電源の使用とライドスルー能力についても検討が求められる場合があります。バックアップ電源には、試合中の施設を維持できる十分な能力が必要です。その場合、系統電源をそれぞれ常時電源とバックアップ電源として使用するか、マニュアルまたは自動のタイスイッチで配電を切り替え、両系統を常時電源として使用するやり方が考えられます。系統電源に異常が発生した場合、バックアップとしてオンサイト電源がすぐに作動する必要がありますが、タイムラグは避けられません。したがって、バックアップ電源には、その作動までの数分間、照明（一般にHIDランプを使用）を維持し、放送の中断を回避するためのライドスルー能力が求められます。ライドスルー能力としては、専用発電機や無停電電源装置（UPSシステム）などさまざまな方法が考えられます。なお、バックアップ電源には、停電時も最低3時間は作動できる能力が必要とされています。

ライドスルー能力は緊急時の避難ではなく、主としてイベントの継続に必要となるため、イベント用とライフセーフティシステムとの配電を分離する必要があります。また系統電源とバックアップ電源の設置に必要な設備スペースについても、その配分計画が必要です。スタジアムの施設維持のためにも、ライドスルー能力を備え、配電を切り替えることができる電源設備の実現が薦められています。

9.2 設備要件

9.2.1 概要

照明システムの主な目的は、時代に応じた高画質な放送が可能なイベント照明を実現することにあります。ただし、選手他関係者に不快なグレアが生じず、観客と周辺地域に漏れ光やグレアが生じない配慮が必要です。常設照明、仮設照明、あるいは両システムの組み合わせなども検討してください。

一環境

フィールドとスタジアム内外の漏れ光とグレアを抑制でき

るように、十分な配慮を行ってください。

一選手と関係者

選手と関係者が十分に能力を発揮でき、試合レベルが高まるような照明環境を実現する必要があります。

一観客

観客が試合、スコアボード、大型映像装置、フィールド上のプレーを快適に見ることができる、グレアと漏れ光のない環境を実現する必要があります。

一メディア

強い影やグレアのない均一な照明下で、デジタル画質の試合中継と録画が実現できるように配慮してください。

Japan Football Association Stadium guideline

9. 2. 2 照明設備の設置高さ

照明設備の設置高さは、優れたスポーツ照明システムの実現に欠かせない条件です。タッチライン側のヘッドフレームと支柱の設置高さは、ピッチの中央からスタンド方向に向かって、水平に対して 25° の角度となるように設置します。ヘッドフレームと照明器具の角度は、この 25° の角度を基準に 45° までの範囲内とします。

9. 2. 3 カメラの視界

臨場感あふれる放送を実現するには、さまざまなカメラポジションが考えられます。照明の仕様を検討する際は、実際に使用するカメラポジションに注意してください。高品質な映像を制作するには、各カメラに十分な明るさが提供されなければなりません。必要に応じて、しかるべきテレビ局、または地域を代表するテレビ放送協会に助言を求めてください。

照明システムの主な目的は、ピッチ全体に均一な照明を実現することにあります。それに加えて、固定カメラとフィールドカメラにも、デジタル画質を可能とする、ムラのない均一な明るさが提供されなければなりません。

9. 2. 4 選手とカメラが見る角度

最も重要な設計要件は、選手、関係者、メディアにグレアのない環境を実現することです。以下の2つのエリアについては、5つの試合カテゴリーのすべてで「照明が目に入らないエリア」となるように配慮してください。

—各コーナーとゴールラインエリア：

ゴールキーパーとコーナー側から攻める選手にとって良好な視覚環境を維持するために、ゴールラインを中心にした両サイド 15° のエリア内には照明設備を設置しないでください。

—ゴールラインの後方：

ゴールキーパーとゴール正面から攻める選手、またピッチの反対側エンドのメディアにとって良好な視覚環境を維持するために、ゴールラインから上方向に向かって 45° 、ゴールライン後方のタッチラインから外へ 20° の範囲内には照明設備を設置しないでください。

9. 2. 5 シャドウコントロール（マルチゾーン照明）

ピッチにできる強い影は、高精細なデジタル画質を追求するメディアにとって最大の問題点の1つとなっています。マルチゾーン照明とは、ピッチの同一の場所を複数のヘッドフ

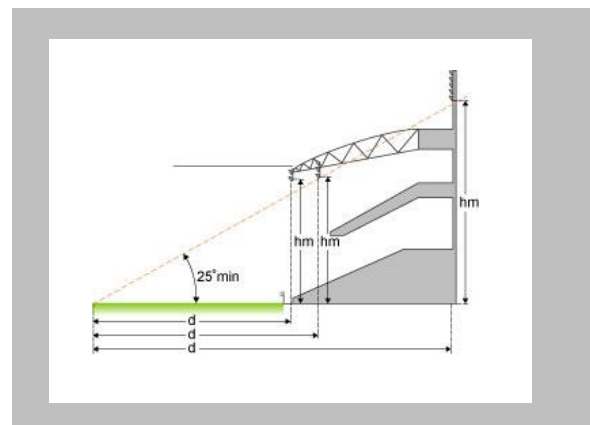


図9-1 照明設備の設置高さ

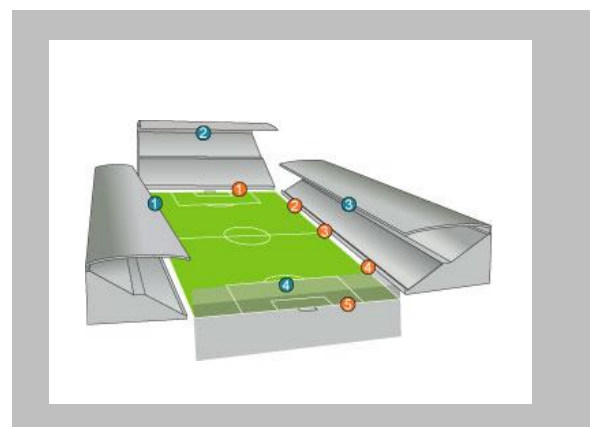


図9-2 標準的なカメラポジション

Japan Football Association Stadium guideline

レームから照らす方法をいいます。各方向から照らすことで、ピッチにできる選手の強い影をやわらげることができます。

図では、ピッチを3つのゾーンに分割しています。ゾーン1はそれぞれピッチの両端部にあたり、ゾーン2はピッチの中央部にあたります。国際試合では、各サイド4基以上のヘッドフレームから、テレビ放送される国内試合では、各サイド3基以上のヘッドフレームから各ゾーンを照明します。モデリングを完成させるには、選手を各方向から照明し、均一な照明環境を実現させてください。ピッチ上に強い影が見られなければ、影のない環境も実現されているといえます。

9. 2. 6 配置計画（未放送試合）

国際試合やテレビ放送される国内試合を開催する場合は、高画質なデジタル放送に適した照明設備を設置する必要がありますが、テレビで放送しない試合を開催する場合は、マルチゾーン照明を実施する必要はありません。放送予定のない国内試合やリーグ戦、強化試合などでは、標準の照明設計ガイドラインを適用してください。

ピッチにできる強い影は、高画質なデジタル放送を実現する上で最大の問題点の1つとなっています。

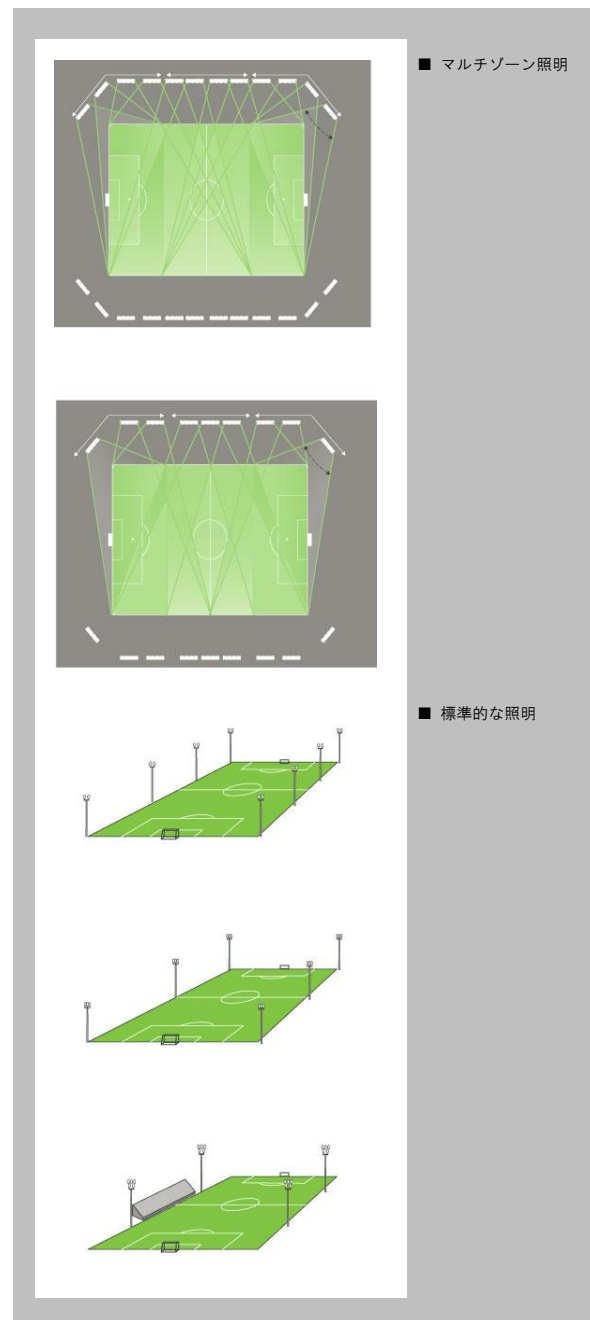


図9-3 マルチゾーン照明と標準的な照明

9. 3 照明の設計仕様と技術

サッカースタジアムには、時代に応じた高精細なデジタル画質放送に適した照明システムが求められます。したがって、専門家による適切な指導を受けて設計して下さい。

9. 3. 1 照度

Jリーグの基準では、1,500ルクス以上の照度をもつ照明装置を設置しなくてはなりません。

一般的に、照度には水平方向の均一性をみる水平面照度があります。水平面照度とは、フィールドから1mの高さの水平面に届く光の量（照度）のことをいいます。フィールドを10m×10mのグリッドに分割し、各所の照度を計測します。そして、フィールド上の最大／最小／平均水平面照度を算出します。また、サッカーはスピードを要求されるスポーツです。ピッチ全体に均一な照明を実現することで、選手のパフォーマンスは向上し、優れた映像による臨場感あふれる放送が可能となります。

その他、フィールドカメラに対する鉛直面照度にも配慮する必要があります。鉛直面照度とは、選手を囲む鉛直面に届く光の量（照度）のことをいいます。鉛直方向に対する照明のおかげで、選手の顔や試合中のプレーなどの細かな動きを確認することができます。これらの画像は、手持ちタイプと可動タイプを含めたフィールドカメラが捉えます。鉛直面照度にムラが生じると、デジタル画像の悪化につながります。したがって、照明システムには、フィールドカメラに対して均一な照度を実現できる設計が求められます。

また、固定カメラに対する鉛直面照度についても同様です。メインスタンドとバックスタンド、ゴール裏スタンドの各カメラが捉える、ピッチ上の鉛直方向の照明の明るさを、固定カメラに対する鉛直面照度と呼びます。ピッチをパンするこれらのカメラは、試合中にピッチ全体を映し出す必要があります。鉛直面照度にムラが生じると、デジタル画像の悪化につながります。したがって、照明システムには、固定カメラに対して均一な照度を実現できる設計が求められます。

9. 3. 2 色温度と演色性

色温度は、一定タイプの照明がどの程度、暖かく（赤っぽく）見えるか、冷たく（青っぽく）見えるかを表します。単位には「ケルビン（Tk）」を使用します。最新のデジタルカメラ技術であれば、必要に応じて、画像の色やコントラスト

を好ましい状態に調整することができます。野外スタジアムの場合、適切な色温度はすべての試合カテゴリーで $Tk \geq 5,000$ とされています。

また、演色性（Ra）とは、人工光源が自然の色を忠実に再現できるかどうかを表す指標です。これは、Ra20～Ra100の実用的なスケールで表され、演色性が高ければ高いほど、色の再現性が優れていることとなります。人工照明システムの演色性は、テレビ放送試合、未放送試合を問わず、 $Ra \geq 65$ が求められています。

9. 4 環境への影響

光害と障害光は主に、漏れ光とグレアに分類されます。漏れ光とは、スタジアムから漏れ、その周辺地域に照射される光のことをいいます。グレアとは、スタジアム外の歩行者や運転者の障害となる眩しすぎる明るさのことをいいます。こうした障害は、スタジアム周辺地域の夜空を明るく照らし、住民の健康と生活に大きな影響を与えることとなります。スタジアム内外の漏れ光とグレアを防ぐために、最大限の努力を尽くしてください。最新スタジアムの設計にあたっては、テレビ放送試合も考慮し、漏れ光とグレアを抑えるために、シャープカットオフ反射板や高性能反射板の使用を検討してください。

資料 1 諸施設一覧表

これまでに、各章で整理してきたスタジアムの試合開催レベルに対応した具体的な諸室、設備、システムについて、クラス別の必要性を、一覧表として整理しました。

1) 交通関連 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応							本編
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3	クラス 4	
				新設	既設	新規	既設			
交通関連	スタジアムへのアクセス	鉄道・地下鉄など複数の公共交通利用	◎	○	▲	○	▲	▲		2.2.1
		幹線道路からのアクセスの利便性	◎	○	▲	○	▲	▲		
		歩行者動線の安全性、快適性の確保	◎	○	▲	○	▲	▲		
	一般入退場待機スペース	入場前の待機スペース	◎	◎	○	◎	○	▲		2.2.1
		照明設備、電源、場内放送システム、トイレ	◎	◎	○	◎	○	▲		
	チームの動線確保	入場券売場の設置	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲	2.2.2
		一般観客、報道関係者動線との分離	◎	◎	○	◎	○	▲		
		更衣室・ウォームアップエリア・フィールド間の動線	◎	◎	○	◎	○	▲		
		担架等の通行に支障のないスペース	◎	◎	○	◎	○	▲		
	報道関係者の動線確保	スパイクでも滑りにくい床材	◎	◎	○	◎	○	▲		2.2.4
		フィールドに入る部分の安全確保	◎	◎	○	◎	○	▲		
		チーム・一般観客・VIP 動線との分離	◎	◎	○	◎	○	▲		
	VVIP 対応の動線確保	メディア作業エリア間の動線確保	◎	○	▲	○	▲	▲		2.2.3
		機材用の関係諸室アクセス	◎	◎	○	◎	○	▲		
	VIP 対応の動線確保	セキュリティレベルの高い経路	○	○	▲	○	▲			
		VVIP 車寄せ・専用動線	○	○	▲	○	▲			
	フィールドへのアクセス	専用のVIP 入口の設置	◎	◎	○	◎	○	▲		2.2.8
		専用動線	○	○	▲	○	▲			
駐車場	一般及び身障者用	ピッチ周辺まで車両通路の確保(フィールド管理車両も利用)	◎	◎	○	◎	○	▲		2.3.1
		照明やスタジアムへのサイン看板などの設置	○	○	▲	○	▲	▲		
		身障者用との兼用可	○	▲	▲	▲	▲	▲		
	メディア用	入場口近辺に身障者用スペースを確保	◎	◎	○	◎	○	○	▲	2.3.2
		専用駐車場の確保	○	○	▲	○	▲			
	テレビ中継車両用	機材の搬出入を考慮し、メディア作業エリアに近い場所に配置	○	○	▲	○	▲			
	VIP・VVIP 用	専用駐車場の確保、地盤補強	◎	◎	◎	◎	◎	▲		2.3.3
		専用駐車場の確保	◎	◎	◎	◎	◎			
	チーム用	VIP 席数に対応した十分なスペースの確保	◎	◎	◎	◎	◎			2.3.3
		更衣室に直結した専用の駐車場の確保	◎	◎	◎	◎	◎	○		
緊急車両用	大型2台、乗用車3~4台	◎	◎	◎	◎	◎	○		2.3.3	
	救急車等	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲		
サービススタッフ用	救急車等	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲		

◎は原則的に必ず設置する事項／○は設置すべき事項／▲は設置を推奨する事項／無印は必要に応じて設置する事項

Japan Football Association Stadium guideline

2) フィールド関連 諸施設チェック表

	諸機能	備考	クラス別対応							本編	
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3	クラス 4		
				新設	既設	新規	既設				
フィールド関連	ピッチ	ピッチサイズ	長さ;105m、幅;68m	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.1.1
	芝面	サッカースタジアム	長さ;115m以上、幅;78m以上 ※ピッチの外側に向かって5m以上必要	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	3.1.1
		多目的	長さ;108m以上、幅;71m以上	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	3.1.1
	フィールドの向き		太陽の位置や日常の風向きを考慮して決定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.2
	フィールドの状態		平坦で水はけが十分であること	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.3
			天然芝がピッチ全面を覆っていること	◎	◎	◎	◎	◎	◎		3.4
			年間を通じて常緑であること	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	3.5
	設備等	ゴール	白色・丸型(直径12cm)、固定方法	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.6.1
			埋め込み式	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			予備のゴール	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
		ゴールネット	(ゴールネット)ボールを反発する補強材を使用しないで取り付けるもの	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		ベンチ	透明な屋根付き13名以上。固定式。第4の審判員ベンチ設置(本文参照)。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	▲
	フィールド内 広告看板	高さ;90~100cm	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		3.6.4

3) 試合関係者関連 諸施設チェック表

	諸機能	備考	クラス別対応							本編	
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3	クラス 4		
				新設	既設	新規	既設				
試合関係者関連	チーム	チーム更衣室	4室又は2室・120㎡以上	◎	◎	○	◎	○	▲		4.1.1
		監督室		◎	◎	○	◎	○	▲		4.1.2
		ウォームアップエリア	芝生を敷設(人工芝も可)2か所設置	◎	◎	○	◎	○	▲		4.1.3
	運営進行	運営本部室	机、椅子、空調設備、電源、電話回線を設置	◎	◎	◎	◎	◎	▲		4.2.1
			200㎡以上	◎	◎	○	◎	○	▲		
		場内放送システム	スタジアム内外の放送システムを設置	◎	◎	○	◎	○	▲		4.2.2
			緊急事態発生時に非常用放送ができること 運営本部から割り込みできること	◎	◎	◎	◎	◎	▲		
		記録室	机、椅子、モニター、電話	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	4.2.3
			ピッチ全体を見渡せる場所	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
		コミショナールーム	デスク、椅子、ロッカー、電話(外線/内線)	◎	○	▲	○	▲			4.2.4
		審判更衣室	4人収容可能な部屋2室。	◎	◎	○	◎	○	▲		4.2.5
		医務室	本文を参照。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	4.2.6
		ドレッシングルーム	本文を参照。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	4.2.7
	予備室		○	○	▲	○	▲			4.2.8	
	試合関係者入口		◎	◎	○	◎	○			4.3.1	
	倉庫・予備室		○	○	▲	○	▲	▲		4.3.2	
	掲揚ポール(ハトン)	フラッグを掲示できる設備の設置	5旗	5旗	3旗	5旗	3旗	3旗		4.3.3	

◎は原則的に必ず設置する事項/○は設置すべき事項/▲は設置を推奨する事項/無印は必要に応じて設置する事項

Japan Football Association Stadium guideline

4) メディア関連 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応						本編			
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3		クラス 4		
				新設	既設	新規	既設					
メディア関連	記者席等	記者席	本文を参照。	400 席	120 席	120 席	50 席	50 席			5.1	
		中継用実況放送室	本文を参照。	◎	◎	○	◎	○				5.2
	会見等	記者室(兼カメラマン室)	フォトグラファー兼用の記者室の確保	400 m ²	200 m ²	200 m ²	100 m ²	100 m ²	50 m ²			5.3.1
			男女用トイレの設置	◎	◎	◎	◎	◎	▲			
			デスク、電源、電話、事務機器等	◎	◎	○	◎	○				
		記者会見室	設置(記者室との併用可能)	◎	◎	○	◎	○				5.3.2
			舞台、音響システム	○	○	▲	○	▲				
	ミックスゾーン		◎	◎	○	◎	○				5.3.3	
	テレビカメラ	多元放送	本文を参照。	◎	◎	○	◎	○				5.4.1
		一元放送	本文を参照。	◎	◎	○	◎	○				5.4.2
	テレビカメラ		<ul style="list-style-type: none"> ■テレビ中継関連カメラ設置スペース：メインスタンド中央部 4 台分(4 m²×4 台) 両ゴール裏スタンド中央部 2 台分(4 m²×2 台) メインスタンド側ペナルティエリアを囲むラインのうちゴールラインと平行なライン付近各 1 台分(4 m²×1 台×2 箇所) 常設・専用のスペース ■テレビニュース関連：ENG カメラ設置スペース。(ENG)メインスタンド中央部 10 社分(4 m²×10 社) ■カメラスペース：メインスタンド中央部に 10 社分(4 m²×10 社)のスペース ■ケーブル設置スペース：中継車とカメラおよび放送ブース間) ■伝送用機材等(アンテナ/アンテナ搭載車両/光ファイバー用端末)設置スペース。スタジアムからテレビ局および中継基地へ試合中継映像を伝送するために必要な以下の機材等を設置するためのスペース。テレビ局および中継基地へ伝送するためのアンテナ。衛生へ伝送するためのアンテナ搭載車両。光ファイバー用端末。すべて備わっていることが絶対条件ではないが、いずれか 1 つは必須) 									
	スチールカメラ	駐車スペース		◎	◎	○	◎	○	▲			5.5
		控え室		◎	◎	○	○	▲				
		個人ロッカー		○	○	▲	○	▲				
		ピッチ上電源とモジュラージャック		○	○	▲	○	▲				
スチールカメラ	フォトグラファーポジション後方の 1.5m スペース		◎	◎	○	◎	○	▲				

◎は原則的に必ず設置する事項/○は設置すべき事項/▲は設置を推奨する事項/無印は必要に応じて設置する事項

Japan Football Association Stadium guideline

5) 観客関連 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応							本編	
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3	クラス 4		
				新設	既設	新規	既設				
観客 関連	入退場 待機 スペース	待機スペース	収容人数の2～3割が待機できるスペース	◎	◎	○	◎	○	▲	6.1.1	
			イベント空間として、電源等の確保	◎	◎	○	◎	○	▲		
			埋込式バリカー等の導入	○	○	▲	○	▲			
	スペース	照明設備等	入場券売場の手元照明	◎	◎	○	◎	○	▲	6.1.2	
			雨に濡れない屋根	◎	◎	○	◎	○	▲		
		場内放送システム	入場前待機者用の独立場内放送システム	○	○	▲	○	▲		6.1.3	
	観客席	席数	個席	40,000	25,000	15,000	15,000	10,000	5,000	5,000	1.2.4
		屋根	観客席のすべてを覆う	◎	◎	○	◎	○	▲		1.1.1
	エリア 分割と 諸機能	エリア分割	4つの独立したセクションにより構成	◎	◎	○	◎	○	▲	6.4.1	
			各セクションの入口、トイレ等	◎	◎	○	◎	○	▲		
		飲食売店	スタジアムの各所に偏りなく設置	◎	◎	○	◎	○	▲	6.4.2	
			臨時売店の設置スペース	○	○	▲	○	▲			
		トイレ	身障者用を含め、明るく衛生的なもの	○	○	▲	○	▲	▲	6.4.4	
		グッズ売店	各セクションに設置	◎	◎	○	◎	○	▲	6.4.3	
		喫煙スポット	本文を参照。	○	○	▲	○	▲	▲	6.4.5	
		救護室	救護室を開催規模に合わせ、適宜配置	◎	◎	○	◎	○	▲	6.4.6	
	公衆電話	—	◎	◎	○	◎	○	▲	6.4.7		
	場内情 報提供 システム	観客席への誘 導システム	サイン看板	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	6.5
			大型の壁面サイン看板の設置	○	○	▲	○	▲			
			総合案内所の設置	○	○	▲	○	▲			
		緊急事態発生時の避難動線の明示	◎	◎	○	◎	○	▲			
	場内放送システム	場内放送システムの設置	◎	◎	○	◎	○	▲	6.6.1		
大型映像装置	得点、時間を表示できるもの(A)	◎	◎	○	◎	○	▲	6.6.2			
	出場メンバーを表示できるもの	◎	◎	○	◎	○	▲				
身障者 対応	車椅子席の確 保	スペース、椅子席	◎	◎	○	◎	○	▲	6.7		
	動線の確保	スロープ、トイレ	◎	◎	○	◎	○	▲			

◎は原則的に必ず設置する事項／○は設置すべき事項／▲は設置を推奨する事項／無印は必要に応じて設置する事項

Japan Football Association Stadium guideline

6) ホスピタリティ関連 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応						本編	
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3		クラス 4
				新設	既設	新規	既設			
ホスピタリティ関連	VVIP	VVIP席	背もたれ及び肘掛けのある椅子の設置	◎	◎	○	◎	○		7.1 7.2
			可動間仕切り	○	○	▲	○	▲		
		専用トイレの設置	◎	◎	◎	◎	◎			
		VVIPラウンジ	VVIPラウンジの設置	◎	○	▲	○	▲		
		ダイニングルームの設置	○	○	▲	○	▲			
	VIP	VIP席	質の高い椅子席	500席	50席	50席	50席	50席		
	VIPラウンジ	スタンディングの飲食スペース	○	○	▲	○	▲			

7) 安全管理関連 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応						本編		
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3		クラス 4	
				新設	既設	新規	既設				
(管理運営機能を含む) 安全管理関連	警備	警備本部室	スタジアム内全体を見渡せる位置	◎	◎	○	◎	○	▲	8.2.2	
			場内監視用のモニターの設置	◎	◎	○	◎	○	▲		
		警備控え室・警察・消防控え室	設置(A)	◎	◎	○	◎	○	▲		
			観客席全体が見渡せること(B)	○	○	▲	○	▲			
	テレビ監視システム	スタジアムの内外に設置	○	○	▲	○	▲		8.2.3		
		録画、モニター再生、プリントアウト機能	○	○	▲	○	▲				
	観客	警備員の配置	訓練された警備員の配置	◎	◎	○	◎	○		8.3.1	
		下記対策と合わせて実施	○	○	▲	○	▲				
		欄等		◎	◎	○	◎	○		8.3.2	
	防災	避難経路	消防など関係当局が定める安全基準に準拠	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	8.4.3
			十分な数の緊急避難口の設置	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	
			サイン看板の表示	◎	◎	○	◎	○	▲	▲	
	緊急医療	医務室(一般・選手)	室数、規模、場所等は適宜	◎	◎	○	◎	○	▲	8.5	
			自動体外式除細動器(AED)設置	◎	◎	○	◎	○	▲		
	テロ	セキュリティチェック	手荷物検査体制	◎	◎	○	◎	○	▲	8.6	
観客のエリア間の移動制限			◎	◎	○	◎	○				
試合関係者エリアへの移動制限			◎	◎	○	◎	○	▲			

◎は原則的に必ず設置する事項／○は設置すべき事項／▲は設置を推奨する事項／無印は必要に応じて設置する事項

Japan Football Association Stadium guideline

8) 照明・電力 諸施設チェック表

	諸機能	備 考	クラス別対応						本編	
			クラス S 国際	クラス 1		クラス 2		クラス 3		クラス 4
				新設	既設	新規	既設			
照明・電力	照明設備	ピッチ内照明=1,500 ルクス以上	◎	◎	○	◎	○			9.2
	非常用電源		○	○	○	○	○	▲		9.1

◎は原則的に必ず設置する事項／○は設置すべき事項／▲は設置を推奨する事項／無印は必要に応じて設置する事項

資料2 Jリーグ・スタジアム検査要項

Jリーグのホームスタジアムは、Jリーグが定める「スタジアム検査要項」に基づく、スタジアム検査があります。ここでは、Jリーグ・スタジアム検査要項 2010年度版を収録しました。

[2010年度用] Jリーグ・スタジアム検査要項(1)

検査基準：○=必ず具備しなければならない条件 A=具備することが望まれる条件※Aは将来的に○とされる可能性が高い

		内容	必要度
I. スタジアム規模			
1.入場可能数※		J1は15,000人以上、J2は10,000人以上(芝生席はカウントしない)	○
2.座席	観客席	椅子席で、10,000席以上の座席があること	○
		全席個室であること	A
		どの座席からも、ピッチ全体が見渡せること	○
		すべての座席に番号を分かりやすく付けること	○
	車椅子席	介助者の椅子を備えること	○
		観戦の際の安全が確保されていること	○
	VIP席	車椅子用のスロープを確保すること	A
		メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで50席以上設置すること	○
	マッチコミッショナー席(含・アセッサー)	80席以上設置すること	A
		メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで設置すること	○
机付きで4名着席でき、ピッチの笛が聞こえること(マッチコミッショナー、補助員、審判アセッサー、副審アセッサー)		○	
記者席	テレビモニター(共聴回線)、LAN回線を設置すること	A	
	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで80席以上設置すること	○	
3.屋根	ノートパソコン、ノートが置ける十分な広さの机と電源を設置すること	○	
	できるだけ多くの観客席を覆うこと	○	
	すべての観客席を覆うこと	A	
4.照明	屋根または照明に避雷針を備えていること	○	
	ピッチ内のいずれの個所においても照度1,500ルクス以上の明るさを保持し、均一であること	○	
II. 競技用設備			
1.ピッチ	寸法	105m×68m	○
	天然芝	平坦であること	○
		常緑であること	○
		水はけが良いこと	○
予備エリア	原則としてピッチの外側にそれぞれ5m以上、ただし陸上競技兼用の場合はそれぞれ1.5m以上(したがって、陸上競技兼用の場合は縦長108m以上、横幅71m以上の芝生部分を確保すること)	○	
2.ゴール		白色丸形(外径の直径が12cm)で、原則として埋め込み式	○
		ボールを反発する補強材を使用しないこと	○
3.ゴールネット		白色以外はJリーグに申請すること	○
		ゴールネットはゴールの後方にボールを立て安全な方法で取り付けすること	○
4.ベンチ	チームベンチ	13名以上(ACLは18名)着席できること	○
		ベンチの屋根は観客の視野を妨げるものであってはならない	○
		ベンチの屋根は透明であること	A
	第4の審判員ベンチ	机付きで3名が着席でき、出入りができるスペースを確保すること	○
		ベンチの屋根は観客の視野を妨げるものであってはならない	○
		ベンチの屋根は透明であること	A
5.場内放送システム		全てのエリア(観客席、諸室、コンコース、ピッチレベル、外周)で明瞭に聞こえる場内放送システムを備えること	○
		チーム更衣室などに一般用の放送が入らないよう切り替えができること	○
6.スコアボード(大型映像装置)		J1は大型映像装置を設置すること。J2はメンバー掲示可能な電光掲示板を設置すること	A
7.時計(45分計)		0~45分間表示できる独立した時計を設置すること	○
		時計は、前半は0~45分、後半は45分~90分の間動作しなくてはならない。前後半それぞれの通常の競技時間の最後、45分と90分に、時計が止められなくてはならない。	○
8.メンバー掲示		出場メンバーを表示できるもの(スコアボードでの兼用可)	A
9.掲揚ボール(バトン)		5本以上設置し、VIP席から視認できること	○

Japan Football Association Stadium guideline

[2010年度用] Jリーグ・スタジアム検査要項(2)

検査基準：○=必ず具備しなければならない条件 A=具備することが望まれる条件※Aは将来的に○とされる可能性が高い

		内容	必要度	
Ⅲ. 諸室・スペース				
Ⅲ. 各諸室・スペースにおける共通事項：テーブル、椅子、電源、エアコン、携帯電話用電波の確保、電話【内線、外線】、テレビモニター、高速インターネット環境、共聴回線、時計 ※以下の各諸室およびスペースには必ず設置すること			A	
1 競技 関連	(1)チーム更衣室	2室。120㎡以上。25人以上の更衣設備を備えること。(ACLは29人)	○	
		温水シャワー8基以上、マッサージ台、洋式トイレ、鏡付き洗面台、ホワイトボードを設置 ピッチまでの距離が等距離であること	○ A	
	(2)審判更衣室	4人の更衣設備を備え、7人以上収容可能な部屋	○	
		チーム更衣室から離して設置すること	○	
		温水シャワー、洋式トイレ、鏡付き洗面台、ホワイトボード、冷蔵庫を設置すること	○	
	(3)室内ウォームアップエリア	チーム用	両チームが同時にかつ別個に使用できること	○
		審判用	人工芝であること 審判が専用にウォームアップできるスペースを確保すること	A A
	(4)マッチ・コーディネーション・ミーティング室	13人以上収容可能な部屋	○	
		応接セット、テレビモニター、録画再生装置	○	
		チーム更衣室、審判更衣室の近くにあること	○	
(5)ドーピングコントロール室	チーム、審判用の更衣室に近く、観客、メディアが近づくことのできない場所に設置すること	○		
	待合室：8人以上収容可能、応接セット、テレビ、録画再生装置、冷蔵庫	○		
	検査エリア：検査机、鍵付きキャビネット 検査室に直接アクセスできる場所に、温水シャワー、トイレ、鏡付き洗面台	○ ○		
2 運営 関係	(1)運営本部室	100㎡以上	○	
		テレビ、監視カメラモニター、高速コピー機、FAX	○	
		チーム更衣室、審判更衣室への連絡用プザーを設置すること 場内放送室、大型映像操作室、記録室、第4の審判員ベンチとの専用インカムを設置すること	A A	
	(2)記録室	ピッチ全体が見渡せる個室であること	○	
		4人が横に並んで座れる広さであること	○	
		LAN回線、テレビモニター、録画再生装置	○	
	(3)場内放送室	ピッチ、観客席全体および大型映像装置が見える場所に個室で設置すること	○	
		3人が横に並んで座り、マイクや書類を置く机および機材を設置できる広さであること	○	
		大型映像装置と連携できること 窓は開閉できるようにすること	○ ○	
	(4)大型映像操作室	ピッチ、観客席全体および大型映像装置が見える場所に個室で設置すること	○	
		場内放送システムと連携できること 窓は密閉してあること	○ ○	
	(5)警察・消防司令室兼控室	観客席全体が見渡せる場所に設置すること	○	
	(6)医務室	50㎡以上	○	
ベッド、洗面台、冷蔵庫、AED、製氷機、担架(2台)		○		
緊急車両用駐車場に直接アクセスできること		○		
(7)その他	セキュリティスタッフ控室、ボランティアスタッフ控室、ボールパーソン更衣室、エスコートキッズ控室、前座試合用チーム更衣室、マスコット・演出関係控室、現金管理室等	A		
	ごみ集積所を設置すること	○		
3 VIP 関連	(1)VIP受付	VIP用の屋根付き専用入口と受付を設置すること	○	
		VIP用駐車場から直接アクセスでき、メディアのアクセスを規制できること	A	
(2)VIPラウンジ	VIP席から直接アクセスできること	○		

Japan Football Association Stadium guideline

[2010年度用] Jリーグ・スタジアム検査要項(3)

検査基準：○=必ず具備しなければならない条件 A=具備することが望まれる条件※Aは将来的に○とされる可能性が高い

		内容	必要度
Ⅲ. 諸室・スペース			
4 メ デ ィ ア 関 連	(1)メディア受付	メディア用の屋根付き専用入口と受付を設置すること	○
		メディア用駐車場から直接アクセスできること	A
	(2)記者室	80人以上収容可能な部屋	○
		ノートパソコン、ノートが置ける十分な広さの机を設置すること	○
		テレビ、録画再生装置、資料棚、冷蔵庫、倉庫を設置すること	○
	(3)カメラマン室	40人以上収容可能。カメラ用ロッカー、資料棚、冷蔵庫、倉庫を設置すること	○
		ピッチに直接アクセスできること	○
	(4)記者会見室	200㎡程度のスペースを確保すること	○
		選手・監督用とメディア用の出入口を分けて設置すること	○
		前部には選手・監督用、後部にはテレビカメラ用のプラットホームをそれぞれ設置すること	○
バックパネルを設置できること		○	
(5)ミックスゾーン	音響設備、マイク(司会用、選手・監督用、通訳用、質疑応答用)	○	
	チーム更衣室とチーム用駐車場との間で、記者室、カメラマン室、記者会見室よりアクセスしやすい場所に設置すること	○	
(6)フラッシュインタビュー・ポジション	バックパネル、柵を設置できること	○	
	ピッチとチーム更衣室との間に、3mx3mのスペースを設けること	○	
5 中 継 関 連	(1)実況放送室(テレビ、ラジオ)	5箇所設置すること	○
		4人が横に並んで座り、ピッチ全体が見渡せること。また、テレビモニターや書類を置く机および機材を設置できる広さであること	○
		C型コンセント(30A)を2系統および端子盤を備えること	A
		窓がフルオープンになること	○
		シャッターを備えること	A
	(2)中継用スタッフ控室	ドアの下にケーブル用の通線口があること	○
		中継を行うスタッフの控室を設置すること	○
	(3)テレビ中継カメラ設置スペース	メインスタンド中央部に4台分(4㎡×4台)	○
		メインスタンド両外側のペナルティエリアのライン延長線に各2台分(4㎡×4台)	○
		両ゴール裏中央部に2台分(4㎡×2台)	○
	(4)テレビニュース関連ENGカメラ設置スペース	特に前列の観客により視野を妨げられないように設置すること	○
		メインスタンド中央部に10社分(4㎡×10社)	○
	(5)伝送用機材等設置スペース	特に前列の観客により視野を妨げられないように設置すること	○
スタジアムからテレビ局および中継基地へ試合中継映像を伝送するためのアンテナを設置するスペース		○	
(6)ケーブル設置スペース	衛星へ伝送するためのアンテナ搭載車両設置スペース	○	
	中継車とテレビカメラおよび実況放送室間に設置すること	○	
	観客や車両にケーブルが踏まれないこと	○	
6 広 告 看 板 関 連	(1)ピッチ周り	端子盤を備えること	A
		看板設置により、観客席の視界を妨げないこと	○
		看板設置面が平坦であり、看板類が設置できないほど傾斜を急にしないこと	○
		看板の後方にボールボーイやカメラマンが行き来できるスペースを確保すること	○
	(2)電源確保	ピッチ周辺に看板を乗せた台車が通れる動線を確保すること	○
		回転式もしくは電光看板操作を行う場所として、雨風がしのげ、ピッチが見渡せる位置に長机1つ分のスペースと電源を確保すること	○
		電光看板用の専用電源(特殊)があること	A

Japan Football Association Stadium guideline

[2010年度用] Jリーグ・スタジアム検査要項(4)

検査基準：○=必ず具備しなければならない条件 A=具備することが望まれる条件※Aは将来的に○とされる可能性が高い

		内容	必要度
IV. アクセス関係			
1 駐 車 場	(1)一般用	公共交通機関が充実していない場所では、収容人数に見合う台数の駐車場を確保すること	○
	(2)車椅子用	車椅子用のゲートにアクセスしやすい場所に設置すること	○
		車椅子用駐車場は、車椅子席と同数設置すること	○
	(3)団体バス用	ツアーバスが駐車できるスペースを確保すること	○
	(4)チーム用	1チームあたり、大型バス1台、ワゴン車2台分のスペースをチーム入口付近に確保すること	○
		(ACLは大型バス1台、4tトラック1台、乗用車1台)	○
	(5)緊急車両用	警察、消防、救急車等の緊急車両用の駐車場を確保すること	○
		救急車がピッチ脇まで入れる動線を確保すること	○
	(6)VIP用	VIP受付にアクセスしやすい場所に設置すること	○
		VIP席の数に見合う駐車場を確保すること	○
	(7)メディア用	撮影機材などの荷物が多量メディア用の駐車場を確保すること	○
	(8)テレビ中継用	以下の車が駐車できるスペースを確保すること(中継車、衛星車、電源車、機材車、支援車)	○
放送ブースに近接し、ケーブルの敷設に問題ない場所を確保すること		○	
(9)大型トラック用	電源、端子盤、館内共聴を設置すること	A	
(10)売店用	広告看板などの大型搬入物を設営・撤去する大型トラック用の駐車場を確保すること	○	
	スタッフのために十分な駐車スペースを確保すること	○	
(11)シャトルバス用	売店用、ケータリング搬入車両は、スタジアム内部の搬入口に近い場所に設置すること	○	
	夏季は、飲食物用の保冷車の駐車場も考慮すること	○	
(12)その他関係者用	シャトルバスを運行する場合は、シャトルバスのバスプールを設置すること	○	
	その他関係者に必要な駐車場を確保すること	○	
2駐輪場	観客のための駐輪場を、アクセス環境を鑑みて設置すること	○	
3シャトルバス用	シャトルバスを運行する場合は、バスの行き先別に待機列スペースがある乗降所を設置すること	○	
4タクシー乗降所	メディア、VIP、関係者が利用できるタクシー乗降所を設置すること	○	
V. 観客用設備			
1.入場券売場 ※「各諸室・スペースにおける共通事項」適用箇所	入場ゲート付近に複数の窓口を設置すること	○	
	施錠でき、セキュリティが確保されていること	A	
	入場券購入者のための庇(ひさし)があり、雨に濡れないこと	○	
2.入場待機スペース	販売するチケットの席種、料金を掲示できること	○	
	ホーム用、アウェイ用に分けて待機列が設けられる十分な広さを確保すること	○	
	外周全体は夜間でも安全が確保できる照明を設置すること	○	
3.入場ゲート	待機列が、関係者入口、搬入口と交差しないで設けられるようにすること	○	
	観戦エリアに応じた入場ゲートを設置すること(アウェイサポーターの分離)	○	
	屋根、電源、照明を設置すること	○	
	手荷物検査、ビン、缶を移し替える設備があること	○	
	ワンタッチバスが設置できるスペースがあること	○	
	車椅子用の入場ゲートがあり、スロープ等で車椅子席にアクセスできること	○	
4.総合案内所 ※「各諸室・スペースにおける共通事項」適用箇所	スタジアム基本原則を定め、それらを観客が読めるように掲示すること。最低でも以下の情報を含まなければならない。 ①入場する権利、②試合の中止または延期、③禁止事項(自粛事項)、④座席のルール、⑤スタジアムから追放される事由、⑥緊急避難経路	○	
	観客用ゲートなど、分かりやすい場所に設置すること	○	
	運営本部室と連携が取れ、迷子、落し物対応ができること	○	

Japan Football Association Stadium guideline

[2010年度用] Jリーグ・スタジアム検査要項(5)

検査基準：○=必ず具備しなければならない条件 A=具備することが望まれる条件※Aは将来的に○とされる可能性が高い

		内容	必要度
V. 観客用設備			
5.救護室 ※「各諸室・スペースにおける共通事項」適用箇所		どの席からもアクセス可能な場所に複数設置すること（仮設でも可）	○
		AED、応急セット	○
6.授乳室 ※「各諸室・スペースにおける共通事項」適用箇所		どの席からも誘導でき、アクセス可能な場所に設置すること	○
7.喫煙スポット		観客動線から隔離でき、どの席からもアクセス可能な場所に設置	○
		分煙となっており、排煙設備を備えていること	○
8.トイレ	トイレ	どの席からもアクセス可能な場所に設置すること	○
		洗面台が設置されていること	○
		ハンドドライヤー、おむつ換えベッドを設置すること	A
	多目的トイレ	車椅子席からアクセス可能な場所に複数設置すること	○
	場外のトイレ	開門前に使用できるトイレが観客用ゲート付近にあること	○
9.コンコース		十分な広さがあり、適度な明るさが保たれていること	○
		屋根で覆われていること	○
		トイレ、飲食売店、グッズ売店、救護室、授乳室、喫煙スポットが設置されていること	○
		緊急避難用の動線を確保すること	○
10.公衆電話		必要に応じて公衆電話を設置すること	A
11.飲食設備 飲食売店		どの席からもアクセス可能な場所に屋根付きで適正な数が設置されること	○
		温かい飲食物が提供できること	○
		売店外装に企業名・ロゴ、メニュー、料金表示できること	○
		電源、照明が確保されること（スタジアム外周、コンコースを含む）	○
		観客席以外でも飲食が可能なテーブルやカウンターを設けること	○
		待機動線がトイレと近くならないよう設置場所に配慮すること	○
12.グッズ売店		どの席からもアクセス可能な場所に屋根付きで適正な数が設置されること	○
		電源、照明を設置すること	○

Japan Football Association Stadium guideline

※【入場可能数】

ホームゲーム開催時に使用可能な数を指し、下記（１）、（２）、（３）の合計数とする。

（１）入場券が発券できる座席の数

- イ．見切り席、常設の記者席、実況放送室等の座席は含まない。
- ロ．常設の飛び降り防止エリアの席数は含まない。ただし、当該エリアが調整可能な場合は数に含む。
- ハ．ホームクラブとビジタークラブの観客間の緩衝地帯の座席数は含むが、常設の緩衝地帯の場合は含まない。
- ニ．立ち見エリアは、施設管理者と協議の上、入場可能な数とする。

（２）前号以外の座席の数

- イ．常設のVIP席
- ロ．個室ラウンジ付きの観戦エリアは、テラスにある席数の数とする。個室ラウンジ内の座席数は含まない。

（３）車椅子席の数

- イ．車椅子観戦エリアは座席がないが、車椅子1台につき1席と数える。
- ロ．車椅子のヘルパー席は、常設の椅子が設置され、かつ実際に使用されている場合のみ数に含める。

資料3 FIFA World Cup™ 規定

ここでは、FIFAが発行するFIFAワールドカップを開催する際に必要な諸施設・機能を整理した「FIFA World Cup™ 規定」を掲載します。この中には、大会時に仮設で設置すれば良いものも含まれます。なお、FIFAワールドカップに必要な諸施設・機能は、大会毎に規定されており、必要な諸施設・機能も変わる場合があります。従って、今後の大会において、本一覧に掲げた諸施設・機能で全て適応するとは言えませんのでご注意ください。

カテゴリー ナンバ	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	FIFA認定	使用カテゴリー	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源	
1	Playing area																		
1.01	ピッチ	1	25	105×68	125 × 85	1	試合関係者		サービス通用口、選手通用口、FIFA オフィス	ゴール裏のウォームアップエリアを十分に確保できる大きさ。芝生エリアはタッチラインから2m、ゴールラインから4mを確保。	●			●		●	●	●	
1.02	選手通用口（トンネル）	1					試合関係者	メインスタンド	選手更衣室	伸縮可能は保護トンネルを、6人が横に並び通れる程の十分な幅を確保。	●		●			●	●	●	
1.03	観客席との間隔（メインスタンド側）					1	試合関係者	メインスタンド		ピッチと観客席は距離・高さを考慮し、フェンス等を含め、最低8.5mの間隔を確保。									
1.04	チームベンチ	2	22	22席×1m	22	1	試合関係者	メインスタンド	メインスタンド、選手通用口	ベンチと一体型の耐熱プレキシガラス・カバーを設置。	●			●					
1.05	第4の審判員ベンチ	1	4	4席×1m	4	1	試合関係者	メインスタンド	両控えベンチの間	ベンチと同じデザイン（レフェリー1人、3人のイベントコーディネーター用）	●		●			●	●	●	
1.06	インフォテイメント・デスク	1	4	8×1	8	1	LOC	メインスタンド	控えベンチの左、もしくは右サイド	騒音を低減できるデザインを採用。		●				●	●	●	
1.07	フォトグラファー・スペース	4	150-250				メディア		ゴール裏、コーナーフラッグからメインスタンドと反対側のハーフウェイライン近辺まで	ゴール裏のメディア用のイスを含む		●				●	●	●	
1.08	選手ウォームアップエリア（屋外）	2	6	3×30	90	1	試合関係者	ゴールサイド	両ゴール裏、フォトグラファー・スペースの後ろ	ウォームアップエリアはピッチと同じ芝。		●		●					
1.09	観客席との間隔（ゴールサイド）	2		10		1	試合関係者	ゴールサイド		ピッチと観客席は距離・高さを考慮し、フェンス等を含め、最低8.5mの間隔を確保。									
1.10	観客席との間隔（バックスタンド側）-バックスタンド側通用口（トンネル）	1		6		1	試合関係者	バックスタンド		ピッチと観客席は距離・高さを考慮し、フェンス等を含め、最低8.5mの間隔を確保。									
1.11	ピッチ周囲の広告看板	未定				1	マーケティング	ピッチ		電光看板用の電源の確保。スポンサー広告看板6.5m×0.9m、サブライザー広告看板5m×0.9m。		●		●				●	
1.12	業務用通用口（トンネル）	2				1	LOC	メインスタンド	フィールド上へ直接アクセス	4つの通用口はフィールド内の換気を促進する。通用口の高さは業務用車両の通行に必要な高さを確保（最低5m）。	●		●			●	●	●	
1.13	スコアボード/スクリーン	1					LOC				●	●				●	●	●	
1.14	掲揚ポール（バトン）	未定					試合関係者			バックスタンド側に最低7旗、両ゴール裏及びメインスタンド側に各5旗を掲揚できる十分なスペースの設備を確保。	●	●							



カテゴリー	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	JFA認定	使用カテゴリー	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源
1	Playing area																	
1.15	照明	未定					試合関係者			最新の照明に関するガイドラインを参照。	●	●						●
2	Dressing rooms																	
2.01	チームA 選手更衣室	1	23	150	150	2	試合関係者	メインスタンド	コーチ出入口、ドーピングルーム、インタビューエリア	23の独立ロッカー、2~3のテーブル、ホワイトボード等を配置。	●			●	●	●	●	●
2.02	シャワー	1	11	8×1.5m	12	2	試合関係者	メインスタンド			●	●						
2.03	帯同スタッフルーム (チームA)	1	3	25	25	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室、ウォームアップエリア (屋内)		●		●		●	●	●	
2.04	チームドクタールーム (チームA)	1	2	20	20	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室		●		●		●	●	●	
2.05	チームB 更衣室	1	23	150	150	2	試合関係者	メインスタンド	コーチ出入口、ドーピングルーム、インタビューエリア	23の独立ロッカー、2~3のテーブル、ホワイトボード等を配置。	●			●	●	●	●	●
2.06	シャワー	1	11	8×1.5m	12	2	試合関係者	メインスタンド			●	●						
2.07	帯同スタッフルーム (チームB)	1	3	25	25	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室、ウォームアップエリア (屋内)		●		●		●	●	●	
2.08	チームドクタールーム (チームB)	1	2	20	20	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室		●		●		●	●	●	
2.09	審判更衣室1	1	5	24	24	2	試合関係者	メインスタンド		5つの独立ロッカー	●			●	●	●	●	
2.10	審判更衣室2	1	2	16	16	2	試合関係者	メインスタンド		2つの独立ロッカー	●			●	●	●	●	
2.11	シャワー (審判更衣室1)	1	3	3×1.5m	5	2	試合関係者	メインスタンド		3つのシャワーと1つのトイレ	●	●		●				
2.12	シャワー (審判更衣室2)	1	2	2×1.5m	3	2	試合関係者	メインスタンド		1つのシャワーと1つのトイレ	●	●		●				
2.13	コーチルーム (チームA)	1	5	24	24	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室に隣接、若しくは、同じエリアに設置	3つの独立ロッカー、イス、1つのシャワー、トイレ	●	●		●	●	●	●	
2.14	コーチルーム (チームB)	1	5	24	24	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室に隣接、若しくは、同じエリアに設置	3つの独立ロッカー、イス、1つのシャワー、トイレ	●	●		●	●	●	●	
2.15	イベント・セレモニー 演出者用更衣室	5	未定	30	150	2	試合関係者	メインスタンド	選手動線・業務用通用口 (トンネル) にアクセス	開幕戦/決勝戦のイベント時に必要。	●	●	●		●	●	●	●
2.16	選手ウォームアップ エリア (屋内)	2	23	100	200	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室に隣接		●	●		●	●			
3	Medical Facilities																	
3.01	担架係/メディカル チーム・エリア	2	6	8	16	1	LOC	メインスタンド	選手通用口 (トンネル)、緊急 サービス、控えベンチ近く			●		●				
3.02	応急処置室	1	4	50	50	2	試合関係者	メインスタンド		選手、マッチ・オフィシャル、メディア、セキュリティ・オフィサー等が使用	●			●	●	●	●	●
3.03	医務室	1	2	3.02に含む		2	LOC	メインスタンド			●			●	●	●	●	
4	Doping control																	
4.01	待機ルーム	1	8	20	20	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室近くに設置	ドーピングルームは待機ルームとメディカル・オフィスに隣接	●			●	●			
4.02	メディカル・オフィス	1	4	12	12	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室近くに設置		●			●	●	●	●	●
4.03	トイレ	1	2	4	4	2	試合関係者	メインスタンド	選手更衣室近くに設置		●			●				



カテゴリ	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	CO2認定	使用カテゴリ	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源	
5	FIFA official and meeting room																		
5.01	ジェネラル・コーディネーター・オフィス	1	2-3	40	40	2	試合関係者	メインスタンド	チーム更衣室、選手通用口（トンネル）		●	●		●	●	●	●	●	
5.02	選手エスコート・ルーム（ユースプログラム）	1	100	300	300	4	マーケティング	メインスタンド	スタジアムから歩ける距離でピッチまで 300~400mの場所	少年・少女の着替え・更衣室として利用	●	●	●		●	●	●		
5.03	FIFA メディア・オフィス	1	4	5.07 に含む		6/7	メディア	メインスタンド	メディアセンター、もしくは、ジェネラル・コーディネーター・オフィスの近くに設置		●	●		●	●	●	●	●	
5.04	FIFA IT ルーム	1	16	75	75	4	マッチ IT	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
5.05	FIFA ホスピタリティ・オフィス	1	2-4	25	25	9	ホスピタリティ	メインスタンド	ホスピタリティ・エリアに隣接		●	●		●	●	●	●	●	
5.06	マッチデイ・オペレーション・チケット・オフィス	1	3	24	24	4	マッチ チケット	メインスタンド	チケットセンター/チケット問題の解決ブースの近く		●	●	●		●	●	●	●	
5.07	マッチコミッショナー・オフィス	1	1	60	60	2	試合関係者	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィスにできる限り近く	5.08~5.13 を含むことを可能。	●	●	●		●	●	●	●	
5.08	デレゲーション（代表団長）オフィス	1	1	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド			●	●	●		●	●	●	●	
5.09	テクニカル・スタディグループ・オフィス	1	2-3	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド			●	●	●		●	●	●	●	
5.10	審判委員会メンバー・オフィス	1	1	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド			●	●	●		●	●	●	●	
5.11	審判アセッサー	1	1	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド			●	●	●		●	●	●	●	
5.12	審判特別ビデオ視聴オフィス（未定）	1	1	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド	スタジアム内で理想的には FIFA M&TV オフィスの隣	5~7 人が当日に必要。	●	●	●		●	●	●	●	
5.13	ミーティングルーム（危機管理室）	1	10	5.07 に含む		2	試合関係者	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィス、もしくは、マッチコミッショナー・ルーム近く		●	●	●		●	●	●	●	
5.14	マーケティング/TV 放映権保護プログラムオフィス	1	5-7	40	40	4	マーケティング	メインスタンド	スタジアム内で理想的には FIFA M&TV オフィスの隣	5~7 人が利用。売店設置の関係で冷蔵庫を設置。	●	●			●	●	●	●	
5.15	FIFA M&TV イベント マネジメント・オフィス	1	4	40	40	2/4	マーケティング	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィスの近く		●	●		●	●	●	●	●	
5.16	コココーラ・ロジスティック・オフィス	1	2	25	25	3/4/9	マーケティング	メインスタンド	スタジアム内の確実な場所に設置	保冷庫を確保。選手通用口（トンネル）及びピッチ、駐車場にアクセスしやすい場所。	●	●		●	●	●	●	●	
5.17	プロトコル・オフィス	1	4	25	25	9	プロトコル	メインスタンド	VIP 受付の近く		●	●	●		●	●	●	●	
5.18	マスコット更衣室	2-3	4	10	30	4	マーケティング	メインスタンド	選手通用口（トンネル）近く		●	●		●	●	●	●	●	
5.19	マッチコーディネーション・ミーティング・ルーム	1	40	100	100	2/4	試合関係者	メインスタンド	スタジアム内	試合前日から使用。代表チーム団長との打合せにふさわしいホスピタリティある空間（雰囲気）が望まれる。	●	●	●		●	●	●	●	
5.20	ジェネラル・コーディネーター・用具保管室	1		20	20	2	試合関係者	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィス内に設置		●	●		●					



カテゴリ ナンバリー	名称	数	使用 想定 人数	大きさ	大きさ 合計	コ ン プ ユ ー タ 認 定	使用 カテ ゴリ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
5	FIFA official and meeting room																	
5.21	広告看板用具室	1		100	100	4	マーケティング	未定	業務用通用口(トンネル) 近く		●	●	●					
5.22	FIFA セキュリティ・オフィス	1	2	20	20	2	試合関係者	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィス近く		●	●	●	●	●	●	●	●
5.23	FIFA IT 用具室	1		100	100	未定	マッチ IT	未定	スタジアム内		●	●		●	●	●	●	●
5.24	FIFA IT サーバー室	1		30	30	未定	マッチ IT	未定	スタジアム内		●	●		●	●	●	●	●
5.25	中央管理システム	1		40	40	2/4	インフォメーション・サービス	メインスタンド	ジェネラル・コーディネーター・オフィス、FIFA メディアオフィス		●	●		●	●	●	●	●
6	LOC offices and meeting rooms																	
6.01	LOC ベニュー・マネジャー	1	2	30	30	1/2/4	LOC	メインスタンド	FIFA オフィス、オペレーションエリア近く(特にジェネラル・コーディネーター・オフィス近く)		●		●	●	●	●	●	●
6.02	LOC ベニュー・マネジャー・アシスタント		1	6.01 に含む		1/2/4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.03	LOC スタジアム・マネジャー	1	未定	75	75	1/2/4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.04	LOC スタジアム 建築関係マネジャー	1	未定	30	30	1/2/4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.05	LOC テクニカル・ディレクター	1	未定	40	40	1/2/4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.06	LOC IT コーディネーター	1	未定	20	20	4	マッチ IT	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.07	LOC 電光掲示板管理オフィス	1	未定	40	40	4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.08	LOC 情報・映像管理マネジャー	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.09	LOC ロジスティック・マネジャー	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.10	LOC 輸送管理マネジャー	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.11	LOC マーケティング・マネジャー	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.12	LOC 予備オフィス	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.13	LOC 認定マネジャー	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	未定	認定センター		●		●	●	●	●	●	●
6.14	LOC メディカルスタッフ	1	未定	6.05 に含む		4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.15	運転手室	1	40	40	40	4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.16	LOC セキュリティスタッフ	1	未定	30	30	1/2/4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.17	LOC ホスピタリティ	1	未定	40	40	4/9	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.18	LOC プロトコル	1	未定	5.17 に含む		5	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.19	LOC ケータリング・マネジャー	1	未定	20	02	4/9/5	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●



カテゴリ	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	FIFA認定	使用カテゴリ	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源
6 LOC offices and meeting rooms																		
6.20	LOC コーディネーション・オフィス	1	未定	25	25	4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.21	LOC ボランティア・マネジャー	1	未定	25	25	4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.22	LOC オフィス	9	未定	16	144	4	LOC	メインスタンド			●		●	●	●	●	●	●
6.23	LOC メディア・スタッフ	1	2	20	20	4	LOC	メインスタンド		FIFA メディア・オフィサー近く。できれスタジアム・メディア・センター (SMC) 内。	●		●	●	●	●	●	●
6.24	セレモニー管理	1	未定	120	120	4	LOC	メインスタンド	選手通用口 (トンネル) の隣		●		●	●	●	●	●	●
7 Access control points																		
7.01	回転ドア (バー)					3	LOC		セキュリティ・エリアとの分割		●	●		●				
7.02	手荷物 (磁気) 検査エリア					3	LOC					●		●				
7.03	車寄せ					3	LOC					●		●				
7.04	チケットオフィス	2	2	4		3	マッチ	メイン・エントランス				●		●		●	●	●
8 Retail shop																		
8.01	売店	未定				3	マーケティング	パブリックエリア全て	コンコース他全てのパブリックエリア		●	●		●		●	●	
8.02	スポンサーブース	未定				3	マーケティング			1か所あたり250人程度の観客を想定。1~1.5mの間隔を確保。	●	●		●		●	●	
9 Hospitality areas-stadium																		
9.01	特別観覧席 (スカイボックス) ホスピタリティ・スイート	12-20	15-25	未定	未定	9	ホスピタリティ			席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●			●	●			
9.02	VIP ラウンジ (開幕戦・決勝戦)	1	1130	1130×1	1130	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VIP 席の後方でピッチが見渡せる場所	席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.03	VIP ラウンジ (準決勝)	1	1130	1130×1	1130	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VIP 席の後方でピッチが見渡せる場所	席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.04	VIP ラウンジ (準々決勝)	1	630	630×1	630	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VIP 席の後方でピッチが見渡せる場所	席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.05	VIP ラウンジ (グループマッチ)	1	550	550×1	550	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VIP 席の後方でピッチが見渡せる場所	席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.06	VVIP ラウンジ (開幕戦・決勝戦)	1	70	70×1.8	126	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VIP/マーチャンダイズ近く	席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.07	VVIP ラウンジ (準決勝)	1	70	70×1.8	126	5	ホスピタリティ	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.08	VVIP ラウンジ (準々決勝)	1	70	70×1.8	126	5	ホスピタリティ	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.09	VVIP ラウンジ (グループマッチ)	1	50	50×1.8	90	5	ホスピタリティ	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベント/スタジアムによる変わる。	●	●		●	●	●	●	
9.10	FIFA 会長ラウンジ	1	6	6×2.5	15	5	ホスピタリティ	メインスタンド	VVIP ラウンジ隣でピッチが見渡せる場所	ソファアーとアームチェアーを設置。	●	●		●	●	●	●	
9.11	LOC 会長ラウンジ	1	6	6×2.5	15	5	ホスピタリティ	メインスタンド	FIFA ラウンジ隣	ソファアーとアームチェアーを設置。	●	●		●	●	●	●	



カテゴリー ナンバリー	名称	数	使用 想定 人数	大きさ	大きさ 合計	JIS A認定	使用 カテゴリー	場所	関係 施設	備考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	インターネット 回線	電 源
9 Hospitality areas-stadium																		
9.12	SP/ドライバーエリア (開幕・決勝)	1	50	50×1	50	5	ホスピタリティ		VIP エリアに可能な限り近く			●		●	●	●	●	
9.13	VIP フラッシュインタ ビューエリア	2	4	12	24	9	プロトコル/PR	メインスタンド	VIP 席/VIP ラウンジ隣			●		●	●	●	●	
9.14	VIP メディカルルーム	1		施設の大き さによる		5	ホスピタリティ					●		●	●	●	●	
9.15	VIP キッチン	1		施設の大き さによる		5	ホスピタリティ					●	●		●	●	●	
9.16	スポンサー・ホスピタ リティ・キッチン	1	未定	施設の大き さによる		9	ホスピタリティ	VIP ラウンジ近く			●	●	●		●	●	●	
9.17	VIP レセプション・デ スク (開幕・決勝)	1	10	40	40	5	ホスピタリティ		FIFA/LOC プロトコルとして使用		●	●	●		●	●	●	
9.18	VIP レセプション・デ スク (準決勝)	1	10	30	30	5	ホスピタリティ				●	●		●	●	●	●	
9.19	VIP レセプション・デ スク (ラウンド 16-グ ループマッチ)	1	10	20	20	5	ホスピタリティ				●	●		●	●	●	●	
10 Hospitality areas-within stadium perimeter																		
10.01	スポンサー支部 (決 勝)	1	5,000~ 7,000	5~6 m ² /人	35,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.02	スポンサー支部 (準決 勝)	1	3,500~ 4,000	5~6 m ² /人	20,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.03	スポンサー支部 (準々 決勝)	1	1,800~ 2,000	5~6 m ² /人	10,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.04	スポンサー支部 (グル ープマッチ以下)	1	1,400~ 1,600	5~6 m ² /人	8,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.05	スポンサー・ホスピタ リティ (決勝)	1	10,000	4.6 m ² /人	50,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.06	スポンサー・ホスピタ リティ (準決勝)	1	4,300	4.6 m ² /人	20,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.07	スポンサー・ホスピタ リティ (準々決勝)	1	2,200	4.6 m ² /人	10,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.08	スポンサー・ホスピタ リティ (ラウンド 16)	1	1,900	4.6 m ² /人	9,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
10.09	スポンサー・ホスピタ リティ (グループマッ チ)	1	1,100	4.6 m ² /人	9,000	9	ホスピタリティ	スタジアム中心 から 300m以内	観覧席から 150m以内、スタジ アム中心から 300m以内			●		●	●	●	●	●
11 Media interview areas																		
11.01	マルチ・フラッシュ・ インタビュー1-2	2	4	6	12	1/2	マーケティング /TV	選手通用口(トン ネル)	選手通用口(トンネル)内、も しくは、その近く			●		●		●	●	●
11.02	独占フラッシュ・イン タビュー	6	4	6	36	1/2	マーケティング /TV	選手通用口(トン ネル)	選手通用口(トンネル)内、も しくは、その近く			●		●		●	●	●



カテゴリ ナンバ ー	名称	数	使用 想定 人数	大き さ	大き さ合 計	ユ ニ バ ー ス 認 定	使用 カテ ゴリ ー	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
11 Media interview areas																		
11.03	プレゼン・スタジオ (開幕・決勝)	8	10	40	320	8	マーケティング /TV	ホスピタリ ティ・スイ ート経由 でアクセ スでき る位置	ピッチを背景に	4m以下の高さ	●	●		●	●	●	●	●
11.04	プレゼン・スタジオ (準決勝・準々決勝・ ラウンド16)	6	10	40	240	8	マーケティング /TV	ホスピタリ ティ・スイ ート経由 でアクセ スでき る位置	ピッチを背景に	4m以下の高さ	●	●		●	●	●	●	●
11.05	プレゼン・スタジオ (グループマッチ)	4	10	40	160	8	マーケティング /TV	ホスピタリ ティ・スイ ート経由 でアクセ スでき る位置	ピッチを背景に	4m以下の高さ	●	●		●	●	●	●	●
11.06	TVスタジオ(FIFAイ ンタビュースタジオ)	4	8	40	160	8	メディア	ホスピタリ ティ・スイ ート経由 でアクセ スでき る位置	選手更衣室近く		●			●	●	●	●	●
11.07	ミックスゾーン(準決 勝・決勝)	1	300	600	600	6	メディア	選手出口	チーム更衣室への出口近辺			●		●	●	●	●	●
11.08	ミックスゾーン(その 他)	1	250	600	600	6	メディア	選手出口	チーム更衣室への出口近辺			●		●	●	●	●	●
12 Press conference room																		
12.01	ヘッド・テーブル	1	6	20	20	7	メディア	メインスタンド	選手更衣室/ミックス・ゾ ーン 近く			●		●	●	●	●	●
12.02	記者席	1	200	70	70	7	メディア	メインスタンド				●		●	●	●	●	●
12.03	同時通訳ブース(決 勝)	4	2	4	16	7	メディア	メインスタンド		FIFA公用語は英語、フランス語、 ドイツ語、スペイン語		●		●	●	●	●	●
12.04	同時通訳ブース(その 他)	3	2	4	12	7	メディア	メインスタンド		2チームの母国語分の同時通訳。		●		●	●	●	●	●
12.05	カメラ基台(開幕・準 決勝・決勝)	20	1	2×20m	40	7	メディア	メインスタンド				●		●	●	●	●	●
12.06	カメラ基台(グループ マッチ)	10- 15	1	2×10-15m	20-30	7	メディア	メインスタンド				●		●	●	●	●	●
13 Media area-tribune																		
13.01	デスク・ポジション	未定			未定	6	メディア	メインスタンド	VIPエリアの上部、ミックス・ ゾーン/プレス・カンファレン ス・ルーム近く	席の配置、構成、設備等はイベ ント/スタジアムによる変わる。	●	●		●		●	●	●
13.02	記者席	未定			未定	6	メインスタンド			席の配置、構成、設備等はイベ ント/スタジアムによる変わる。	●	●		●				
13.03	フォトグラファー	未定			未定	7	メディア	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベ ント/スタジアムによる変わる。	●	●		●				
13.04	休憩エリア	未定			未定	6	メディア	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベ ント/スタジアムによる変わる。	●	●		●				
13.05	放送席(エリア)	未定			未定	6	マーケティング /TV	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベ ント/スタジアムによる変わる。	●	●		●		●	●	●



カテゴリ ナンバ ー	名称	数	使用 想定 人数	大き さ	大き さ合 計	工 事 認 定	使 用 カ テ ゴ リ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
13	Media area-tribune																	
13.06	空中ケーブル	未定			未定	6	マーケティング /TV	メインスタンド		席の配置、構成、設備等はイベン ト/スタジアムによる変わる。	●	●		●				
14	Stadium media centre(SMC)																	
14.01	スタジアム・メディア ・センター(決勝)	1	2,000	10,000	10,000	7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.02	スタジアム・メディア ・センター(グル ーリーグ)	1	800	4,000	4,000	7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.03	レート・カード・サー ビス・オフィス(決勝)	1	8	14.01に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.04	レート・カード・サー ビス・オフィス(グル ープマッチ)	1	4	14.02に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.05	カメラ修理オフィス (決勝)	1	8	14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.06	プレス・カンファレン ス・ルーム(メディ ア・フリーフィン グ使用)	1	8	14.01に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.07	インフォメーショ ン・デスク	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.08	カフェテリア・ラウン ジ	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.09	整理棚	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.10	ウェルカム・デスク	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.11	チケットデスク	1	2	14.01/14.02 に含む		7	マッチ	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.12	開催地(ホスト・シ ティ)インフォメー ション・デスク	1		14.01に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.13	医務室	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.14	SMC メディアワーク デスク(決勝)	1	1,000	14.01に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.15	SMC メディアワーク デスク(その他)	1	500	14.02に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.16	SMC フォトグラフ ャー・ワークデスク(決 勝)	1	150	14.01に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●
14.17	SMC フォトグラフ ャー・ワークデスク(そ の他)	1	100	14.02に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールド へのアクセス		●	●		●	●	●	●	●



カテゴリ ナンバー	名称	数	使用 想定 人数	大きさ	大きさ 合計	コ ン プ ラ イ ト 認 定	使用 カテ ゴリ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源	
14	Stadium media centre(SMC)																		
14.18	SMC ロッカー (決勝)	1	300	14.01 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス	フォトグラファーの移動用トレイに対応できる大きさ	●	●		●	●	●	●	●	
14.19	SMC ロッカー (その他)	1	200	14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス	フォトグラファーの移動用トレイに対応できる大きさ	●	●		●	●	●	●	●	
14.20	プレス・エージェン ト・オフィス	未定		14.01 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス	スタジアム・メディア・センター 10,000 m ² のうち3,000 m ² を確保	●	●		●	●	●	●	●	
14.21	ペンディング・マシ ン	未定		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス		●	●		●	●	●	●	●	
14.22	運送デスク	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス		●	●		●	●	●	●	●	
14.23	FIFA メディア・チャ ンネル	1	5	50		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス		●	●		●	●	●	●	●	
14.24	メディア用具室	未定		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メインスタンドに設置		●	●		●	●	●	●	●	
14.25	テレコム・パート ナー・オフィス	1		14.01/14.02 に含む		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス		●	●		●	●	●	●	●	
14.26	編集オフィス	1	5	400		7	メディア	SMC	メディア・エリア、フィールドへのアクセス	400 m ² を確保	●	●		●	●	●	●	●	
15	FIFA media areas																		
15.01	オフィス (SMC 1)	1	12	48	48	7	メディア	メインスタンド	FIFA オフィスエリア (SMC の一部)		●	●		●	●	●	●	●	
15.02	オフィス (SMC 他)	1	8	32	32	7	メディア	メインスタンド	FIFA オフィスエリア (SMC の一部)		●	●		●	●	●	●	●	
15.03	コピーエリア			15.02 に含む		7	メディア	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.04	SMC ミーティング ルーム (決勝)	1	20	80	80	7	メディア	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.05	SMC ミーティング ルーム (決勝/その他)	2	30	120	240	7	メディア	メインスタンド		決勝会場には 10 人用/20 人用の 2 つのミーティングルーム。その 他会場は 20 人用を。	●	●		●	●	●	●	●	
15.06	FIFA.com オフィス (決 勝)	1	120	600	600	7	NEW Media	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.07	FIFA.com オフィス (そ の他)	1	5	25	25	7	NEW Media	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.08	NEW info	1	5	20	20	7	メディア	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.09	インフォメーショ ン・サービス	1	5	20	20	7	メディア	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.10	IT オフィス	1	3	15	15	7	マッチIT	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
15.11	IT 用具室	1		15	15	7	マッチIT	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●	
16	Broadcast compound																		
16.01	放送コンパウンド	1	未定	5,000	5,000	8	マーケティング /TV	メインスタンド 裏	メインスタンド裏のスタジアム外周			●		●		●	●	●	



カテゴリ ナンバー	名称	数	使用 想定 人数	大きさ	大きさ 合計	EPA 認定	使用 カテ ゴリ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	インターネット 回線	電 源
17	Broadcast areas																	
17.01	実況解説コントロール・ルーム	1	20	80	80	8	マーケティング /TV	メインスタンド	メディア・エリアの放送席の隣		●	●		●	●	●	●	●
17.02	アナウンサー台	4	4	8	32	8	マーケティング /TV	メインスタンド				●		●	●	●	●	●
17.03	レート・カード・テクニカルエリア	1	2	10	10	8	マッチ	メインスタンド				●		●	●	●	●	●
18	Camera positions																	
18.01	カメラ1	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	センターライン/ メインスタンド	メディア・エリア/放送コンバ ウンド		●			●				
18.02	カメラ2	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	カメラ1の隣			●			●				
18.03	カメラ3&4	2	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	16mライン				●		●				
18.04	カメラ5&6	2	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	ゴールライン/メ インスタンド			●			●				
18.05	カメラ7&8	2	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	ゴール裏				●		●				
18.06	カメラ9	1	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	センターライン/ ピッチ			●			●				
18.07	カメラ10	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	南スタンド上				●		●				
18.08	カメラ11	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	北スタンド上		開幕、3位決定戦、決勝のみで使用。		●		●				
18.09	カメラ12&13	2	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	ゴール横/ピッチ				●		●				
18.10	カメラ14	1	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	ゴール裏クレー ン				●		●				
18.11	カメラ15	1	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	ゴール裏クレー ン				●		●				
18.12	カメラ16&17	2	1	2×3m	6	1	マーケティング /TV	ピッチ			●			●				
18.13	カメラ18	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	上部ピッチ逆ア ングル			●			●				
18.14	カメラ19&20	2	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	控えベンチア ングル			●			●				
18.15	カメラ21	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	カメラ9の反対 側			●			●				
18.16	カメラ22	1	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	メインスタンド プラットフォーム			●			●				
18.17	カメラ23&24	2	1	2×3m	6	3	マーケティング /TV	選手付きカメラ				●		●				
18.18	カメラ25	1	1	2×3m	6	8	マーケティング /TV	東西斜め方向ア ングル				●		●				



カテゴリー ナンバリー	名称	数	使用 想定 人数	大 き さ	大 き さ 合 計	工 料 認 定	使 用 カ テ ゴ リ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
18 Camera positions																		
18.19	一方向カメラ・ポジ ション(センター・レフ ト)	1	1	2.5×10	25	3	マーケティング /TV					●		●				
18.20	一方向カメラ・ポジ ション(センター・ライ ト)	1	1	2.5×10	25	3	マーケティング /TV					●		●				
18.21	一方向カメラ・ポジ ション(ゴール・レフト 1)	1	1	2.5×5	12.5	3	マーケティング /TV					●		●				
18.22	一方向カメラ・ポジ ション(ゴール・ライ ト)	1	1	2.5×5	12.5	3	マーケティング /TV					●		●				
18.23	一方向カメラ・ポジ ション(フィールド・レ フト1)	1	1	2.5×12	30	1	マーケティング /TV					●		●				
18.24	一方向カメラ・ポジ ション(フィールド・レ フト2)	1	1	2.5×9	22.5	1	マーケティング /TV					●		●				
18.25	一方向カメラ・ポジ ション(フィールド・ラ イト1)	1	1	2.5×12	30	1	マーケティング /TV					●		●				
18.26	一方向カメラ・ポジ ション(フィールド・ラ イト2)	1	1	2.5×9	22.5	1	マーケティング /TV					●		●				
18.27	一方向カメラ・ポジ ション(リザーブ・レフ ト)	1	1	2.5×5	12.5	3	マーケティング /TV					●		●				
18.28	一方向カメラ・ポジ ション(リザーブ・ラ イト)	1	1	2.5×5	12.5	3	マーケティング /TV					●		●				
19 Spectator area																		
19.01	コマースナル・ディス プレイ(パートナー)	6	未定	200	1,200	3	マーケティング	スタジアム周辺				●		●				
19.02	コマースナル・ディス プレイ(サポーター)	8	未定	100	800	3	マーケティング	スタジアム周辺				●		●				
19.03	コマースナル・ディス プレイ(サブライヤ ー)	6	未定	50	300	3	マーケティング	スタジアム周辺				●		●				
19.04	コマースナル・ディス プレイ(開催地)	1	未定	100	100	3	マーケティング	スタジアム周辺				●		●				
19.05	コマースナル・ディス プレイ(LOC)	1	未定	100	100	3	マーケティング	スタジアム周辺				●		●				
19.06	ATM	最低 1				3	マーケティング	スタジアム内	メディアセンター(決勝・準決 勝)		●	●		●		●	●	
19.07	オフィシャル・ライセ ンス・プロダクト(A)	6 -10	未定	6×3	18	3	マーケティング	スタジアム内		サイズ/量はイベントによる。	●	●		●		●	●	



カテゴリー ナンバリー	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	COV認定	使用カテゴリー	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源
19 Spectator area																		
19.08	オフィシャル・ライセンス・プロダクト (B)	6 -10	未定	10×5	50	3	マーケティング	スタジアム内		サイズ/量はイベントによる。	●	●		●		●	●	
19.09	オフィシャル・ライセンス・プロダクト (C)	6 -10	未定	10×15	150	3	マーケティング	スタジアム内		サイズ/量はイベントによる。	●	●		●		●	●	
20 Ceremonies																		
20.01	出演者更衣室					4	試合関係者	メインスタンド ピッチ通用口(トンネル)	ピッチへの一般通用口からは離して設置。選手通用口トンネル近く。	セレモニーに必要な設備等はセレモニーの概要が決まるまで未定。開幕・決勝には5つ以上の追加のカメラポジションが必要になる。	●	●		●	●	●	●	●
20.02	セレモニー参加者待機エリア					4	試合関係者	メインスタンド ピッチ通用口(トンネル)	ピッチへの一般通用口からは離して設置。選手通用口トンネル近く。		●	●		●				
20.03	セレモニー参加者更衣室					4	試合関係者	メインスタンド ピッチ通用口(トンネル)	ピッチへの一般通用口からは離して設置。選手通用口トンネル近く。		●	●		●	●			
20.04	倉庫					4	試合関係者	メインスタンド ピッチ通用口(トンネル)	ピッチへの一般通用口からは離して設置。選手通用口トンネル近く。		●	●		●				
21 Accreditation centre																		
21.01	AD センター				150						●	●		●				
21.02	-セキュリティデスク	1		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外	セキュリティ-外部		●	●		●	●	●	●	●
21.03	-待機エリア	1		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.04	-受付デスク	1		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.05	-フォトグラファー・デスク	4		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.06	-プリント・ステーション	1		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.07	-オフィス	3		21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.08	-ラウンジ/飲料			21.01 に含む		該当なし	LOC	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
21.09	-IT オフィス			15	15	該当なし	マッチ IT	スタジアム入口外			●	●		●	●	●	●	●
22 Public address systems																		
22.01	音響コントロール室	1	3	20	20	4	LOC	VOC	セキュリティエリア		●			●	●	●	●	●
22.02	セキュリティ・ルーム	1	30	50	50	4	LOC	VOC	緊急車両エリア		●			●	●	●	●	●
23 Service compounds																		
23.01	マーチャンダイズ用倉庫	1	20	500	500	4	LOC	建物裏	一般通用口から離して設置	高さを最低 4.8m 確保		●		●				
23.02	ボランティア休憩エリア	1	200	400	400	4	LOC	建物裏			●			●	●	●	●	



カテゴリ ナンバー	名称	数	使用 想定 人数	大 き さ	大 き さ 合 計	工 事 認 定	使 用 カ テ ゴ リ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
23 Service compounds																		
23.03	セキュリティー集合 エリア	1	未定	未定	未定	4	LOC	建物裏				●		●				
23.04	廃棄物除去	1	未定	未定	未定	未定	LOC	建物裏			●	●		●				
23.05	オフィシャル売店	未定	未定	未定	未定	9	マーケティング	建物裏		理想的には現場近くの保冷库と 当保冷库が 50%ずつになるよ うに確保。	●	●		●		●	●	
23.06	飲食物保冷倉庫（スポ ンサー商品）																	
23.07	バックアップ電源		未定	未定	未定	未定	未定	建物裏			●	●		●				
24 Signage LOC																		
24.01	オフィス	未定	未定	未定	未定	4	LOC	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●
24.02	倉庫	未定	未定	未定	未定	4	LOC	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●
24.03	作業エリア	未定	未定	未定	未定	4	LOC	メインスタンド			●	●		●	●	●	●	●
25 Parking facilities																		
25.01	チーム/コーチ車寄せ	2				2	試合関係者	メインスタンド	メインスタンド下、もしくは近 くでミックス・ゾーン近く	最低 4.8mの高さを確保。	●			●				
25.02	チームバス駐車エリ ア	2				2	試合関係者	メインスタンド	メインスタンド下、もしくは近 くでミックス・ゾーン近く	8 台分の駐車場	●			●				
25.03	VIP 車寄せ	2				2	試合関係者	メインスタンド	メインスタンド下、もしくは近 くでミックス・ゾーン近く		●			●				
25.04	VVIP 車寄せ	1				5	プロトコル	メインスタンド	メイン・エントランス	所定の経路で直接VIPラウンジに 通じていること。	●			●				
25.05	VIP 駐車エリア（グル ープマッチ）	150				5	プロトコル	メインスタンド			●			●				
25.06	VIP 駐車エリア（開 幕・決勝）	200				5	プロトコル	メインスタンド			●			●				
25.07	VIP バス駐車エリア （グループマッチ）	200				5	プロトコル	メインスタンド				●		●				
25.08	VIP バス駐車エリア （開幕・決勝）	300				5	プロトコル	メインスタンド				●		●				
25.09	スポンサー関係者駐 車エリア（準々決勝）	車 100 バス 80				9	ホスピタリティ	メインスタンド 入り口近く				●		●				
25.10	スポンサー関係者駐 車エリア（ホスト国）	車 100 バス 80				9	ホスピタリティ	メインスタンド 入り口近く				●		●				
25.11	スポンサー関係者駐 車エリア（準決勝）	車 100 バス 80				9	ホスピタリティ	メインスタンド 入り口近く				●		●				
25.12	スポンサー関係者駐 車エリア（開幕・決勝）	車 200 バス 200				9	ホスピタリティ	メインスタンド 入り口近く				●		●				



カテゴリ	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	ICV認定	使用カテゴリ	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源
25	Parking facilities																	
25.13	スポンサー・ホスピタリティ駐車エリア(準々決勝)	車400 バス5				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.14	スポンサー・ホスピタリティ駐車エリア(準々決勝)	車800 バス15				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.15	スポンサー・ホスピタリティ駐車エリア(準決勝)	車800 バス15				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.16	スポンサー・ホスピタリティ駐車エリア(準々決勝)	車1000 バス20				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.17	スポンサー・ディスプレイ	未定				9	マーケティング	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.18	オフィシャル・パートナー駐車エリア(グループマッチ)	25				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.19	オフィシャル・パートナー駐車エリア(準々決勝)	30				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.20	オフィシャル・パートナー駐車エリア(ホスト国・グループマッチ)	40				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.21	オフィシャル・パートナー駐車エリア(準決勝)	40				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.22	オフィシャル・パートナー駐車エリア(開幕・決勝)	50				9	ホスピタリティ	メインスタンド入り口近く				●		●				
25.23	FIFA 駐車エリア	50				4	LOC	スタジアム内	スタジアム内のメイン・エントランス近く		●			●				
25.24	LOC 駐車エリア	50				4	LOC	スタジアム内	スタジアム内のメイン・エントランス近く		●			●				
25.25	TV 中継車駐車エリア(開幕・準決勝・決勝)	250				未定	マーケティング/TV			中継エリア外		●		●				
25.26	TV 中継車駐車エリア(開幕・準決勝・決勝)	170				未定	マーケティング/TV			中継エリア外		●		●				
25.27	メディア駐車エリア(決勝)	200				未定	メディア			スタジアム・メディア・センター前にフォトグラファー車寄せ。		●		●				



カテゴリ ナンバ ー	名称	数	使用 想定 人数	大 き さ	大 き さ 合 計	コ ン プ レ ッ ト 認 定	使 用 カ テ ゴ リ	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	イ ン タ ー ネ ッ ト 回 線	電 源
25 Parking facilities																		
25.28	メディア駐車エリア (その他)	150				未定	メディア			スタジアム・メディア・センター 前にフォトグラファー車寄せ。		●		●				
25.29	メディア車寄せ	1		シャトルバ ス		未定	メディア		メディア関係者入口近く若し くはスタジアム・メディア・セ ンター近く		●		●					
26 Transport areas																		
26.01	エアポート						LOC											
26.02	鉄道駅						LOC											
26.03	コーチ車寄せ						LOC											
26.04	パーク&ライド						LOC											
26.05	観戦者駐車エリア						LOC											
27 Remote media centre																		
27.01	メイン・メディア・セ ンター	1	未定		10,000	7	メディア	会場外	エキシビジョンセンターのよ うな大きな純径間構造	当センターにて日々のメディ ア・ブリーフィングが行われ、主 要記者を収容する。	●	●	●	●	●	●	●	●
27.02	国際ブロードキャス ト・センター	1	未定		30,000	7	マーケティング /TV			できれば開幕戦が行われる開催 地に設置。	●	●	●	●	●	●	●	●
28 Official hotels																		
28.01	FIFA ホテル				40		LOC/マッチ	会場外	空港・スタジアムへの容易なア クセス		●			●				
28.02	チケットオフィス	未定		40	100		マッチ			詳細は文書で案内される。	●	●		●	●	●	●	●
28.03	チケットバックオフ イス	1		100			マッチ				●	●		●	●	●	●	●
29 Training venues																		
29.01	ピッチ	1		105×68		1/2/6	試合関係者	会場外	チーム滞在ホテルから20分以 内が理想		●		●					
29.02	更衣室	1	23	150	150	2	試合関係者	会場外		十分な広さを確保できない場合、 2つの更衣室を使用。	●	●		●	●	●		
29.03	シャワー	1	11			2	試合関係者				●	●		●				
29.04	観客席		未定				試合関係者				●	●		●				
29.05	記者室	1	未定	未定			試合関係者				●	●		●				
29.06	照明	1					試合関係者				●	●		●				
29.07	フェンス						試合関係者				●	●		●				
29.08	駐車場	未定					試合関係者				●	●		●				
30 Team base camps																		
30.01	チーム・ベース・キャ ンプ	未定				1/2/6	試合関係者	会場外		上記トレーニング場に準ずる								
31 Referees' hotel																		
31.01	審判ホテル	1	未定				適 用 外	会場外	セキュリティを考慮した場所 に設置									
32 LOC fan park																		
32.01	LOC ファン・サービ ス・エリア	未定	未定			5/9	マーケティング	人が集まる公共 スペース			●	●		●	●	●	●	●
33 LOC public viewing area																		
33.01	VIP エリア	未定				5/9	マーケティング	既存スタジアム										



カテゴリ ナンバリー	名称	数	使用 想定 人数	大きさ	大きさ 合計	COV 認定	使用 カテ ゴリー	場 所	関 係 施 設	備 考	常 設	仮 設	共 有	専 用	空 調	電 話 線	インターネット回線	電 源	
34	Scoreboards and video screens																		
34.01	スコアボード/ビデオスクリーン	未定				適 用 外	LOC	メイン/バックスタンド	どの席からも見える位置に設置		●	●		●		●	●	●	
35	Flagpoles																		
35.01	スタジアム外装掲揚台	未定				3	試合関係者			FIFA/大陸/国/国連/IOC の旗も掲揚の場合あり。	●	●		●					
36	Ticketing centre																		
36.01	受付デスク	1	未定	未定			マッチ			スタジアム/FIFA ホテル外に設置のもの。	●	●		●	●	●	●		
36.02	フロント・オフィス (グループマッチ/ラウンド16)	1	20	50	50		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.03	フロント・オフィス (準々決勝・準決勝)	1	30	70	70		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.04	フロント・オフィス (開幕・決勝)	1	40	100	100		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.05	待機列(グループマッチ/ラウンド16)	1	75	120	120		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.06	待機列(準々決勝・準決勝)	1	100	150	150		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.07	待機列(開幕・決勝)	1	150	200	200		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.08	トラブル対応エリア	1	10	12	12		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.09	バック・オフィス(グループマッチ/ラウンド16)	1	5	25	25		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.10	バック・オフィス (準々決勝・準決勝)	1	10	40	40		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.11	バック・オフィス(開幕・決勝)	1	10	40	40		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.12	開催スタジアム・マネージャー・オフィス	1	2	30	30		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.13	ミーティングルーム	2	10	30	60		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.14	保管庫			37.04に含む			マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.15	休憩エリア	1	10	30	30		マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
36.16	自動販売機	37.04に含む					マッチ				●	●		●	●	●	●	●	
37	Volunteers' centre																		
37.01	レセプション・デスク	1	25	40	40		LOC	スタジアム外			●	●		●	●	●	●	●	
37.02	オフィス	4	2	12	48		LOC				●	●		●	●	●	●	●	
37.03	ボランティア・エリア	1	250	250	250		LOC				●	●		●	●	●	●	●	



カテゴリ ナンバリー	名称	数	使用想定人数	大きさ	大きさ合計	CO2 VLA認定	使用カテゴリ	場所	関係施設	備考	常設	仮設	共有	専用	空調	電話線	インターネット回線	電源
38	IT technical areas																	
38.01	プライマリー・テクニカル・エリア1	1		30	30		マッチ IT				●	●		●	●	●	●	●
38.02	プライマリー・テクニカル・エリア2	1		30	30		マッチ IT				●	●		●	●	●	●	●
38.03	セカンダリー・テクニカル・エリア	未定		10	10		マッチ IT				●	●		●	●	●	●	●
39	Others																	
39.01	中央ロジスティック倉庫	未定		100	100		マッチ IT				●	●		●	●	●	●	
40	Venue ticket process centre																	
40.01	開催スタジアム・チケット処理センター	1	20	200-300	300		マッチ				●	●		●	●	●	●	●
40.02	バック・オフィス	1	5	42.01に含む			マッチ				●	●		●	●	●	●	●
40.03	バック・オフィス保管庫	未定		42.01に含む			マッチ				●			●				
41	Main ticket process centre																	
41.01	多言語対応コールセンター	1	8	40	40		マッチ				●	●		●	●	●	●	●
41.02	チケット・オペレーション・センター（一般用）	1	未定	100	100		マッチ				●	●		●	●	●	●	●
42	Ticketing kiosk in airports																	
42.01	空港チケット売店	1		20	20		マッチ			所定の空港に設置								

FIFA ワールドカップに必要な諸施設・機能は、大会毎に規定されており、必要な諸施設・機能も変わる場合があります。従って、ここに記載した「FIFA World Cup™ 規定」は、今後の大会において全て適応するとは言えませんのでご注意ください。

スタジアム標準

サッカースタジアムの建設・改修にあたってのガイドライン

2010.3.31 発行

財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り（本郷 3-10-15）JFA ハウス

TEL：03-3830-2004（代表） URL：<http://www.jfa.or.jp/>

写真：Jリーグフォト株式会社



財団法人 日本サッカー協会